

3 川越・張群會談

49 昭和11年9月5日 有田外務大臣より
在中国川越大使宛(電報)

成都事件解決交渉開始方訓令

別電 昭和十一年九月五日發有田外務大臣より在

国川越大使宛第二二四號

成都事件解決交渉において中国政府に要求す

べき事項

本省 9月5日發

第二二三號

成都事件交渉要領別電第二二四號(同電ニ對スル補足事項
往電第二二五號ノ通)ノ通り決定セルニ就テハ貴大使ハ速
ニ赴寧ノ上國民政府トノ交渉ヲ開始セラレ度シ

別電ト共ニ北平、在支各總領事、厦門、重慶へ轉電セリ

(別電)

本省 9月5日發

第二二四號

ナルニ依リ根本的解決方法ノ一トシテ茲ニ左記ヲ要求ス
(1)國民政府ハ一切ノ排日ヲ根絶セシムベシ
(2)國民政府ハ國民黨部其ノ他如何ナル團體タルヲ問ハズ
其ノ一切ノ排日的策動ノ禁絶方ニ付其ノ責ニ任ズベシ
(3)事件自體ノ解決

(一)陳謝

(イ)國民政府

(ロ)四川省政府

(ニ)責任者ノ處罰

(イ)公安局長及警備司令

(ロ)其ノ他ノ責任者

(三)犯人及連累者並ニ煽動者ノ嚴罰

(四)賠償

(イ)死亡者ニ對スル弔慰金

(ロ)負傷者ニ對スル治療費、見舞金

國民政府ハ其ノ責任ヲ以テ在成都帝國總領事館ノ再開ニ
對スル一切ノ支障ヲ最モ速ニ排除スベシ

(甲)

(一)在成都帝國總領事館ニ就テハ從來何等問題ナカリシ次第
ナル處七月下旬南京中央社電ハ突如再開反對ノ報道ヲ爲
シ次テ外交部ヨリ反對ノ意向ヲ表示シ其ノ結果南京上海
ノ各新聞紙ハ一齊ニ再開反對ノ氣勢ヲ擧ゲ右宣傳ハ漸次
現地タル四川方面ニ波及シ今回ノ不祥事件ノ發生ヲ見ル
ニ至レル次第ニシテ今次事件ノ直接ノ導火線カ南京ニ在
リタルハ蔽フベカラザル事實ナリ

國民政府ハ曩ニ邦交敦睦令ヲ公布シ排日取締方屢次言明
スル所アリタルニ拘ラズ今次自ラ排日運動ヲ使噉シ遂ニ
稀有ノ不祥事件ヲ惹起スルニ至ル此レ邦交敦睦令等ノ精
神ヲ政府自ラ蹂躪シ屢次言明ニ對スル不誠意ヲ暴露シタ
ル次第ニシテ兩國國交調整ノ將來ニ重大ナル暗翳ヲ投ゼ
ルモノナリ

依テ帝國政府ハ國民政府自ラ本件ニ關スル重大ナル責任
ヲ反省自覺シ誠意ヲ披瀝シテ自ラ前記暗翳ヲ一掃スルノ
措置ニ出デンコトヲ要求ス

(二)今次事件ハ其ノ導火線ガ南京ニ在リタルハ前項ノ通りナ
ルモ他方排日運動依然トシテ熾ナルコトヲ實證スルモノ

50

昭和11年9月5日 有田外務大臣より
在中国川越大使宛(電報)

成都事件解決交渉における留意事項につき訓令

本省 9月5日發

第二二五號

往電第二二四號交渉要領ニ對スル補足事項

(一)同電(一)ノ趣旨ハ成都事件ノ發生カ全然南京政府ノ責
任ナルコトヲ強ク印象セシムルト共ニ自ラ投シタル暗
翳ヲ除去スル爲ニハ重大ナル決意ヲ爲シ具體的事項ヲ
實行スルコトニヨリ誠意ヲ示シ自ラ與ヘタル疑惑ヲ氷
解スルノ必要アルコトヲ力説シ右趣旨ヲ先ツ原則的ニ
承認セシメントスルモノナリ

(ロ)本項ハ支那側ヲシテ誠意披瀝ノ具體的方法ヲ自ラ攻究
申出デシムル建前ナルモ我方トシテハ右誠意披瀝ノ具
體的方法トシテ

(a)重要懸案(例ヘバ上海福岡間航空連絡、臺灣福州廣
東間航空連絡、輸入税引下ゲ等)ノ即時解決

(b)或ハ更ニ進ンデ北支問題ノ解決(對支實行策ニ準據

- (二) 國民黨部ハ從來排日策動ノ根源ニシテ最近ニ於テモ各地黨部ノ排日策動顯著ナルモノアリ從テ黨部解消ヲ要求スルモ敢テ失當ナラスト思惟セルモノ一先ツ黨部ノ策動ハ政府ニ於テ責任ヲ負フヘキモノナル點ヲ確認セシメ黨部ノ排日策動ヲ政府ノ責任トシ飽ク迄之ヲ追窮スルノ素地ヲ作ル見地ヨリ本項要求ヲ提出スル次第ナリ
- (甲)(1)及(2)ノ實行振監視及我方ノ決意表示ノ爲日支共同排日行爲調査監視委員會ノ設立方要求スベシトノ議出デタルモ結局左記ノ通り口頭聲明スルコトセルニ付右御含ノ上善處セラレ度
- 「我方ハ以上各項ノ具體的措置ニ對スル實績ヲ監視スル爲特ニ我方ニ於テ常設的機關ヲ設ケ徹底的調査監視ニ當リ必要ニ應ジ警告スベク若シ支那側ニ於テ右我方調査ノ結果ニ基ク警告ヲ顧ミズ前記約束ニ依ル責任ヲ回避スルガ如キ場合ニハ我方トシテハ自衛ノ爲必要ナル手段ヲ講ズベシ」
- (三)(イ)本件交渉ニ當リテハ根本的解決(甲)ニ重キヲ置キ、事件自體(乙)ノ解決條件ハ酷ニ失セザル様考慮セリ
- (ロ)陳謝ハ文書ニ依リ(イ)外交部長(ロ)ハ四川省政府首席ヲ豫

- 想ス
- 尙省政府ノ陳謝内容ハ中央ニ於テ協定シ省政府首席ヨリ在重慶帝國領事宛トス尤モ省政府首席ヨリ直接重慶宛送付スルモ南京ヲ經由スルモ差支ナシ
- (イ)責任者ノ處罰中公安局長及警備司令ニ付テハ其ノ罷免ヲ豫想ス
- (ニ)其他ノ責任者トハ大體公安局長及警備司令ノ部下及之ニ類スル當面ノ責任者ヲ意味ス其ノ認定ハ大體支那側ニ委セ差支ナシ
- (ホ)犯人等ノ處罰ニ付テモ我方トシテハ調査困難ナルヲ以テ大體支那側ノ誠意ヲ認定シ得ル程度ニテ可ナリ
- (ヘ)賠償額ハ未ダ決定セザルモ死亡者一人大體三、四萬元程度又負傷者一人宛見舞金ハ死亡者弔慰金ノ一割程度(治療費、負傷ニヨル休業、掠奪等ニ依ル損害額ハ別トス)ノ心組ナリ
- (四)在成都帝國總領事館ノ再開ハ我方當然ノ權利ニシテ支那側ニ對シ此ノ際改メテ承認ヲ求ムル要ナキ次第ナリ依テ本件要求ニ於テハ支那側ガ再開ニ對スル事實上ノ一切ノ支障ヲ責任ヲ以テ最モ速ニ排除センコトヲ要求スルコト

- ス)等ノ話合ニ入ラシムル様支那側ヲ誘導スル腹案ナリ
- 尙誠意披露ノ具體的方法ハ必ズシモ前記(a)(b)ニ限ラザルモ要ハ本件成都事件ヲ以テ日支國交調査ノ方向ニ利用セントスルコト本項ノ趣旨トスル所ナリ
- (イ)前記誠意披露ノ具體的方法ヲ要求條項トスルニ於テハ交渉徒ニ遷延スルノ虞アルヲ以テ特ニ要求條件トハセズ事實上ノ交渉ニ於テ前記(甲)ニ依ル抽象の原則ヲ實證スル爲ニハ具體的ニ誠意ヲ表示スル必要アリトノ建前ヨリ本項具體問題ニ入り交渉ノ狀況其ノ他ニ顧ミ適當ノ處ニテ具體的問題ニ關スル交渉ヲ打切り得ル様配慮セル次第ナリ
- (二)(甲)ノ抽象的要求ハ成都事件解決交渉ノ中樞ヲナスモノナルヲ以テ之ヲ第一ニ掲ケタルモ直ニ右抽象的要求ニ附隨シ前記(ロ)具體的問題ニ關スル交渉ニ入ル要ハナク具體的問題ニ關スル交渉ヲ後廻シトシ(甲)ニ次キ直ニ(甲)ニ乃至(乙)ノ交渉ニ入り其間適當ノ機會ヲ選ビ前記(ロ)具體的事項ノ交渉ニ入ルモ差支ナキ次第ナリ

- (一)(イ)今次事件ノ責任ガ南京政府ニアルハ冒頭往電(一)ノ通ニシテ事件ノ根本解決乃至將來ノ保障ヲ得ンカ爲ニハ排日ノ根絶ヲ期スルコト最モ肝要ナリ依テ(甲)ノ要求ヲナス次第ナリ
- (ロ)(甲)(1)具體的手段ハ支那側自ラ考究スヘシトノ建前ナルモ、結局(イ)排日禁止命令ノ徹底(ロ)排日團體ノ解散(ハ)一切ノ排日教科書ノ改訂(ニ)排日言論ノ取締(單ニ消極的取締ニ満足セス進テ日支關係調整ノ見地ニ立チ國民政府ニ於テ積極的ニ言論ヲ指導スルコト最モ肝要ナリ)等具體的事項ニ亘リ支那側ヲシテ實行方約束セシムル腹案ナリ
- (イ)尙邦人旅行ノ自由及安全保障(保護ニ名ヲ藉リ行動ノ自由ヲ束縛スルカ如キコトナク寧ロ民衆取締ニ遺憾ナキヲ期ス)不逞鮮人逮捕引渡シ其ノ他中山、蒼生事件即時解決(右ハ(甲)(一)ノ際ニモ言及シ得ヘシ)等ハ要求條件トシテ明記セサリシモ(甲)(二)ノ交渉ノ際特ニ言及アリ度シ(本項ヲ要求條件トセサリシハ條件ヲ餘リニ多岐ニ亘リ羅列スルコトハ結局要求條件ノ迫力ヲ弱ムル惧アルヲ以テナリ)

トセリ(尤モ本項ハ成都事件ノ解決ト切離スモ速ニ解決スル要アル次第ニ付右可能ノ場合ニハ單獨解決法差支ナシ)

51 昭和11年9月8日

在中国川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件解決交渉の予備的協議には応じない
よう須磨総領事へ指示について

上海 9月8日後発
本省 9月8日後着

第七四一號(極秘)

南京發本使宛電報第六七四號ニ關シ

本八日朝飛行機ニテ歸寧セル須磨ニ對シ豫備的交渉ノ建前ニテ高宗武等ヨリ會談ヲ申出テ來ルモ之ニ應セス本使赴寧迄一兩日主トシテ張群ニ對シ岩井ノ至急赴任ニ對スル支障除去方其ノ他ニ付折衝ヲ續クル様申聞ケ置キタリ
右爲念(本件發表セサルコトト致度シ)

52 昭和11年9月9日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

日中国交調整への中国側誠意披露の具体的方法として七項目を張群へ提示について

南京 9月9日前発
本省 9月9日前着

第六六一號(極秘)

本官發支宛電報

第六八一號

往電第六七五號ニ關シ

本八日高宗武來訪ノ際張群ニ於テモ本官ト會見希望ナル旨申出モアリタルニ付午後二時間餘ニ亘リ會談セル所左ノ通(高宗武及專員周隆庠^(譯)同席)

一、張ハ先ツ日本政府訓令ノ内容ヲ大體ニテモ非公式ニ承リ得ハ大使來寧ノ上ニ開カルヘキ會談ヲ容易ナラシムヘシトテ探リヲ入レタルニ對シ本官ヨリ何レ交渉ハ大使ニ於テ始メラルル譯故訓令ノコトハ其ノ際トスルコト可然唯支那側カ今次事件ハ要スルニ澎湃セル排日氣分ヲ鎮壓シ得サリシニ依リ生シタル大ナル穴ナレハ若シ蔣介石新政

府カ成立以來提唱セル國交調整力嘘ナラサルニ於テハ此ノ穴埋ヲ日本ヨリ申出ツル迄モナク自發的ニ爲スヘキコト當然故實ハ訓令ノ内容等質問セラルハ意外トスル所ナリ殊ニ張部長ハ就任以來調整ヲ主張セルモ何等ノ事實ヲ擧ゲ得サリシ點ニ於テ重大ナル責任ヲ免レス況ヤ今次事件ノ如キ大結果ヲ誘發シタルハ何トシテモ免ルヘカラサル中央政府ノ大責任故此ノ際進テ調整上ノ具體的事實ヲ自ラ達成スルコト必要ナリト力説セルニ

三、張ハ頗ル眞摯ノ態度ニテ緊張シ如何ニモ自發的ニ爲スコト理ノ當然ニシテ又效果的ナルヘク自分ハ民國十五年以來蔣介石ト共ニ日支國交調整ニ奔走シ之ヲ達成スヘキ野心ヲ抱ケハコソ湖北省政府主席ノ職ヲ擲ケタル次第ナリトテ縷々自己辯護ヲ爲シタル上先ツ調整ヲ爲スニモ御想像モアルヘキカ色々複雑セル部内ノ事情モアレハ此ノ際ハ兎モ角今次事件ノ解決ヲ速急ニ片付ケ然ル後徐ニ大局上ノ調整ヲ遂ケ度シト述ヘタル上事件解決ノ條件トシテ陳謝、處罰、賠償等進テ行ヒ度シト述ヘタリ

三、本官ヨリ今猶調整ヲ飽迄遷延セントスル從來ノ遣口ニハ引掛ラスト率直ニ述ヘ御申出ハ蔣介石カ行政院ニ與ヘラ

レタリト云フ誠心誠意ノ措置トハ思ハレス失望ニ堪ヘス然レ共口ヲ開ケハ合理的解決ニアラサレハ支那官民ハ自暴自棄トナルヘシト捨臺詞ヲ聞クハ心外千萬ナリト述ヘ果シテ誠意アリヤ大イニ疑アリト詰寄リタルニ

四、張ハ多少顔色ヲ變ヘ御話ハ尤モナルモ張北事件、冀東政府、内蒙問題、密輸問題等ヲ列ヘ擧ゲ是等ノ爲實ハ支那民心尙激成セラレ居ル際ナルヲ考慮アリ度ク又徒ニ支那ハ排日ナリト責ムルコトノミヲ爲サス其ノ原因ヲモ考ヘ寛容ナル態度ニ出テラレ度シト述ヘタルニ依リ本官ヨリ御懸念ノ如キ問題ハ今迄ノ支那ノ遣口ニテハ漸次多キヲ加フヘク何日ニナリテモ女々シキ責任逃レヲ事トセス大局上如何ニセハ日本ニ對シ誠意ヲ披露シ得ルカノ點ニ深く考慮ヲ致シ此ノ際勇敢ナル一大決心ヲ要スト力説シ忌憚ナク言ヘハ張ノ遣口ニテハ駭引ノミニ日ヲ送り大事ナ買物ヲ見逃ス結果トナルヘシト率直ニ述ヘタルニ張ハ餘程判リタル模様ニテ能ク了解セルニ付結局如何ナルコトヲ行フカ至當ナリヤト質問セリ

五、依テ本官ヨリ然ラハ率直ニ思付ヲ述ヘンカ支那トシテ進テ此ノ際爲スヘキコト多々アルヘキカ誠意ヲ披露スル意

味合ニテ少クトモ

- (一) 北支ニ對シ徹底セル特殊制度ヲ設クルコト
- (二) 防共施設ヲ實現スル爲日本ト協定スルコト
- (三) 航空ニ關シ日支合辦會社ヲ設立シ例ヘハ福岡、上海ヨリ事件發生地タル四川迄ノ航空路ヲ開設スルコト
- (四) 行政各部ハ勿論軍政機關ニモ日本顧問ヲ招聘スルコト
- (五) 通商ヲ改善スル意味ヨリ日支關稅協定ヲ復活シ又輸入稅率ノ低減ヲ行フコト
- (六) 事件ノ性質上成都ヲ開埠地トシ且四川省内經濟利權開發ニ關シ日本側ト合作スルノ制度ヲ確立スルコト
- (七) 政治犯人不引渡ノ原則等ヲ顧慮スルコトナク金九、金元鳳、李青天等ノ逮捕引渡ヲ實現スルコト(本件ニ付テハ七月二十六日ノ會見ニ於テ既ニ本官ヨリ強ク張ニ申入レタルニ張ハ考慮ヲ約シタル經緯アリ)
- 等ヲ進テ申出テタルルニ於テハ川越大使トノ交渉ヲ容易ナラシメ得ヘシト言ヘルニ一同謹聽シ各問題ニ付多少説明ヲ求メタル上張ハ兎モ角本日ノ會談ハ率直ニシテ眞劍自分モ極メテ有益ナリシト思考スト述ヘ慎重考慮ヲ約シタリ

前置シ左ノ通り會談セリ

- 一 張ヨリ前回ノ會談モアリ昨九日當地ニアル部長等ト相談モシ見タルカ何シロ蔣介石不在故何レモ決定ニ至ラサルカ支那側ヨリ此ノ際自發的ニ爲スヘキコト多々アリトノ御主張ハ尤モ乍ラ支那内部ニハ名狀スヘカラサル複雑ノ事情モアリ何トカ先ツ成都事件ヲ片付ケ後ノコトハ自分ヲ信賴シテ將來ニ廻サレ度シト述ヘタルニ依リ
- 二 本官ヨリ又ゾロ無誠意ナル言分ヲ聞クモノナリ委曲ヲ盡シテ其ノ不届ヲ責メソシナ氣持ナラハ此ノ上ノ話ハ打切ノ外ナシト言ヘルニ張ハ惡毒ク本當ニ政府モ其ノ積リナリヤト尋ネタルニ依リ本官ハ勿論本官ハ非公式乍ラ政府ノ意嚮ヲ含ミ會談シ居ルモノニシテ支那側ニテ死者ヘノ香奠ヲ出セハ今次事件ハ解決ナリト言フカ如キ理不盡ナル態度ニテハ大使モ來寧ノ要ナカルヘシト詰寄リタルニ張ハ然ラハ其ノ點ハ蔣介石トノ相談ハ要スルモ篤ト考フルコトトシ兎モ角前回本官ヨリ例示ノコトニ付御話シ度シト折レ別電第六九四號ノ通り會談セリ

上海ヘ轉報アリタシ

大臣、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東ヘ轉電セリ

大臣、北平、在支各總領事、厦門、重慶ヘ轉電セリ
上海ヘ轉報アリタシ

53 昭和11年9月10日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件解決を優先し国交調整への具体的誠意
披露は後とすべきとの張群提案を反駁について

南京 9月10日夜発
本省 9月10日夜着

第六七二號(極秘)

本官發支宛電報

第六九二號(至急)

往電第六八一號ニ關シ

本十日日本官發大臣宛電報第六六七號申入ノ爲張群ニ會見セル處(同席者前回通り)先ツ張ヨリ貴大使御來寧ハ今週中ナルヘキヤト尋ネ若シ來週ナラハ張ニ於テ一寸旅行シ度シト述ヘ(前回ハ黃郛見舞ノ爲赴滬シ度シト述ヘ居タルカ本日ノ印象ニ依レハ廣東位ニ赴ク爲ニアラスヤトモ思ハレタリ)之カ爲冒頭往電ノ續キトシテ本日は非共下相談ヲ致度シト

54 昭和11年9月10日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

日本側七項目提案に対する張群回答振りについて

南京 9月10日夜発
本省 9月11日前着

第六七四號(極秘)

本官發支宛電報

第六九四號(至急)

往電第六九二號ニ關シ

一 張ヨリ往電第六八一號ノ五ノ七項目ニ付一々考慮ヲ加ヘタル處(即チ本件ノ性質上成都ヲ開埠地トスヘシトノ御話ハ主トシテ外交部主管ニモアリ此ノ際判然申上ケ置キ度キ次第ナルカ支那ハ此ノ上開埠地ハ不平等條約撤廢ヲ心懸ケ居ル際ニモアリ増加スル意思モナキニ付全然御斷リ致度ク又四川省内經濟利權開發ノ御話モ此ノ事件ニ關聯セシメナハ如何ニモ舊時代ノ侵略外交ニ應シタルノ感モアリ又事實上日支關係明朗化セハ獨リ四川省ノミナラス何レノ所ニ於テモ合作ハ出來得ル次第ニモアリ之亦應諾シ難キモ其ノ他ノ事項ニ付テハ篤ト今後共相談ヲ續ケ

度シトテ左記ノ通り會談セリ

ニ、張ヨリ七項目中ノ(一)北支ニ對シ徹底セル特殊制度ヲ設クルコトニ付テハ支那側トシテ日本側ノ御提案ヲ待チ居ル次第ナルカ要スルニ(一)財政、金融ノ統一ヲ害セス(二)行政ノ統一ヲ害セス(三)主權ヲ損セサル程度ナラハ

何トカ話ヲ進メ度ク現ニ川越大使ノ御主張タル經濟合作ヲ實施シ得ル仕組ヲ作ルコトヲ眼目トスルニ於テハ欣然應諾ノ積リナリト言ヘルニ對シ本官ヨリ成ル程我方ノ提案ヲ求メラルルニ於テハ今直クニモ申出テ度キカ若シ防共施設等ニ關スル軍事協定ヲモ考慮スヘシトノ支那側ノ意思決定スルニ於テハ相談ニ應シ得ヘシト述ヘタルニ張ハ防共施設ニ關聯スル軍事協定締結方日本側ト相談シ見テ差支ナシト言ヘルニ依リ本官ヨリ曖昧ナル此ノ種ノ御話ニテハ駄目ニテ先ツ締結方ノ意思ヲ決定スルコト必要ニシテ其ノ上ニテ軍事専門家等ヲモ交ヘタル委員會ニテ細目ヲ協定スルコト然ルヘク要スルニ先ツ右様ノ支那側ノ意思決定ヲ承知シ度シト言ヘルニ張ハ今正式ニハ答ヘ得サルモ大体異存ナキ見込ナルカ然ラハ日本側ノ對北支策ハ如何ト執拗ニ尋ネタルニ付本官ヨリ北支五省ニ對シ

先ツ第一外交部ハ兎角考慮スヘシ等空言葉ヲ約束スルノミニテ時日ヲ遷延スル傾向アルハ豫々忿懣ニ堪ヘス要スルニ此ノ際事實上ノ支那側意思決定ヲ承知シ度キ次第ニテ殊ニ北支問題等ト又復裁好ク引懸ケントスル様子ナルカ其ノ手ハ喰ハスト詰寄りタルニ張ハ周章ノ体ニテ出來ルコトハ確實ナリト答ヘタリ(往電第六八三號參照)

四、七項目(四)ノ日本顧問招聘ノ件ニ付張ヨリ豫テ有田大臣ト會談セル通り日支間ノ空氣良クナリサヘスレハ自然日本顧問ヲ招キ度キ次第ナリト言ヘルニ依リ本官ヨリ之亦逃口上ニテ要スルニ例ヘハ南京市政府ノ如キ自治機關ニ技術顧問ヲ入ルルカ如キ所謂空氣トハ關係ナキモノモ少カラヌ又抑々空氣ヲ良クスル爲ニ顧問ヲ利用スルコト必要ナリト力説シ兎モ角最近ノ内日本顧問ヲ入ルヘキ意思決定ヲ要請スト述ヘ置キタリ

五、七項目(五)ノ通商改善ノ意味ヨリ關稅協定復活方ニ關シ張ハ財政部ノ反對著シク又事實第三國カ最惠國待遇ニ依リ均霑スルコトナリ且日本ニ輸入セララル支那品目少キ點ヨリモ當分復活ノ見込ナキカ輸入稅率ノ低減ニ付テハ外交部カ眞先トナリ立案中ニ付手間取ルヘキモ信賴アリ

少クモ客年唐有壬ヨリ開示セラレタル六項目ノ範圍ヲ下ラサル特別施設ヲ實現シ北支地域ヲ日滿支間ノ特殊地帶タラシムルコト眼目ナリト言ヘルニ張ハ所謂六項目ハ書物ニモアラス又五省トハ一寸大變ナリト答ヘタルニ依リ本官ヨリ客年十一月ニハ五省ニ六項目施行ヲ決意シ乍ラ蔣介石政府トナリタリトテ之ヲ肯セサルハ食言トモ言フヘク又事實眞ニ日支國交調整ヲ企テニハ當初ヨリ之ヲ實行シ日滿支間ノ完全ニシテ模範的ナル特殊地帶ヲ形成スルノ勇氣ナカルヘカラスト力説セルニ張ハ之ヲ傾聽シタル後然ラハ今後共下相談ヲ續クルコトトスヘシト言ヘリ

三、七項目中ノ(三)即チ航空ニ關シテハ張ヨリ日支合辦會社ノ設立ハ更ニ交通部當局等ヲシテ攻究ハセシムヘキモ先ツ見込ナク又四川迄ノ航空開設ハ餘リニモ成都事件ニ引懸ルコトナルヘキニ付是非共福岡、上海間ノ例ノ懸案解決ノコトニ折合ヒ實ヒ度ク唯七項目ノ主眼點ハ北支ニ關スル問題ノ解決ト思考スルニ付先ツ右根本重要問題ノ相談ヲ先ニシ度シト述ヘタルニ對シ本官ヨリ福岡、上海聯絡ニ付テハ曩ニ貴方ヨリ是非考慮スヘシトノ話アリシカ

度シト述ヘタリ

六、七項目ノ末項不逞鮮人引渡ニ付張ヨリ七月廿六日ニモ御話アリ其ノ當時既ニ公文ヲ以テ軍官學校等ニモ相談シタルニ二重國籍ナルコト不分明ノ者ノミニテ學校ニ於テハ入學前ニ日本側ト打合スル外良キ方法ナシトノ答ナリシカ猶折角ノ御趣旨ニ付考慮中ニテ唯金九、金元鳳、李青天等ノ引渡ニハ異存ナシト答ヘタリ(同席ノ高宗武ヨリ同人等ノ寫眞等一切ノ材料至急提出アリ度シト申出テタリ)

上海へ轉報アリ度シ
大臣、北平、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電セリ

55 昭和11年9月15日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

川越・張第一回會談實施について

別電一 昭和十一年九月十六日發在南京須磨總領事より

有田外務大臣宛第六九三號

國交調整への具體的誠意披露および排日禁絶を中国側に要求について

二 昭和十一年九月十六日発在南京須磨總領事より有田外務大臣宛第六九四号

日本側七項目提案をめぐる協議内容

南京 9月15日後発
本省 9月15日夜着

第六九二號

川越大使ヨリ

本使十五日約三時間ニ亘リ張群ト會談(須磨、清水、高宗武、邵毓麟、周專員同席)要旨別電^{編註}第六九三號乃至第六九六號ノ通

尙右會談ニ付テハ別電第六九七號ノ趣旨以外ハ新聞ニ發表セサルコトトセルニ付御含アリ度シ

別電ト共ニ支、北平、在支各總領事、厦門へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

編 注 別電第六九五号は第314文書。別電第六九六号および第

六九七号は見当らない。

(別電一)

南京 9月16日前発
本省 9月16日前着

第六九三號(極秘)

一、冒頭先ツ張ヨリ外交部長就任以來日支兩國々々交調整ニ努力シツツアル次第ヲ述ヘ今回ノ成都事件ニ對シ遺憾ニ堪ヘサル旨表示シタル後成都事件發生後政府ノ執リタル處置ニ付詳細説明ヲ爲シ本事件ノ發生ニ依リ兩國ノ大局ニ影響ヲ及ホサル様同情的態度ヲ以テ之カ解決ニ當ラレ度キ旨希望セリ依テ本使ハ帝國政府トシテハ成都事件ヲ以テ國民政府直接ノ重大ナル責任ト認メ居リ之ニ依リ兩國々々交調整ノ前途ニ一大影響ヲ投シタルモノト爲シ國民政府自ラ此ノ暗影ヲ除去スヘキコトヲ要求スト支宛貴電第二二四號(一)ノ趣旨ヲ告ケタリ

二、張ハ國交調整ハ本事件ノ有無ニ拘ラス努力スヘキコト素ヨリナレハ本事件ノ發生ニ當リ特ニ項目ヲ擧ケ之カ實行ヲ要求セラルルハ如何ナル理由ナリヤ元來國交調整ニハ兩國間ノ空氣ヲ好轉セシムルコト第一要件ト思惟スル處現在日本側ニテハ支那ノ排日空氣ヲ云々シ支那側ニテハ日本ノ北支那其ノ他ニ於ケル侵略ヲ恐ルル等ノ狀態ニテ

思フ様ニ國交ノ改善出來サル有様ナリト述ヘタルニ依リ本使ハ兩國間ノ空氣ヲ好轉セシムルニハ此ノ際支那側カ數多ノ懸案等ヲ解決シテ國民政府ノ誠意ヲ具體的ニ表スコト先決問題ナリ況ンヤ成都事件カ特ニ空氣ヲ惡化シタルコトハ何人モ否定スヘカラス而シテ右カ國民政府ノ責任ナル點ニ鑑ミレハ之ヲ緩和スル爲ニモ重大懸案等ノ解決ニ乗出スコトハ政府ノ逃ルヘカラサル責任ナリト強く反復申聞ケタルニ張モ遂ニ折レテ右ハ双方何レモ道理ノアルコトナレハ併行シテ努力シ度シト答ヘタルカ猶モ成都事件ノ解決ヲ先ニ爲シテハ如何ト未練ヲ出シタルニ付本使ハ事件其ノモノノ解決ノミニテハ絶對ニ不可ニシテ帝國政府ハ國民政府カ國交調整ノ誠意ヲ具體的ニ表示スルコトヲ茲ニ要求スルモノナリト強く申聞ケタリ

三、次テ排日禁絶問題ニ入り本使ヨリ排日取締ノ徹底ニ努力方強調シタルニ

(イ)張ハ政府トシテモ從來努力ヲ拂ヒ居レリト睦隣令並ニ行政院ノ各地方長官ニ對スル命令發出ノ次第ヲ述ヘ(同席ノ高宗武ハ須磨ニ對シ昨十四日蔣介石ハ軍事委員長トシテ各軍務當局ニ排日取締方嚴重密令セリト語

レリ)
(ロ)尙更ニ所謂排日教育ニ付テモ現ニ教育部内ニ教科書ノ審查委員會ヲ設ケ曩ニ政治會議ニ於テ決定セル方針ニ基キ教科書中ノ排日的事項ヲ是正シツツアリ
(ハ)排日團體ニ付テハ既ニ政府ノ命令ニテ解散セシメ現在存在スル筈ナシト述ヘタルニ依リ本使ハ排日ノ禁絶ハ今回ノ事件解決ニ關スル第二ノ要求ナル旨ヲ告ケ更ニ日本ノ要望スル所ハ從來ノ如キ單ナル命令ニ止マラス現實ニ之カ禁止ノ實績ヲ擧グルニアリト述ヘ
(ニ)尙排日問題ニ付テハ日本側ハ國民黨部ノ指導精神ヲ重視シ有力ナル一部ニテハ此ノ際黨部ノ解散ヲ要求スヘシトノ主張サヘアリタルカ少クモ黨部ノ排日行爲ニ關シテハ國民政府ニ於テ全責任ヲ負フヘキコトヲ要求スル旨ヲ告ケ排日團體ノ存在スルコトハ蔽フヘカラサル事實ニシテ政府ハ一層有效ナル措置ヲ執ル必要アル旨強調シタル處張ハ排日取締ハ政府トシテモ全ク賛成ナリト答ヘ但シ之カ實行ニ當リ日本側ノ要求ニ依リタルモノナルコト明カトナルトキハ却テ遣リ辛クナル惧アリト逃ヲ張りタルニ付本使ハ之カ實行ノ形式ニ付テ

ハ攻究スルコト素ヨリ差支ナキモ右ハ飽迄帝國政府ノ
要求ナリト駄目ヲ押シタリ
四本使ヨリ日支國交ノ根本的調整ニ關シテハ蔣介石トモ篤
ト懇談シ度キ旨希望シタルニ對シ張ハ之ヲ了承シ直ニ蔣
ニ之ヲ傳フヘシト答ヘタリ

(別電二)

南京 9月16日前發
本省 9月16日前着

第六九四號(極秘)
川越大使ヨリ

ハ往電第六九三號ニ次キ本使ヨリ國交調整ノ話合ヲ進ムル
要アル旨説得セルニ張ハ之ニ同意シ去ル十日須磨總領事
ヨリモ大體話アリタルカ何カ更ニ承ハルヘキ話アリヤト
切出シタルニ付同席ノ須磨ヨリ過日申入レタル七項目ノ
内二項目ノ實行ハ困難ナリト述ヘラレタルカ他ノ問題ニ
付今日直ニ話ヲ進メラレテハ如何ト言ヒタル處張ハ大體
往電第六六七號須磨ニ話シタルト同様ノ言ヲ繰返シ今日
兩國間最重要ニシテ且困難ナル問題ハ北支那問題ナルモ

ノナリト答ヘ本使ヨリ尙具體的ニ話ヲ進ムル様申出テ置
ケリ

三、次テ航空問題ニ付テハ張ハ右實行ハ原則上問題ナキモ北
支ノ自由飛行問題ヲ解決シ支那側ノ立場ヲ良クシ本件解
決ヲ容易ナラシムル様希望スル次第ナリト述ヘタルニ依
リ須磨ハ本件ヲ今尙北支航空問題ニ關聯セシムルカ如キ
ハ支那側ニ全然誠意ナキモノト見ルノ外ナク斯クテハ絶
對實行ノ望ナシト極メ付ケタルニ張モ實ハ自分モ本件ニ
付テハ北支航空問題ト切離シ解決スルコトニ努力中ニテ
目下關係方面ト相談中ナレハ更メテ其ノ結果ヲ御話致度
シト答ヘ本使ヨリ至急決定方要求シ置ケリ

四、成都開埠問題ニ付テハ張ハ全然希望ニ副ヒ難キ旨最初ヨ
リ強調シ本使及須磨ヨリ更メテ協議スヘキ旨要求シタル
モ張ハ絶對ニ不可ナリトテ容易ニ之ニ應セス一先ツ本件
ヲ打切りタリ

五、顧問招聘ニ關シテハ原則トシテ反對セサルモ其ノ時期カ
問題ニテ兩國間ノ關係改善セラレタル曉ニハ支那側ヨリ
進ンテ申出ツヘシト述ヘタルニ依リ須磨ハ政治ニ關係ナ
キ例ヘハ實業、交通、鐵道等各部ニ於ケル技術的顧問ノ

先ツ本件ニ關シ日本側ノ方策ヲ詳細承ハリ度ク夫レニハ
第一ニ原則ヲ協議シ次テ細部ノ問題ヲ攻究スルコトト致
度シト答ヘタリ

二、右ニ對シ須磨ヨリ防共施設ノ急務ナル點ヲ指摘シ其ノ決
心ヲ促シ更ニ客年何應欽ニ與ヘタル六項目ノ權限ヲ基礎
トシテ話ヲ進ムルコト可ナルヘキ旨ヲ告ケタル處張ハ自
分ノ言フ原則トハ日本カ北支ニ於テ如何ナル目的ヲ達セ
ントスルニアリヤノ意味ニシテ自分ノ觀測ニテハ日本側
ハ

(一)經濟合作ノ障礙ヲ除クコト(二)對露作戰ノ準備ヲ整フル
コトニアリト思惟スルカ如何ト問ヒ須磨ハ右ノ二點ハ勿
論重要ナルモ財政金融及交通等ヲ含ム行政ノ運行ノ點モ
重要ナル點ナリト述ヘタル處張ハ所謂六項目ナルモノハ
當時ノ思付ニ止マリ政府ノ正式決定ニアラス(須磨ヨリ
當時明確ニ蔣介石以下幹部カ決定セルモノナル點ハ證據
アリト反駁シ置ケリ)右ヲ更メテ取上クル必要ナク此ノ
際新ニ要綱ヲ作成スルモ差支ナキニアラスヤ唯支那側ト
シテハ自治政權、獨立政權ノ如キハ反對ニシテ主權及行
政ノ完整ノ範圍内ニ於テ具體案ヲ攻究スルヲ主張スルモ

如キハ何等時期ヲ顧慮スル必要ナク今日直ニ實行シ得ヘ
キモノナルヲ以テ早速實現ヲ期スヘキ旨主張シタル處張
ハ贊成ナリト答ヘタリ

六、關稅問題ニ付張ハ財政部ノ意嚮トシテ協定稅率ノ設定ハ
出來難キ旨本日孔祥熙ヨリ話アリ尤モ關稅引下ニ付テハ
財政部ニ於テ立案シ居ル旨ヲ述ヘ須磨ヨリ印度支那ニ關
スル佛支特惠關稅ノ例ヲ引キ協定稅率ノ出來サル筈ナシ
ト詰寄リタルモ張ハ財政部ノ問題ニシテ外交部トシテハ
極メテ困難ナリト答ヘ容易ニ變スル色ナシ

七、朝鮮人取締問題ニ關シテハ張ハ我方ノ申入ヲ聽キ右ハ極
メテ簡單ニシテ之カ實行ニ努力スヘキニ付詳細ハ須磨總
領事ト高司令長トノ間ニ於テ打合セラレ度シト述ヘタリ
(本十五日逮捕引渡ヲ受クヘキ重要不逞鮮人約三十名ニ
關スル事項及彼等ニ對スル支那政府庇護ノ事實等ヲ一ツ
書トシテ高宗武ニ提出シ置キタルニ對シ高ハ早速我方ノ
要求ニ應スル様手配方ヲ約セリ)

八、以上ニテ御訓令(一)ノ話合ノ發端ヲ着ケタル次第ナル
カ張ハ更ニ繰返シ北支問題ハ最重要ナルニ付充分協議致
度キ旨希望セリ

六、最後ニ本使ヨリ中山事件ノ速ナル解決ヲ爲ササルトキハ
事態益々惡化スヘク此ノ際急速ナル處置ヲ執ルヘキ旨要
求シタル處張ハ外交部ニ於テハ之迄モ隨分努力シ居ルモ
事件ハ司法關係ナル爲思フ様ニ涉ラス困却シ居ル次第ナ
リト種々陳辯セリ

56 昭和11年9月16日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

日本側七項目提案の経緯および今後の交渉の
進め方について

南京 9月16日後発
本省 9月17日前着

第六九九號(極秘)
川越大使ヨリ

一、支宛貴電第二二三號御訓電ニ接シ直ニ須磨ノ來滬ヲ求メ
内即チ成都開館問題ハ本件交渉ト切離シ至急實現方交渉
スルコトトシ(乙)ノ事件自體ノ解決條件ハ交渉ノ最後ノ段
階ニ至ル迄之ヲ持出ササルコトトシ(殊ニ北海事件ノ發
生セル今日同事件ノ調査完了後一齊交渉スルモ可ナリ)

付テハ一ツ書等ヲ以テ實行ヲ確約セシメテ
實際⁽³⁾ノ實行ハ(乙)ノ事件自體ノ解決後トスル等ノ方法ヲ考
慮シ遣ルコト必要ナルヘシ(福岡、上海間航空ニ付十一
月一日又ハ十二月一日實施ノコトトシテ即時調印シ實施
迄極秘トシ置クカ如キ又關稅引下ノ如キ技術的ニ時間ヲ
要スルモノニ付テハ原則的約束ニ止メテ實施ハ二、三箇
月後トスルカ如キ之ナリ)

四、今後ノ折衝ハ先方ノ折レ來ルヲ待ツ爲相當根氣良ク粘ル
必要アルコトハ勿論ナルカ北海事件ニ依ル重苦シキ空氣
ヲ利用シテ交渉ヲ促進スルコト肝要ナリト思考シ昨十五
日モ張群ニ對シ交渉ノ速ナル繼續ヲ迫リ置キタリ其ノ後
先方ヨリ我方申出ノ各事項ニ付テハ關係各部ト打合ヲ要
スルモノモアリ或程度ノ時間ノ餘裕ヲ戴キ度ク此ノ間相
當機微ナル關係モアリ旁高宗武ヲシテ須磨總領事ト聯絡
セシメテ促進ヲ計ルコトト致度キ旨申出テタルニ付大体
之ニ同意ヲ與ヘ置キタリ

支、北平、天津、廣東へ轉電セリ

交渉ノ主點ヲ專ラ御訓電(甲)ニ置キ且(甲)ノ(一)ノ中誠意ノ表
示ト追テ要請スヘキ具體的事項ニ付テハ貴電第二二五號
ニ御例示相成リタルモ先ツ御例示以外相當數ヲ提示シ置
クニアラサレハ支那側ヨリ値切ララルル俱アルニ付須磨ヲ
シテ本使來寧ニ先立チ内示的ニ往電第六八一號^(六六)ノ七事項
ヲ提示シテ至急實現ヲ要求セシメ置キタル次第ナリ

二、支那側トシテハ例ノ情報等ヲ綜合スルニ或程度迄我方申
出ヲ受諾スル外ナキコトハ觀念シ居ルモノト思ハルルモ
何トカ先ツ(乙)ヲ解決シ(甲)殊ニ具體的事項ノ實行ハ之ヲ有
耶無耶ニセントノ希望ヲ棄テス張群ハ十日須磨ニ對シ一
應各事項ノ研究ヲ約シ居ルニ拘ラス昨十五日日本使ニ對シ
猶モ(乙)ノ詮議方ヲ申出テ見タル様ノ次第ナリ我方トシテ
ハ飽迄此ノ點ハ突撥ネ少クトモ既ニ提示セル七事項中主
要ナルモノニ付國民政府ノ確定的意嚮ヲ表示セシメ得ル
迄(乙)ノ交渉ニ入ルヲ避ケ度キ所存ナリ

三、尤モ支那側トシテハ今次事件ニ對スル要求トシテ是等具
体的事項ノ實行ヲ強要セラレタリトノ外觀ヲ呈スルコト
ハ對内關係ヨリモ堪ヘ得サル所ナルヘク我方トシテモ右
蔣介石以下國民政府當局者ノ面子ヲモ考慮シ或種事項ニ

57 昭和11年9月24日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

川越・張第二回会谈実施について

別電 昭和十一年九月二十四日發在南京須磨總領事

より有田外務大臣宛第七三九號

日本側提案に対する中国側回答および対案と
しての対日要求五項目

南京 9月24日前發
本省 9月24日前着

第七三八號(至急、極秘)
往電第六九二號ニ關シ

川越大使ヨリ

本使二十三日午後三時半ヨリ張群ト會見(須磨、清水、高
宗武、邵毓麟、周。隆。庠。同席)約三時間半ニ亘リ會談ヲ遂ケ
タルカ先ツ張ヨリ前回打合ノ各事項ニ付研究シタル結果ヲ
申述ヘ度シトテ特ニ書物ヲ取出シ態ト邵ヲ通譯トシ別電第
七三九號ノ如ク申出テタルニ依リ右全部ヲ聞キ終リタル後
一、本使ヨリ今日ノ會談ハ前回ノ會談ニ引續キ且豫テ高司長
及須磨トノ間ニ打合セタル事項ヲ基礎トシテ話ヲ進ムル

第七三九號(至急、極秘)
貴大使力來寧セラレタルハ國交調整ノ外成都事件解決ノ爲
モアルヘキニ付

(別電)

南京 9月24日前発
本省 9月24日前着

拘ラス隱忍ニ隱忍ヲ重ネ大使始メ非常ナル苦心ヲ以テ其
ノ解決ヲ期シ居ル次第ナルニ今日ノ如キ話ニテハ政府ニ
報告スラ出来難キ重大ナル結果ヲ招クコトヲ覺悟セラレ
居ルヤト痛烈ニ詰責セルニ張ハ政府ノ訓令ヲ仰カサレハ
自分一己トシテ取計ヒ難シト答ヘタリ茲ニ於テ本使ハ支
那側カ政府ノ訓令ヲ仰カサレハ右要求事項ヲ撤回シ得ス
ト言フ以上今日ハ之ニテ話ヲ打切ルノ外ナシト告ケ直ニ
引揚ケタリ
歸ルニ臨ミ高司令長ハ頻リニ須磨ニ継リ種々有メ賺サント
シタルカ一言ノ下ニ之ヲ撥付ケ置キタリ
支、北平、在支各總領事、厦門へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

コトト思惟シ居リシニ只今ノ話ニテハ一步モ進展ヲ見サ
ル次第ニテ極メテ遺憾ナリト述ヘタル上
(イ)防共ニ贊成ノ意ヲ表シ國策ノ轉換ヲ爲シタリト言ヘル
ハ結構ナルモ其ノ地域ヲ一局部ニ限ルカ如キハ全ク意
味ヲ爲サス右ハ宜シク支那ニ於ケル全面的赤化防止ノ
爲トシ南京ニ日支兩國ノ委員會ヲ組織シ協議スヘシ
(ロ)北支問題ノ解決ニ關シ支那ノ主權及領土ヲ尊重スルコ
トハ素ヨリナルモ特殊ノ行政組織ニ依ルコトハ何等主
權領土ト衝突セス
ト述ヘ須磨ヨリモ防共ハ北支問題ト切離シテ立場ヲ分チ
テ話シ來リタルモノナル旨念ヲ押シ又北支問題ハ行政問
題ヲモ含メテ考慮スルニアラサレハ到底解決ノ見込ナク
此ノ際支那側ハ五省六項目ヲ基礎トシテ話ヲ進メラルル
決心アリヤ否ヤ及日支經濟合作若ハ「シンジケート」ハ
何故其ノ活動ヲ冀察ニ省ニ限定スル譯合ナリヤト問ヒタ
ルニ張ハ種々理窟ヲ並ヘ明確ナル返答ヲ爲サス相互ニ種々
論駁シタルカ
次テ須磨ヨリ今日支那側ノ對日要求事項トシテ提出セラ
レタル塘沽、上海停戰協定廢止以下五項目ハ成都事件解

決ニ關スル國交調整交渉ノ條件ナリヤ夫レトモ單ナル希
望ニ止マルヤト質シタルニ張ハ右五項目ハ日本側ノ提出
セル案ト同時ニ協議スルコトヲ要求スルモノナリト答ヘ
タルニ依リ須磨ハ開キ直リテ今日突然斯ル要求事項ヲ提
出セルハ驚入リタル次第ニテ支那側ニテハ恐ラク此ノ機
會ニ北支問題ヲ片着ケントノ料簡ナランモ右ハ數日來打
合セ來リタル所ト全然異リ部長ノ食言ニハ呆レタリ又排
日取締ニ關スル話ノ如キハ體好キ辯解ノ言葉ノミニテ却
テ我方ヲ責ムルノ態度ニ出テ居リ結局支那ハ成都事件ノ
責任ヲ忘レ日支國交上ニ投ケタル暗影ヲ除カントセス寧
ロ此ノ機會ヲ自家ニ有利ニ轉換セシメントノ魂膽ト見ル
ノ外ナシ斯テハ支那側ノ誠意全ク認メ難ク今此ノ時機ニ
於テ尙斯ル態度ヲ執ルトハ意外千萬ナリ支那側提出ノ五
項目ノ如キハ日本側ニ於テ全然考慮ノ餘地ナキコトヲ茲
ニ言明ス斯ル要求ヲ取止メテ誠意アル話ヲ進ムルコト出
來サルヤト詰寄リタルニ張ハ國交調整ヲ議スル以上支那
ノ立場ヲモ考慮セラレ話合ノ圓滿ニ進行スルコトヲ考慮
セラレ度シト述ヘタルニ依リ須磨ハ成都事件發生後既ニ
一箇月此ノ間我方ハ引續キ發生セル數多ノ不祥事件ニモ

一、先ツ我方ノ成都事件其ノモノニ付一切ノ國際法ニ照ラシ
國民政府トシテ責任ヲ以テ陳謝、犯人ノ逮捕處罰、責任
者ノ處分及死傷者ニ對スル醫藥救恤金ノ支出等ヲ爲シ以
テ本事件カ兩國國交關係ニ障害ヲ與ヘサル様致度シ
二、排日取締問題ニ付我方ノ見解竝ニ其ノ實際ニ付申上ク
レハ
(一)消極的ニハ排日感情ノ除去ヲ必要トス元來支那國民ハ
日本人ナルノ故ヲ以テ日本人ヲ恨ムニアラス最近數年
來支那國民ノ受ケツツアル苦痛カ日本ノ爲負ハセラレ
タルモノナリト思惟シ悲憤ノ餘リ反抗心起リタルモノ
ニテ現在ノ兩國關係ニテ進ムトキハ此ノ感情ハ益々深
刻トナルヘク政府當局ハ表面ニ現ルル行動ヲ制止スル
コトハ出來得ルモノノ感情迄制止スルコトハ不可能ナ
リ依テ此ノ種惡感ヲ除ク爲ニハ日本側ニ於テ武力干涉
又ハ高壓の手段ヲ以テ支那ニ臨ムコトヲ避クルヲ要ス
(二)積極的ニ對日感情ヲ好轉セシムルニハ平等ナル國交ヲ
樹立スルコト必要ナリ即チ日本側ニ於テハ支那ノ主權
竝ニ行政ノ統一ヲ尊重スルコトヲ表示スヘク斯クシテ
始メテ根本的友好關係ニ戻リ對日惡感ヲ除キ好感ヲ招

來シ得ヘシ

(三) 排日問題ニ關聯シテ認識ヲ要スル點ハ反動派ノ奸計ニ陷ラサルニアリ元來國歩艱難ノ際ニハ之ヲ利用シテ國家ニ危害ヲ加ヘ

又ハ政府ヲ打倒セント試ミルモノアルハ何レノ國ニモアルコトナルガ支那ニ於テモ秩序、治安ノ全カラザルニ乘ジ反動分子ガ外國人ニ危害ヲ加ヘ政府ヲ窮地ニ陷レントスル陰謀行ハレザルヲ保シ難ク殊ニ共產黨ノ如キハ國際戰爭サヘ惹起セシメント策動シ居ル次第ニ付斯ル陰謀ヲ過大視スルコトハ其ノ奸計ニ陥リ益々事態ヲ紛糾セシムルニ過ギズ此ノ點ハ日本側ニ於テモ特ニ考慮セラレタシ

(四) 排日取締ニ付國民政府ノ既ニ執リタル處置及今後ノ取締方針ヲ述ブレバ

(イ) 過去ニ於テハ昨年邦交敦睦令ヲ發シ最近再ビ之ヲ通令シタル外所謂排日教育ニ付テハ既ニ教科書審查委員會ヲ設ケ政府ノ命ヲ奉ジ其ノ内容ヲ審查シ他國ヲ侮辱若ハ非難又ハ惡感ヲ挑發スルガ如キ記事ヲ禁ジ事實ノミヲ記載セシムルコトナリ居レリ他方教育

ヲ要求セラルベキモ政治問題ハ內政問題ニシテ國家ノ主權及行政權ノ統一ニ關係スルヲ以テ之ヲ日本側ト協議スルコト困難ナリ特ニ北支問題解決策トシテ北支ノ獨立政權又ハ半獨立政權ノ樹立ヲ要求セラルガ如キハ支那ノ主權領土權及行政權ノ完成ヲ破壞スルモノニテ到底容認シ難シ但シ防共問題ト經濟提携ニ付テハ適宜協議ヲ進ムルコトニ異議ナシ防共問題ハ廣田三原則ニ於テ提示セラレ當時支那側ニテ反對シタルモノナルガ今回ハ國策ノ一大轉換ヲ計リ且對日誠意ノ一大表示トシテ兩國間ノ共同防共協議スルコトヲ決意セリ但シ防共ノ範圍ハ山海關ヨリ古北口、張家口、綏遠、包頭ヲ連ヌル線以北ニ限ルコトシ且其ノ方法ハ防禦ヲ主トシ攻撃ヲ目的トセズ

(4) 支那ノ主權及領土ヲ尊重スル建前ト致度シ本件ハ支那トシテハ重大問題ニシテ自分一己ノ考トシテモ右ハ嘗テ須磨總領事ノ主張セラレタル日支軍事同盟ニ至ル一發端ナリトモ考ヘ居リ經濟合作ハ苟モ政治的侵略ヲ伴ハズ互惠平等ノ立場ニ於テスル以上素ヨリ歡迎スル所ナルガ先ヅ

部當局ガ日本ノ教科書ヲ研究セルニ支那ヲ侮辱セル記事モ少カラザル趣ニテ此ノ點ハ日本側ニ於テモ取締ラレ度シ

(ロ) 日本側ハ邦交敦睦令等ハ國民黨部等ニハ利目ナシト言ヒ居ラレルガ實ハ然ラズ若シ希望トアラバ中央黨部ヨリ地方黨部ニ對シ右遵奉方命令スルモ差支ナシ又黨部ノ排日行動ニ付政府ニ於テ責任ヲ取ルベシトノ要求ナルガ中央黨部ヲシテ各級黨部黨員ニ對シ其ノ行動ヲ慎重様警告ヲ與フルコトハ差支ナシ但シ黨員ガ個人ノ資格ニ於テ爲シタル行動ニ付テハ政府ニ於テ責ニ任ジ難シ更ニ政府當局ガ演說其ノ他ノ方法ニテ日支親善ノ必要ナル旨國民ニ發表スルコトハ今後國交調整ニ關スル協議相當程度進行シタル際之ヲ行フコトハ差支ナシ

三、國交調整ニ關スル具體問題ニ對シテハ次ノ如キ意見ナリ

(一) 北支問題

北支問題ハ元來日本側ガ特殊事態ヲ作り出シタル爲ニ發生セル問題ナルガ日本側ノ希望ハ要スルニ防共及經濟合作ノ二點ナルベシ日本側ニテハ其ノ他ニ政治問題

(イ) 其ノ範圍ハ冀察兩省トシ

(ロ) 其ノ方法ハ行政機關以外ニ一ツノ共同機關(シンジケート)ヲ設ケ日本側ノ出スベキ資本ハ團體賠償金ヲ以テスルコトトシ

(ハ) 之ガ實施方案ハ双方ヨリ専門家ヲ選ビテ作成セシムルコトト致度シ

(ニ) 關稅引下問題ハ我方ガ現ニ輸入稅率改正方研究立案中ニテ三、四箇月以内ニハ實行ノ見込ナルガ日本側ノ希望ハ關係方面ニ傳ヘ適當ニ之ヲ織込マシムルコトトスベシ但シ本件改正ニ付テハ支那ノ財政、他國トノ關係及國內產業問題ヲ考慮スル必要アル點ハ日本側ニ於テ了解セラレ度シ

(三) 航空聯絡問題

上海、福岡間航空聯絡ハ曩ニ交通部及遞信省間ニ於テ協議セル合約草案ニ基キ此ノ際協定スルコトニ同意ス但シ其ノ際ハ

(イ) 日本大使館ヨリ外交部宛公文ヲ以テ日支兩國ハ相互ニ領空權ヲ尊重シ一國ハ相手國ノ許可ナクシテ其ノ領空ヲ飛行セザルコトヲ聲明シ我方ヨリ同様ノ回答

ヲ爲スコトトシ

(ロ) 右實施期ハ今回ノ交渉ガ相當程度迄進ミタルトキニ更メテ決定シ度シ現在ノ空氣ニテハ實施困難ナリ

(四) 顧問招聘問題

我方ハ今回ノ交渉圓滿ニ進ムヲ見計ヒ交渉一段落ノ三、四箇月後ニハ我方自動的ニ先ヅ日本ノ技術家及科學者ヲ招聘スルコトハ差支ナク軍事顧問ハ之ヲ後廻シトシ度シ本件顧問招聘ハ日本側ノ要求ニ依ル形ヲ取ルコトハ之ヲ避ケ度シ

(五) 朝鮮人取締問題

不逞ノ朝鮮人及臺灣人ニ付テハ(張ハ茲ニ臺灣人ヲ持出シタリ)日本側ヨリ其ノ事實ヲ明示セラルレバ我方ハ之ガ逮捕ニ協力スルコト吝ナラズ尤モ右ハ何等條約又ハ國際法若ハ國際慣習ニ基クモノニアラズシテ全然友好的精神ニ出ヅルモノナルニ付之ヲ協定又ハ永久ノ了解事項トスル形ヲ取ル能ハズ又日本側ニ於テモ我方ト同様此ノ種支那人ノ逮捕取締ニ協力セラレ度シ又支那ニ於ケル朝鮮人、臺灣人等ノ行動ヲ嚴重取締ラレ度シ四國交調整ニ關シ支那側ヨリ日本ニ對スル希望ヲ次ニ述ブ

日本ニ於テモ公正ナル精神ヲ以テ之ガ停止方考慮セラレ度ク又支那側ノ取締ニ際シテ妨害スルコトヲ止メ其ノ自由ヲ恢復セラルル様致度シ

(五) 察東及綏遠北部ニ於ケル僞軍ノ解散

察哈爾及綏遠ノ一部ヲ攪亂シ居ル僞軍ヲ解散スルコトヲ希望ス

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

支及在支各總領事、北平、厦門ヘ轉電セリ



58 昭和11年9月29日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

中国側提案の対日要求五項目の撤回をめくり

吳鼎昌と会谈について

南京 9月29日後発
本省 9月29日夜着

第七七一號(至急、極秘)

川越大使ヨリ

往電第七六二號末段ニ關シ

本二十九日須磨、吳鼎昌會談要領左ノ通り

ベシ

(一) 塘沽協定及上海停戰協定ノ取消

是等協定ハ一時的ノモノニシテ今日既ニ存續ノ必要ナク殊ニ今回北支防共ヲ協議セントスル際斯ル軍事的束縛ヲ支那ニ加フル必要ナカルベク又之ガ廢止ニ依リ日本ノ侵略及脅威ニ對スル支那國民ノ疑惑ヲ解消シ得ベシ

(二) 冀東政府ノ解消

冀東組織ハ日支兩國ニ取り有害無益ナルコト言フ迄モナク之ヲ取消スコト國交調整上必要ナリ

(三) 北支自由飛行ノ停止

右ハ説明スル迄モナキガ日本側ニテ自發的ニ之ヲ停止スルコト最望マシク若シ北支ニ於テ日支ノ民間航空聯絡ヲ希望スルナラバ前述上海、福岡間航空聯絡ノ方法ニ照ラシ協議ヲ遂ゲ現在ノ事態ヲ合理化スルコトハ考慮スルヲ妨ゲズ

(四) 密輸停止及支那側取締ノ自由恢復

密輸ガ正當ナル通商ヲ阻害スルコトハ日本ノ商人モ認メ居ル所ナルガ我方ニ於テ關稅率引下ヲ考慮スル以上

一、吳ハ二十五日廣東ニ於テ蔣介石ニ對シ日本海軍ノ決意ヲ述ヘ蔣ノ最後ノ決意ヲ促シタルニ蔣ハ何レ白崇禧ト面會ノ後歸寧スヘキ處先ツ夫レ迄ノ間ニ二十九日ノ行政院會議ニ對シ支那側五項目中停戰協定問題ハ兎モ角爾餘ノ四問題ハ何レモ既ニ公式、非公式ニ日本側ニ話シ出シアルコト故國交調整ノ建前ナラハ是非共日本ヨリモ相互的ニ四項目ニ付何等カノ確定的意見ノ開示ヲ求ムルコト當然ナルヘシトノ蔣ノ内意ヲ述ヘ各部長ノ意見ヲ求メ更ニ各院長ヨリモ同様ノ意見ヲ徵シ其ノ儘蔣ニ具申スル様話アリ本日右ノ通り取計ヒ牯嶺ニ電報シタレハ明後日迄ニハ返電ヲ得ルカ或ハ多分蔣自身歸寧スルコトトナルヘシ(張群本日牯嶺ニ飛行方電報セルニ對シ蔣ヨリ見合せ方返電アリタル由例ノ内報アリ)ト述ヘタリ

二、右ニ對シ須磨ヨリ支那側五項目ハ撤回シ次ノ會見ニ於テハ我方六項目並ニ排日問題ニ付話ヲ纏ムル以外交渉ヲ繼續スル途ナカルヘキ處蔣ニ於テ其ノ決意着クヘキヤト繰返シ尋ネタル處吳ハ極メテ非公式乍ラ先ツ其ノ見込ナク蔣トシテハ日本側ノ申出ハ國交調整ノ見地ヨリノミ考ヘ得ヘキコト故斷シテ相互的ナルヲ要ストノ立場ヲ堅持シ

居リ又事實成都事件ト雖政府部内ノ者カ日支關係ヲ混亂セシムル目的ヲ以テ仕組レタルモノナルコト竝ニ北海、漢口、上海各事件ハ政府反對者ノ仕業ナルコト略見當着キ居ル故蔣トシテハ前述ノ態度ヲ取ラサル限リ政權持續ノ見込ナシト考ヘ居レリト廣東ニ於ケル蔣トノ會談ナリトテ政府部内ノ複雑ナル事情ヲ詳述セリ

三仍テ須磨ヨリ日本側六項目ハ成都事件ニ對スル支那政府ノ穴埋ニシテ調整話ニハアラサル旨竝ニ成都事件ハ勿論政府ノ使囑ニ因ル排日事件ナル處其ノ他ノ事件ニ付テモ反動派等ヲ口實トシテ責任ヲ免レ得ヘキニアラサル次第ヲ力説シ前記ニノ通りノ了解ニテ交渉續行方蔣介石ニ電報スル様繰返シ述ヘタルニ政府部内ノ混沌タル狀況ハ想像ノ外ナリトテ右電報方ヲ承諾セス吳ハ本會談中相當悲觀的口吻ヲ洩ラシ居タル趣ナリ

支及在支各總領事、北平、厦門ヘ轉電セリ

59

昭和11年9月30日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

中国側提案の対日要求五項目を撤回し日本側提

爲トモ言ヒ得ヘク到底取上ノ餘地ナシト強ク突撥ネタルニ尙何トカ色ヲ着クルコト出來サルヘキヤト繰返シ申出テタルニ依リ然ラハ支那側五項目ニ付テハ撤回トハ言ハス今後ハ觸レサルコトトセハ可ナルヘシト述ヘタルニ張ハ首肯シ居タリ

三依テ日本側六項目ニ移リ押問答ノ結果張ハ結局ノ處防共及北支問題以外ハ無條件ニテ承認シ差支ナキモ右二問題ハ國交調整委員會ヲ設ケテ解決ヲ將來ニ延ハスコトトシテハ如何ト申出テタルニ依リ須磨ヨリ我方從來ノ立場ヲ詳述シ少クトモ北支問題ニ付テハ北支五省ノ財政、金融、交通等ノ一切ニ關シ北支官憲ニ特別ノ權限ヲ賦與シ特殊事態ニ適合スル施設ヲ行ハシムルコト必要ナリト申聞ケタルニ張ハ「冀察ニ付テハ現狀維持其ノ他ノ三省ニ付テハ日本トノ關係密接ナル點ニ鑑ミ且日支親善ノ實效ヲ舉クル爲用。人行政ニ付特別ノ考慮ヲ拂ヒ且日支間ノ經濟合作ノ達成ヲ企圖スル」トノ案ニテハ如何ト提議セルニ對シ須磨ヨリ右ハ人事ノ點ノミヲ考ヘ我方ノ望ム組織ト相隔タルコト遠シト答ヘ置キタリ

三更ニ張ヨリ防共協定ハ北支ニ於ケル對露防共協定ニ限定

案事項を承諾するよう張公権へ説示について

南京 9月30日後発
本省 9月30日後着

第七七一號

往電第七七〇號ニ關シ

川越大使ヨリ

二十九日深更ニ至ル迄ノ須磨張公權トノ會談要領左ノ通ニ張ヨリ日本側ハ支那側五項目ノ無條件撤回ヲ求メラルルモ右ハ到底不可能ニテ元來右五項目ハ日本側七項目ニ對應關聯シ持出ス豫定ニテ即チ

- (一) 防共協定ニ關聯シ停戰協定少クトモ塘沽協定ノ廢止
- (二) 北支五省特殊化ニ關聯シ冀東ノ解消及綏察東ノ僞軍ノ解消
- (三) 福岡、上海航空聯絡ニ關聯シ北支自由飛行ノ廢止

(四) 關稅引下ニ關聯シ密輸取締

ヲ夫々要求スル筈ナリシカ張群ニ於テ日本側ノ激昂ヲ恐レ別々ニ提出シタル次第ナリト述ヘタルニ依リ須磨ヨリ張ノ外交技術ノ拙劣ハ別トスルモ從來ノ行懸ニモ拘ラス二十三日突如反對要求ヲ提出セル支那側ノ態度ハ欺瞞行

セラレ度ク赤化防止ヲ目的トスル全國的ノモノトセハ必ス内政干涉ナリトテ民衆等ノ反對運動ヲ惹起スルニ至ルヘキヲ惧ルト述ヘタルニ對シ須磨ヨリ防共協定ハ赤化防止ヲ目的トスルモ原則トシテ支那全般ニ適用アルモノタルヲ要シ

之ガ運用等ニ付テハ兩國共同委員會ノ審議ニ依ルコトトスルノ要アリト述ベタルニ張ハ斯ル委員會ノ設置ハ防共ヲ名トスル日本側ノ内政干涉ナリトテ輿論ノ反對ヲ招クコト必定ナリト繰返シ押問答ノ結果張ハ夫レナラバ防共協定丈ケハ日本側言分ヲ聽クベキニ付他ノ諸項目ハ全部「ドロップ」アリ度シト申出デタリ

四、依テ須磨ヨリ透サズ前記ニ北支及防共ノ二問題以外ハ無條件承認可能ナリトノ言明ハ結局支那側ハ我方六項目ヲ北支問題ノミニ付テハ多少ノ隔リアルモ其ノ他ニ付テハ承認シ差支ナキ次第ニアラズヤト突込ミタルニ張ハ卅日廬山ニ飛行スベキ何應欽、高宗武ヲシテ本日會談ノ模様ヲ蔣介石ニ報告セシムベキ處支那側ノ立場モアリ何トカ多少色ヲ着ケル様嘆願之ヲ久フシタルモ須磨ヨリ我方要求ハ絕對讓歩ノ餘地ナク支那側ノ態度如何ニ依リテハ決

裂モ遺憾ナラ已ムヲ得ズト申聞ケ置キタリ
支、在支各總領事、北平、厦門へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

60 昭和11年10月3日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

川越大使との會談を蔣院長要望について

付記 昭和十一年十月二日、四相會議決定

「川越大使蔣介石間交渉ニ關スル方策」

南京 10月3日後発
本省 10月3日夜着

第七八四號(至急、極秘)

往電第七七九號ニ關シ

川越大使ヨリ

本日午前高宗武本使ヲ來訪シ蔣介石ノ傳言ナリトテ蔣ハ現在ノ難局ヲ打開スル爲努力シ度キ希望ニテ來ル七日又ハ八日本使ト會見致度キ旨申出タルニ付本使ハ之ヲ承諾シ置ケリ

尙高ハ蔣介石ハ五日若ハ六日ニ歸寧スル見込ナル旨ヲ語リ

ル場合ニハ對蘇關係ヲ主眼トシ例ヘハ日本側ノ飛行場及無電臺ノ建設、道路ノ築造、特務機關ノ設置等ヲ容認スルカ如キモノナルコトヲ説明スヘシ而シテ本項ノ協定ハ之ヲ祕密トスルコト

(ロ)前項ノ如ク軍事同盟ニ至ル前提トシテノ防共協定ニアラサル一般の赤化防止ヲ目的トスル協定即チ右目的の達成ノ爲執ルヘキ措置ニ關スル協議竝ニ共產黨ノ活動ニ關スル情報ノ交換等ヲ内容トスル協定ヲ支那全般ニ付キ締結スルコト

右協定ハ直ニ川越、張間ニ締結方交渉スルコトトシ妥結ノ上ハ發表スルコト

(2)北支問題ニ付テハ第二次北支處理要綱ニ依リ交渉スルモノトス之カ爲先ツ南京政府ニ對シ北支ノ特殊性ヲ認メ北支五省ニ特別ノ政治組織例ヘハ特政會ノ如キヲ創設スルト共ニ右新組織ニ對シ財政、産業、交通等ニ關スル特殊ノ權限ヲ賦與スルコト

(尙支那側ニ於テ前記北支特殊制度ヲ承認スルニ於テハ我方トシテ北支ニ南京政府ヨリ離脱セル獨立國家ヲ育成シ或ハ滿洲國ノ延長ヲ具現スルカ如キ意向ナキ旨

本件本使ト蔣トノ會見ニ付テハ支那側ニ種々妨害運動等モアルニ付會見ノ當日迄絕對極秘ニ願度キ旨希望セルニ付是亦承諾シ置ケリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、在支各總領事、北平、厦門へ轉電セリ

(付記)

川越大使蔣介石間交渉ニ關スル方策^(編註)

(十月二日四相會議ニ於テ決定)

註、別紙括弧内ハ川越大使ノ含迄通報スルモノナリ

一、國交調整問題

往電第二二四號(一)ノ趣旨ニ依リ國交調整ニ對スル具體的誠意表示ノ實證トシテ左記ヲ實行セムコトヲ要求ス
(1)共同防共ニ付テハ

(イ)廿三日支那側書物ニアルカ如キ「日支軍事同盟ニ至ル一發端」トシテノ防共協定ノ範圍ハ北支五省トスルコト但シ已ムヲ得サレハ差當リ支那北邊ニ限定スルモ差支ナシ細目ハ委員會ヲ設ケテ考究セシムルコト若シ内容ノ大體ニ付テ説明納得セシムルノ必要ア

言明セラレ差支ナシ)

(3)福岡、上海間航空聯絡ハ北支自由飛行其ノ他ト牽聯セシムルコトナク此際調印、實行スルコト

(4)關稅引下ハ我方希望案ニ則リ遅クモ二、三ヶ月以内ニ實現ノコト

(我方希望案取入ノ程度ニ關シテハ支那側ノ誠意ニ期待ス)

(5)南京來電第七一五號須磨ノ提示セル六項目中ノ(二)及(四)ニ關シテハ南京來電第七三九號支那側回答ノ程度ニテ一應満足スルコトトシ蔣介石ニ對シテハ要求事項トセス「詳細ノ點ニ就テハ追テ支那側事務當局トノ間ニ打合ハセシムルコトトスヘキ」旨釘ヲサシ置ク程度ニ止ムルコト

二、排日取締問題

往電第二二四號(二)ノ二項目ヲ要求スルト共ニ曩ニ張群其ノ他カ同意ヲ表シ居ル(1)黨部常務委員會副主席ノ命令(2)蔣介石ノ聲明(3)教科書新聞雜誌ノ取締(4)黨部ノ排日行動禁絶、黨部ノ排日行動ニ關スル政府ノ責任(5)邦人旅行ノ自由竝ニ安全保障等ハ即時之ヲ實行ニ移ス様申入ルル

コト

(三三五)
(尚往電第二二四號)ノ(外)ノ一方的聲明ノ實行ハ勿論トス)

(國交調整ニ關スル支那側ノ希望)ニ對スル對策)

- (1)張群ハ支那側五項目ハ日本側提案ト同時ニ協議スルコトヲ要求スト云ヒ居ル處右五項目ノ同時協議方主張スル場合ニハ二月二十二日附亞、一機密第二十四號接觸振案(三)ノ趣旨ニ依リ可然ク應酬スルコト
- (2)右五項目以外南京來電第七三九號支那側提出ノ書物ニ列記セラレ居ル支那側ノ見解、申出、條件等ハ成ルヘク之ニ觸レサル方針ノ下ニ可然ク應酬スルコト

編注 本方策は、十月二日に有田外務大臣より在中國川越大使宛電報第一八二号として發電された。

~~~~~

61 昭和11年10月3日

在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

川越・蔣会談に向けた事前協議の実施を高宗武提議について

モ事態ハ餘程急迫シ居ルニ付危險千萬ナル旨申聞ケタルニ高ハ何レ六日中ニハ何トカ確答シ得ヘシト述ヘタル趣ナリ支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ  
支、在支各總領事、北平、厦門ヘ轉電セリ

~~~~~

62 昭和11年10月7日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

南京での日中交渉において日本側が過大な要求を提出したとの外国新聞報道に対し善導方意見具申

付記 昭和十一年九月二十八日公表

「日支交渉ニ關スル有田外務大臣ノ在京外國新聞記者團ニ對スル談話」

南京 10月7日後発
本省 10月7日夜着

第八〇二號

最近日支交渉ノ進展ニ件ヒ當地ニ於ケル外國新聞通信記者ノ活躍漸ク目立ち來レルカ當館ニ出入スル外國記者連ヨリ直接得タル印象ニ依レハ彼等ハ一般ニ日本側ハ北支五省ノ

第七八五號(至急、極秘)

往電第七八四號ニ關シ

川越大使ヨリ

本三日高宗武ハ本使トノ會談後直ニ須磨ヲ訪ネ本使ト蔣介石トノ會見後外交部長トノ會談トナルヘキ處右段取トナルコト明カトナレハ各般ノ問題ニ付下打合ヲ遂ケ度シト述ヘタルニ對シ須磨ヨリ支那側ハ二十三日以來十日モ經過シ居レハ既ニ對策ヲ決定シ居ル筈ニモアリ何モ蔣介石トノ會談ノ模様ヲ氣ニセストモ大体ノ打合ヲ爲スコト必要ナルヘシト告ケタルニ高ハ實ハ支那側對策ハ略決定シ居ルモ何レ蔣介石ノ歸寧ヲ待テ最後の決定ニ至ルヘキ筈故其ノ上ハ本使ノ蔣介石トノ會談前ニ申入レ相談スルコトトスヘシト述ヘ尙排日取締方ニ付テハ豫テノ打合通りニ實行ノ用意アリ又日本側六項目ノ内防共及北支二問題ノ外ハ大体御希望ニ副フコトトナルヘキカ唯支那側五項目ヲ如何ニ處理スヘキヤノ點決定ノ上ナラテハ如何トモ申上ケ難シト云ヘルニ對シ須磨ヨリ今頃ニナリテモ驅引根性ニテ遷延ヲ圖ラントスル

南京 10月3日後発
本省 10月3日夜着

獨立又ハ長江流域ニ於ケル駐兵權等侵略の要求ヲ提出シ居レリトノ流説ヲ信シ如何ニモ日本側カ此ノ機會ニ無理ナル要求ヲ提出シ支那ヲ威嚇シツツアルカ如キ報道ヲ爲シ居ル模様アリ一方確カナル筋ヨリノ情報ニ依レハ郭泰祺、施肇基、顧維鈞等在外大公使連ハ孔祥熙邊ノ使囑ヲ受ケ各任國ニ於テ夫々宣傳ニ狂奔シ居ル由ニテ支那側ノ對外宣傳漸次露骨トナリ來レル様察セラレ右ハ我方ニ取リ現在ハ素ヨリ將來ノ爲ニモ極メテ面白カラサル次第ナルニ付既ニ御氣付ノコトトハ存スルモ此ノ際我方カ成都事件以來國論沸騰ニモ拘ラス大局の見地ヨリ隱忍シテ平和裡ニ交渉ヲ續行シ居ルコト、右交渉ニ於テ我方ノ重要視居ル點ハ此ノ種不祥事件ノ再發ヲ防止シ國交ヲ改善スル爲排日ヲ禁遏シ將來紛糾發生ノ虞アル北支問題ノ調整ヲ爲スヘシト言フニアルコト從テ北支ノ獨立、長江筋ノ駐兵權等ハ全ク問題ニナリ居ラサルコト等我方新聞通信ヲシテ多少具體的ニ宣傳セシメ支那側逆宣傳ヲ封シ外國側ノ惡印象ヲ拂拭スル必要アリト存セラル

支、北平、在支各總領事、厦門ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

(付記)

日支交渉ニ關スル有田外務大臣ノ在京外國新聞
記者團ニ對スル談話

(九月二十八日午後)

STATEMENT OF FOREIGN MINISTER MR. HACHIRO
ARITA FOR THE FOREIGN CORRESPONDENTS

RESIDENT IN TOKYO.

(September 28, 1936.)

I had occasion, in our interview on April 25th last, to explain to you at some length the foreign policy of my country.

Since assuming the office of Minister for Foreign Affairs, I have been endeavouring to adjust the relations between Japan and China as prerequisite to stability in East Asia. Unfortunately, however, our endeavour has yielded no tangible result. On the contrary, various questions having been left unsettled, there has been created gloomy atmosphere lowering upon the relations of our two countries. It so happened that, at Chengtu on August 24th last, two Japanese were ruthlessly

slaughtered, and another two Japanese very seriously injured, by a lawless Chinese mob. The negotiations on this affair had scarcely commenced at Nanking when a succession of untoward occurrences came to pass at Pakhoi, Swatow, Hankow and Shanghai, the victims being Japanese soldiers, officials and residents.

The Chinese authorities have, on more than one occasion in the past, issued statements or made pledges, undertaking to control the anti-Japanese agitations in China, but these undertakings have been without avail. In fact, Japanese in China have repeatedly suffered outrages of unspeakable violence at the hands of Chinese agitators, over a dozen cases of this nature, to count the principal ones only, occurring in the short space of the last ten months. Thus the lives and property of the many Japanese in China are gravely threatened, and a feeling of profound unrest is naturally prevalent among them.

All these unfortunate incidents may rightly be said to be the logical consequences of the anti-Japanese education, anti-Japanese instigation and other forms of anti-Japanese policy

practised for many years for which the Nationalist Government and the Kuomintang cannot evade their responsibility. Even if some of the incidents may, as is maintained on the Chinese side, be possibly attributable to Communist attempts to alienate Japan and China, they should not be settled in the same manner as ordinary cases of murder and of assault and battery are disposed of in China. The mere settlement of the incidents themselves is not enough. A decisive step forward should be taken to strike at the root of the trouble in order to prevent the recurrence of any such incidents. On the one hand, China should carry out an effective control of anti-Japanese agitations. In this connection, let it be remembered that no number of edicts exhorting friendship with Japan serves any useful purpose, as is evidenced by the existing state of affairs. On the other hand, more constructive efforts should be made to drastically improve the relations between Japan and China eradicating once for all the fundamental cause of the anti-Japanese trouble. And, if necessary, consideration has also to be given to measures to meet the Communist menace.

In the spirit of what I have just said, the Japanese Government are conducting negotiations with the Nanking Government with respect to the settlement of the respective incidents and to the adjustment of the relations between Japan and China. The negotiations, however, are making no appreciable progress, and in the meantime fresh incidents of the same unfortunate character are cropping up.

It is the sincere desire of Japan that a settlement may, as far as possible, be peaceably reached through diplomatic negotiations, and that the stability of East Asia may be genuinely assured. However, as you are aware, opinion is steadily gaining ground among the Japanese public and among the Japanese in China that any further negotiations with China are useless. Should the negotiations be so terminated, the lives and property of the large Japanese population in China could not, of course, be left exposed to any further danger. It will, therefore, be necessary to consider the steps to be taken in case of that eventuality.

The outcome of the present negotiation can be in one of the

two ways only: either very much better or very much worse will be the Japanese-Chinese relations. In the existing situation they shall not be permitted to drift in the ambiguous state of affairs as has been prevailing in the past. China is now at the momentous crossroads, to decide whether or not to shake hands with Japan. I very earnestly hope that China will grasp our hand in friendly response whatever difficulties she may have to surmount.

(右邦譯文)

我邦ノ外交方針ニ就テハ本年四月二十五日諸君ト會見ノ際詳シク話シテ置イタカ自分ハ外務大臣就任以來東亞ノ安定ヲ確保スル爲メ先ツ日支間ノ國交調整ヲ企圖シタノテアツタ。然ルニ不幸ニシテ此ノ企圖ハ何等具體的成果ヲ齎ラスニ至ラス諸種ノ懸案ハ兩國關係ニ陰慘ナル空氣ヲサヘ漂ハサセルニ至ツタノテアルカ、果然八月二十四日成都ニ於テ日本人二名ハ兇暴ナル暴徒ノ爲ニ虐殺セラレ他ノ二名ハ重傷ヲ負フノ椿事力起ツタ。而シテ右事件ノ交渉力南京ニ於テ開始セラルルヤ北海、汕頭、漢口、

上海等ニ於テ相次テ日本軍人、官吏及在留日本人ニ對スル幾多不祥事件ノ續發ヲ見ルニ至ツタノテアル。從來支那當局ハ排日抗日取締ニ就キ一再ナラス聲明又ハ誓約シタノテアルカ、顧レハ僅々十ヶ月間ニ支那ニ在住スル我國民ニシテ兇惡ナル手段ニ依リテ危害ヲ蒙ルモノ實ニ頻々其ノ主要ナルモノノミニテモ既二十餘件ヲ數ヘ、在支多數同胞ノ生命財産ハ非常ナル脅威ヲ受ケ深酷ナル不安ヲ感シテ居ルノテアル。

此等不祥事件ハ多年國民政府及國民黨トシテ其ノ責任ヲ免レ得サル排日教育、排日煽動、排日的政策等ノ當然ノ歸結ト云フヘキモノテアル。尤モ其中ノアルモノハ支那側ノ云フ如ク或ハ共產黨分子ノ日支離間策トシテ行ハレタルモノカモ知レヌトシテモ、何レノ途此等諸事件ノ解決ニ當ツテハ支那ニ於ケル普通ノ殺害事件ノ如ク單ニ事件自體ノ解決ヲ計ルヲ以テ満足ハ出來ナイ、更ニ進テ此等不祥事件ノ再發ヲ防止スル爲メ其根本ニ溯ツテ對策ヲ考ヘネハナラヌ。即將來ノ保障トシテ支那側ヲシテ消極的ニハ排日抗日ノ取締ヲ勵行セシムルハ勿論(敦睦令ト云様ナモノノ效力無キコトハ現在ノ事態力之レヲ證明シ

テ居ル)、積極的ニハ兩國國交ノ調整ヲ計リ排日抗日ノ根源ヲ除去シ、場合ニヨツテハ共產黨ニ對スル措置ヲモ考ネハナラヌノテアル。

上述ノ主旨ヨリ帝國政府ハ此等諸事件ノ個々ノ問題ニ就キ解決ヲ計ルト同時ニ國交調整問題ニ就キ今ヤ折角南京政府ト交渉中テアルカ交渉ハ遲々トシテ進展ヲ示サス、其内ニ他方ニ於テハ新ナル不祥事件カ發生スルト云フ狀態テアル。

我方トシテハ出來得ル限り外交交渉ニ依リテ平穩ニ解決シ眞ニ東亞ノ安定ヲ確保スルニ至ラムコトヲ希望スルモノナルモ、既ニ國內及在支本邦人間ニハ交渉無用論カ盛ニ擡頭シツツアルハ御承知ノ通テアル。然シ乍ラ交渉ハ假令打切ルニ至ルトモ在支多數同胞ノ生命財産ヲ此上不安ノ狀態ニ曝シ置クコトノ出來ナイノハ勿論テアルカラ此場合ノ措置ニ付テハ別ニ講究セネハナルマイと思フ。今次ノ交渉ノ結果ハ日支ノ關係カ非常ニ善クナルカ或ハ又非常ニ惡クナルカノ二途ヲ出ナイ、從來ノ様ナ曖昧ナ事態ニ置カルコトヲ許サレナイノテアル。從テ支那側トシテハ此ノ際日本ト握手スルカ否カヲ選ムヘキ重大ナ

ル岐路ニ立チ居ルモノテアル。自分トシテハ支那力萬難ヲ排シテ我方ト握手スルニ至ランコトヲ希望シテ已マナイ次第テアル。

63 昭和11年10月7日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

国交調整への誠意披露を先送りすることなく
直ちに実行するよう中国側へ要求について

別電 昭和十一年十月七日発在南京須磨總領事より

有田外務大臣宛第八〇四号

日本側提案をめぐる高宗武との協議内容

南京 10月7日後発
本省 10月7日夜着

⑧ 第八〇三號(交渉、極秘)

⑨ 往電第七八五號末段ニ關シ

川越大使ヨリ

昨六日約ニ依リ高宗武ニ對シ我方ヘノ回答ヲ督促シタル處高ハ許大使ヨリノ來電ニ依リ桑島局長ヨリ我方提案ノ内容ニ關シ未タ意ヲ盡ササル點ニ付説明アルヘク其ノ結果日本

側ヨリ新ニ申出アルヘキコトニ了解シ結局本使蔣介石トノ
會見(明八日午前十時)ノ後本使ト張群トノ間ニ話ノ遣直ト
ナルヘシト頑張り居タル次第アリ本七日須磨ヨリ高ニ對シ
許大使來電ノ趣意ハ如何ニモアレ桑島局長ノ來寧ニ依リ我
方提案ヲ何等増減スル必要ナク唯日本政府ノ重大ナル決意
ノ程ハ同局長ヨリ委曲説明アリタルニモ鑑ミ此ノ際遣直等
ト言フニ於テハ支那側カ決裂ヲ宣言スルニモ等シク又豫テ
約束ノ回答ヲ爲ササルハ不屈千萬ナリト詰問セルニ高ハ實
ハ本朝蔣介石ノ許ニ重要幹部會ヲ開キ大體支那側五項目ヲ
日本側六項目ニ牽聯セシメタル形ニ於テ(往電第七七一號)
新ニ會談ヲ始ムルコトニ略打合中ナルニ付
篤ト相談ノ上ナラテハ元ノ儘ノ話ヲ續クル譯ニ行カスト頑
張り數日來英、米、佛、露各方面ヨリ同情アル「ジェスチ
ユアー」アリ支那側ハ例ノ山氣ヲ出シ一流ノ宣傳ニテ日本
ヲ惡體ニ言觸ラシ居ル空氣ニ乘シテカ高モ自ラハ理不盡ト
知り乍ラ前記遣直論ヲ固執シテ降ラサリシカ須磨ヨリ蔣介
石ハ日本ト一戰スルノ覺悟ナク無理ニ會談ヲ遷延セシメン
トスト解スルノ外ナキカ如何ト問詰メ若シ然ラスハ素直ニ
從來ノ經緯ヲ辿リ會談ノ誠意ヲ示スヘシト迫リタル結果高

ハ事重要故豫テ蔣介石ヨリ自分ト共ニ日支問題研究ヲ命セ
ラレ居ル張公權ノ同席ヲ求メタル上御趣旨ニ應スルコトト
スヘシト折レ結局張ハ蔣ノ許ニテ會談中ニテ間ニ合ハス
(後刻別ニ會談セルコト往電第八〇五號ノ通り)高ト別電第
八〇四號ノ通り會談ノ上張ト協力右「ライン」ニテ蔣介石
説得方約セシメ置キタリ
支、在支各總領事、北平、厦門ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ
(別電)
南京 10月7日後發
本省 10月8日前着
第⑧〇四號(極秘、館長符號投、交渉)
①②須磨ヨリ支那側五項目ハ此ノ際問題トセサルコト絕對必
要ナルカ支那側ニ於テ綺麗ニ撤去スルニ於テハ正式ニハ
出來サルモ例ヘハ高宗武ニ自分(須磨)ヨリ事務的ニ「五
項目ニハ自ラ出來ルモノト出來サルモノトアルヘキカ今
次交渉ノ結了後將來日本側ハ支那側ノ要望ニ對シ考慮ヲ
拂ヒ得ヘシ」位ノ謂ハハ紳士協約ヲ爲スコト關ノ山ナリ

ト覆被セ高ヲシテ五項目ワ六項目ニ牽聯セシムトノ蔣介
石ノ意嚮ナルモノヲ撤回セシメタリ
③高ヨリ六日ノ行政院會議ニテ支那側最大限度案トシテ防
共及北支兩問題ハ後日ニ廻シ此ノ際ハ他ノ四項ニ關シ二
十三日ノ張群申入ノ條件ニテ解決方申出テンカトノ假決
定ヲ見居ル旨ヲ披露シ兩問題此ノ際ノ除外ヲ固執セルモ
須磨ヨリ兩問題コソ今次交渉ノ骨子ナル旨ヲ主張シ結局
④福岡、上海航空聯絡ハ無條件ニテ即時調印、但シ實施
期ハ三、四箇月若ハ支那側ノ希望ニ依リテハ今少シク
遅ラスコト可能ナリ
⑤關稅引下ハ我方希望案ニ依リ遅クモ二、三箇月内ニハ
實施ノコト
⑥顧問ハ三、四箇月内ニハ招聘ノコト
⑦朝鮮人ハ豫テノ約ニ從ヒ逮捕引渡ヲ實行シ在日本支那
人ノ同様引渡方ニ關スル支那側ノ希望ハ全然將來ノ事
態ニ關シ居レハ此ノ際ハ問題トセサルコト必要ナリ
トノ四項目ノ處理ヲ決定セリ
⑧防共ハ蔣介石ニ於テ最困難トスル問題ニテ現ニ馮玉祥、
于右任一派カ命懸ノ反對ヲ爲シ爲ニ蔣力歸寧後先ツ高ニ

對シ少クモ此ノ問題ハ他日ニ廻スコト必要ナリト言明セ
ル次第モアリトテ高ニ於テ本項會談ヲ躊躇セルモ須磨ヨ
リ貴電第一八二號(イ)及(ロ)ニ付詳シク説明シ百方説得セ
ルモ高ハ支那側ハ往電第七三九號ノ三ノ(一)山海關、包頭
ノ線ヲ冀東政府ノ解消並ニ塘沽協定取消ヲ條件トシテ行
フコト蔣介石ノ肚ナレハ先ツ前記ノ貴電(一)ノ(ロ)ノ如キ一
般の赤化防止ヲ目的トスル協定ハ後日ハ兎モ角此ノ際ハ
絕對考慮ノ餘地ナク又日支軍事同盟ニ至ルヘキ防共協定
ノ範圍モ北支五省ニテハ問題トナラス殊ニ最近ハ五省ト
言フ丈ケニテ軍部及黨部方面ヨリ非常ナル反對ヲ受ケ居
ル始末ナレハ問題トナラスト押問答ヲ繰返シタル結果高
ハ宋哲元カ既ニ防共協定ヲ締結セルニ鑑ミ冀察並ニ綏遠
ノ三省ニ付テノ防共施設ハ出來得ヘキヤ相談シ見ルコト
トスヘシト言ヘリ
⑨須磨ヨリ特政會案ヲ詳説シタルニ高ハ將來實施スヘキ案
トシテハ成程面白キモ之亦五省トシテハ問題トナラス支
那側ノ北支問題討議ノ根底ハ冀察ノ半獨立性ヲ改造シ中
央軍ノ駐在ヲ復活スルニアルコト最近蔣介石トノ會談ニ
依リ明白トナレリトテ五省問題ニハ乘リ來ラス結局須磨

ヨリ

(イ)冀察ノ現状ニハ觸レサルヘキコト即チ宋哲元カ締結セル防共並ニ經濟合作ニ關スル約定ハ勿論今後冀察側カ爲スコトアルヘキ一切ノ約定ハ中央ヨリ承認セラルヘキコト

(ロ)綏遠、山西、山東ニ付テハ財政、金融、交通等ニ關シ經濟資源開發ニ付日支合作ヲ實現スル爲中央政府ハ各省主席ニ對シ必要ナル包括的訓令ヲ發シ授權スルコトヲ提議シ高ニ於テ考慮ヲ約セリ

又前述ノ打合ニ從ヒ高ハ本日本外交部幹部會ヲ開キ一應附議ノ上直ニ蔣介石ニ考慮ヲ求メ明日日本使蔣トノ會談後開催ノ筈ナル緊急行政院會議ニ附議シ明夜遅クモ九日朝迄ニ確答方ヲ約セリ

支、在支各總領事、北平、厦門ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

64 昭和11年10月7日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

国交調整への中国側熱意を認め日本側提案の実

ントスルモノニシテ支那ハ此ノ趣旨ニ鑑ミ東洋和平ノ達成ニ關シ日本帝國ト和親協同ノ政策ヲ執ルヘキコトヲ望ム」旨ノ聲明ヲ爲シ支那側ヨリ同時ニ「日本帝國政府ハ支那ノ領土主權ヲ尊重シ行政ノ統一ヲ助成スル旨言明セラレタルニ鑑ミ日本帝國政府ト和親協同シテ東洋和平ヲ達成センコトヲ期ス」トノ旨ヲ以テ答ヘ之ヲ契機トシテ日支間ニ一新時期ヲ劃セラルコトヲ約サレ度シト言ヘルニ對シ須磨ヨリ日本カ獨立國家ヲ北支ニ於テ育成セントスル意思ナキハ明カナル處之ヲ支那側ノ誠意表示ニ從ヒ言明シ得ヘシトハ思考スルモ其ノ形式、時期等ニ付テハ猶充分考慮ノ餘地アルヘシト應酬シ兎モ角張ラシテ高宗武ト協力シ本件ノ一氣呵成的打開ニ努力スル様説得シ置キタル趣ナリ
支、在支各總領事、北平、厦門ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

65 昭和11年10月8日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

張公権が日本側提案に対する妥協案を提示して川越・蔣会谈の円満妥結を要望について

行は中国側に一任あるよう張公権提議について

南京 10月7日後発
本省 10月7日夜着

第^⑧八〇五號(交渉、極秘)
往電第八〇三號ニ關シ

川越大使ヨリ

本七日張公権ハ須磨ニ對シ蔣介石ノ意嚮ナリトテ日本側ハ先ツ蔣ノ日支國交調整ニ關スル熱意ヲ認メタルコトトシ(明日ノ本使蔣介石會談後此ノ趣旨ノ「コンミニユニケ」ヲ發表シ度シト言ヘルカ須磨ヨリ何レ會見後考フヘシト應酬セリ)引續キ張群トノ會見ニ於テ先ツ成都事件ノ解決ヲ遂ケ從來話合ヘル六項目ノ實行ハ支那側ヲ信用シテ其ノ獨自ノ措置ニ任スコトサレ度シ(右ハ本日ノ蔣介石竝ニ巨頭會議ノ結果ナルカ如シ)ト主張セルニ對シ須磨ヨリ右ノ如キハ會議道直シト異ラサルヘキ趣旨ヲ以テ反駁シ往電第八〇四號高宗武トノ間ニ遂ケタル會談内容ヲ其ノ儘蔣介石ニ承認セシムル以外打開ノ途ナキ旨ヲ高調シタル結果張ハ日本側ニ於テ例ヘハ右様ノ趣旨ニテ全部解決ノ後

「日本政府ハ支那ノ領土主權ヲ尊重シ行政ノ統一ヲ助成セ

南京 10月8日前発
本省 10月8日後着

第^⑧八〇六號(大至急、極秘、交渉)

川越大使ヨリ

甲、本八日求ニ依リ某所ニ於テ須磨張公権ト會見セル處張ハ昨夜深更迄蔣介石、張群ト鼎坐相談セル處蔣ハ日本側ノ誠意ニ對シテハ不誠意ヲ以テ酬ユル能ハス須磨ヨリ話シタル諸點ヲ認メサルヲ得スト述ヘ支那側ヨリ此ノ際申シ度キ點トシテ左ノ通ノ結果ニ到達セリト語レリ

(一)赤化防止協定ハ支那全般的ノモノハ此ノ際ハ何トモ考慮ノ餘地ナク又對露軍事同盟ノ前提トモナルヘキ話合モ此ノ邊ノ程度ニシ度キカ日本側ノ要望ニ此ノ上考慮ヲ求ムルコト困難ナルヘキニ付大體翼、察、綏三省ヲ防共區域トスルコトトスヘキカ綏遠ニ付テハ地方軍事當局ノ考モアルヘキニ付早速傳作義、閻錫山ニ一應電照スルコトトスヘシ

(二)自由飛行ハ客年春地域ニ關スル條件ニテ決裂セルカ支那側ハ何トカシテ日本軍側ノ希望ヲ容レ合法化セシメ度キ希望ナルニ付之ヲ達成セシムル様配慮方紳士協約

的ニ約束アリ度シ

(三)又冀東政府ハ國民政府ノ立場上困リ拔キ居ル所ナレハ
關東軍側等ノ都合モアリ今直ニハ出來サルヘキカ成ル
ヘク早キ機會ニ解消セシメ得ル様配慮方之亦同様約束
アリ度シ

(四)最近數日間李守信軍等ノ活動著シキ旨入電アリ蒋介石
ニ於テ特ニ心配シ居ルニ付テハ之亦手加減アル様致度
シ

(五)本日ノ本使蒋介石會見ノ結果ニ付テハ内外共非常ノ注
意ヲ拂ヒ居リ何等カ大體ノ方向ヲ與ヘサルニ於テハ日
支會談ノ決裂ヲモ思ハシメ日本側ノ一氣呵成的解決希
望ニ應ツルコト困難トモナルヘク又外國側ニ於テハ支
那ハ日本ニ屈服シ密約テモ出來タル如キ感想ヲ抱クコ
トモアルヘク旁本會見後支那側トシテハ「蒋介石ハ川
越大使ニ對シ成都事件ノ發生ニ關シ深厚ナル遺憾ノ意
ヲ表シ且今後此ノ種事件ノ發生セサルヘキコトヲ希望
シ又日支兩國ハ今後平等ノ立場ニ於テ公正ナル外交ノ
途ヲ辿リ度キ意嚮ヲ述ヘタリ」ト言フカ如キ趣旨ヲ入
レタル「コムミュニケ」ヲ出シ度キ希望ナリ

川越大使ヨリ

蒋介石トノ會見ニ際シ本使ヨリ申出方御訓令ノ次第モアリ
タルモ累次往電ニ依リ御承知ノ通り蔣ヲ正面相手トスルノ
形式ト爲サハ蔣ハ周圍ノ手前上思ハサル強氣ニ出ツルノ已
ムナキ事情モアリ現ニ張公權ハ數回須磨ニ對シ蔣ハ有田大
臣ヨリ御申出ナクトモ兩廣ノ事態結着次第來寧ノ手筈ナリ
シ處元來蔣ハ軍人ニモアリ且時節柄馮玉祥、于右任ニ對ス
ル機微ナル關係モアリ直接本使トノ間ニ具體的ノ話ニハ入
リ得サル立場ニ在リト述ヘ之カ爲數日來張公權ハ蔣ト打合
ノ上下交渉ニ奔走シ大体本使トノ會見迄ニハ本使ヨリ蔣ニ
對シ具體的折衝ヲ要セサル情勢ヲ作ルニ努メ來リタルハ往
電第八〇五號等ノ通りナリ他方交渉ヲ終ル迄張羣ヲ相手ト
スルヲ建前トセサルニ於テハ張羣ハ勿論張公權等ノ蒋介石
ヲ取巻ク連中ヲモ失望セシメ却テ反對ノ結果モアルヘキ懸
念濃厚ナルモノアリシニ付本使ハ蔣トノ會見ノ冒頭ニ於テ
我方六項目ニ關シ貴電ノ御趣旨ニ依リ一々念ヲ押シ蒋介石
ノ了解ヲ求メ置クニ止メ往電第八一〇號ノ會談ニ入りタル
次第ナルカ今後交渉ノ經過ニ依リテハ勿論重ネテ蔣ト會見
ノ積リニテ蔣モ更ニ面談シ度キ旨述ヘ居タリ

乙、右ニ對シ須磨ヨリ(一)ニ關シテハ軍務當局ニ命令スルコ

ト必要ナル旨(二)、(三)及(四)ハ御希望トシテ聞キ置クニハ異
存ナシ(五)ノ趣旨ハ尤モナルカ何レ會見後打合スヘシト應
酬シタルニ張ハ本日午後更ニ蔣介石其ノ他幹部ニ於テ討
議ノ答故其ノ結果ヲ張又ハ高宗武ヨリ須磨ニ聯絡スヘシ
ト述ヘ須磨ヨリ昨日ノ話ハ日本側ノ最後の限度ニテ之ニ
依リ本國政府ヲ説得シ見ルヘシトノ建前故アノ「ライン」
ヲ潜ルニ於テハ問題ニナラスト念ヲ押シタルニ張ハ一、
二割ノ出入ハアルヘキカ大體安心サレ度シト述ヘタリ
支、在支各總領事、北平、厦門ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

66 昭和11年10月8日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

蒋介石との会談に際し対処方針具申

南京 10月8日後発
本省 10月8日夜着

第8〇九號(大至急、極秘、交渉)

貴電第一八一號ニ關シ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

支及在支各總領事、北平、厦門、滿ヘ轉電セリ

67 昭和11年10月8日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

川越・蔣会談の内容につき報告

南京 10月8日後発
本省 10月8日夜着

第8一〇號(大至急、極秘、交渉)

川越大使ヨリ

本八日午前十時ヨリ本使蒋介石ト約二時間ニ亘リ會談セル
要旨左ノ通り(清水、高宗武同席)
一、先ツ本使ヨリ前回會見ノ際日支國交調整ニ付テハ機會ヲ
見テ充分意見ヲ交換シ之カ達成ニ付相互ニ努力スヘキ旨
述ヘタルカ其ノ後測ラスモ成都事件其ノ他ノ不祥事件發
生シ兩國關係容易ナラサル事態トナリタル今日茲ニ貴院
長ト再會スルコトハ感慨無量ナリ今日ニ至リテハ速ニ國
交ヲ調整シ事件ニ依リテ生シタル暗影ヲ一掃スルノ必要
ニ迫ラレタル次第ナルカ惟フニ國交ノ調整ニハ兩國政府

長ニ對シテモ帝國政府ノ意嚮ヲ述ヘ深甚ナル考慮ヲ促シ其ノ圓滿解決ヲ希望スル次第ナリ右ノ交渉ニ當リ懸案解決ノ各項目ニ付テハ張部長トノ間ニ略意見ノ一致ヲ見タルモノモアリ又未タ結論ニ到達セサルモノアルモ我方ノ希望シ居ルハ六項目ナリトテ大体貴電第一八一號各項目ノ内容ヲ説明シタル上此ノ内最重要ナルハ防共問題ト北支問題トナルカ北支ニ於テハ其ノ特殊ナル事情ニ鑑ミ所謂北支五省ノ地域ニ亘リ特殊ノ施設ヲ行ヒ財政、交通、經濟等ノ各方面ニ於ケル日本トノ協力ヲ約シ之カ實行ヲ容易ナラシムル爲必要ナル權限ヲ是等地方當局ニ賦與スルコト必要ナリト述ヘタルニ蔣ハ交渉ノ經過ハ張部長ヨリ詳細聽取セルカ外交ノ責任者ハ張部長ナルヲ以テ具體的ノ話合ハ同部長トノ間ニ繼續シテ進行セラレ度ク自分モ充分誠意ヲ以テ話合ヲ爲ス様張部長ニ申聞ケ置クヘキカ自分個人ノ考トシテハ兩國カ互^④助^⑤互^⑥利^⑦平等ノ原則ヲ以テ相談スレハ何事モ話纏マラサルコトナシト信ス

唯北支問題ニ關スル大使ノ提案ニハ俄ニ贊成シ難シ支那ハ北支ノミニ限ラス全國ニ亘リテ日本ノ協力ヲ希望スルモノナルモ右ハ主權ノ保持竝ニ行政ノ統一ヲ妨ケサル前

提ノ下ニ於テ之ヲ行フヲ要ス現在支那國民ハ北支ニ於ケル日本ノ施設ニ對シ少カラス危惧ノ念ヲ抱キ居リ事實兩國ノ關係ヲ惡化シ居ルニ付右猜疑心ヲ除去スルコト必要ナルト共ニ同地方ニ於ケル日支ノ協力モ主權ノ保持行政ノ統一ヲ害セサル範圍内ニ於テ行ハサルヘカラスト答ヘタリ

三、蔣ハ兩國國民ノ感情ヲ融和セシメ兩國關係ヲ轉換セシムルコトハ支那當局トシテ熱望スル所ニシテ之ニ對シテ貴國側ノ援助ヲ希望スル次第ナルカ之カ爲ニハ兩國國交調整ヲ外交ノ常道ニ依リ解決スルコト第一要件ナリ又兩國民ハ等シク東亞民族トシテ感情ト道理トヲ重ニスル性質ヲ有シ假令國內ニ如何ナル困難ナル事情アリト雖道理ト感情トニ基キ處理セハ解決決シテ困難ナラス現在日支兩國關係ノ面白カラサル感情ニ基因スル點極メテ多シト察セラルルカ今後ハ相互ノ利益及面子ヲ尊重シ兩國間竝ニ兩國民間ノ信用ヲ回復シ感情ヲ好轉セシムルコトヲ切望ス

④ 今次ノ交渉ニ於テモ

⑤ 條理ヲ外レサル範圍内ニ於テ且

當局ハ單ニ口頭ニテ親善提携ヲ説クノミテハ實效ヲ期シ難ク宜シク兩國共通ノ一大目標ヲ掲ケ以テ國民ヲシテ其ノ向フ所ヲ知ラシメサルヘカラス而シテ國際共產主義ハ日支兩國孰レニ對シテモ其ノ社會制度及國家組織ヲ破壞セントスルモノナルヲ以テ之カ共同防衛ハ正ニ右共通ノ目標トシテ此ノ際最意義アル途ナリ之カ具體的實行ニ付テハ素ヨリ専門家ノ協議ニ俟ツ必要アルヘキモ要ハ共產黨ニ關スル情報ヲ交換シ之カ防止ニ關スル施設ニ付相協力スルモノトシ

其ノ協力ノ下ニ兩國夫々防共ノ手段ヲ講スルモノナリ右ハ國交調整ノ根本義ト思惟スル處貴院長ノ意見如何ト質シタル處蔣ハ防共問題カ兩國共通ノ利害ニ關係シ之カ共同防衛ニ付テハ政治、外交、軍事各當局共素ヨリ異議ナキ次第ナルモ現在我國國民ノ間ニハ蘇聯ニ反對スルコトヲ好マサル者少カラス甚タシキハ共產黨ト聯合シテ進マシムルコト先決問題ナリ自分ハ素ヨリ國民ヲ指導シテ蘇聯カ我國ノ敵ナルヤ味方ナルヤヲ認識セシムルコトニ努力スヘク此ノ空氣ノ轉換ニハ貴國側ニ於テモ充分ナル

援助ヲ與ヘラレンコトヲ希望ス元來兩國カ共通ノ目標ニ向テ相協力シテ進マサルヘカラルサルハ單ニ防共ノミニ限ラス軍事行政財政經濟等有ラユル方面ニ於テ同様ニシテ斯シテコソ始メテ兩國ノ共存共榮ヲ實現シ得ヘシ然ルニ兩國ノ關係ノ現狀ハ此ノ理想ヲ離ルルコト尙遠ク一般國民ハ前述ノ如ク蘇聯ニ信賴シ共產黨ヲ謳歌スル風アリ又最近知識階級ノ間ニハ英國トノ提携論盛トナリ現ニ今回自分カ廣東ニ到リタル日北伐當時ノ反英ノ空氣ハ全ク一掃セラレ同地方カ頻リニ英國トノ提携ヲ主張シ居ルヲ見テ驚キタル次第ナリ顧ミルニ蘇聯ト國交回復シテ僅ニ三年英國カ對支政策ヲ轉換セシメテヨリ漸ク五年ニシテ斯ノ如ク深く支那國民ノ心裡ニ喰込ミタル原因那邊ニ在リヤハ極メテ注目スヘキ次第ナリ日支兩國ノ如キハ其ノ關係ヨリ見ルモ遣方如何ニ依リテハ更ニ短日月ノ間ニ且自然的ニ友好親善ナル關係ニ入ルコト極メテ容易ナルヲ確信スト述ヘタリ

⑥ 次テ本使ヨリ今次ノ事件ニ關聯スル交渉ニ付テハ既ニ帝國政府ノ訓令ニ基キ張部長ト話合ヒ居ル次第ニテ右ノ經過ニ付テハ報告アリタルモノト察セラルル處此ノ際貴院

(ロ)互讓平等ノ精神ヲ以テ之ニ當ルコトヲ希望スル次第ナルカ殊ニ

(ハ)北支問題ニ付テハ同地方ノ事態ヲ改善シ國民政府ヲシテ一般國民ノ信賴ヲ繋キ得シムル様考慮セラレ度シト述ヘタルニ付本使ハ北支ノ事態ハ特殊ノ情勢上必然的ニ生シタルモノナレハ今直ニ之カ改變ヲ期スルモ不可能ナリト述ヘタル處蔣ハ自分トシテモ今直ニ之カ改變ヲ要求スル譯ニアラス其ノ間ニハ種々特有ナル事情モアルヘキカ將來好意ヲ以テ之カ處理方希望スル次第ナリト答ヘタリ最後ニ蔣ハ成都事件及其ノ他ノ不祥事件ニ付テ自分ハ貴國ニ對シ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ是等事件ヲ一日モ早ク外交交渉ニ依リ解決シ且將來此ノ種事件ノ絶滅ヲ期シ以テ兩國間ノ暗影ヲ除去スルコト切望ニ堪ヘス尙自分ハ當分南京附近ニ滞在ノ筈ニ付機會ヲ見テ再會ノ上更ニ意見ヲ交換シ度キカ幸ヒ張部長モ日本ニ對シ理解ト同情ヲ有シ居ル次第ニ付貴大使ノ御努力ニ依リ又自分モ協力シテ國交調整ノ實現ヲ圖リ度ク自分ハ本日貴大使トノ會見カ兩國國交調整ノ發端ヲ爲スモノナルコトヲ期待スルモノナリト述ヘ會談ヲ終レリ

内話セル所ニ依レハ右モ亦日支交渉ノ一前提トシテ蔣介石カ歸寧後直ニ揭ケシメタルモノナル趣ナリ支、在支各總領事、北平、厦門ヘ轉電セリ支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

(別電)

第八一二號

南京 10月8日後発
本省 10月8日夜着

今日川越大使ト會見シ日支兩國ノ前途並ニ東亞ノ大局ニ付意見ヲ交換セルカ目下交渉中ノ具體問題ニハ觸レス双方全ク平等ノ立場ニ於テ談話セルカ川越大使ノ精神並ニ對談ノ眞摯ニシテ坦。白ナルニハ寔ニ敬服セリ蓋シ大使ノ意見ハ全ク廣田首相カ昨年議會ニ於テ發表セル方針即チ不脅威、不侵略ノ原則ニ基キ國交調整ノ實現ヲ計ラントスルモノナリ若シ日本ノ外交方針カ從來大使ノ精神ニ基キ行ハレタリシナランニハ日支兩國間ノ感情ハ決シテ今日ノ如キ形勢ニハ至ラサリシナラン今後日支外交ハ平等ノ精神ニ基キ行ハルヘク大使ノ誠意ニ依リ日支兩國間ノ問題ハ外交ノ常道ト和

68 昭和11年10月8日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

川越大使との會談後に發表された行政院長談話について

別電 十月八日發在南京須磨總領事より有田外務大臣宛第八二二號
右談話

南京 10月8日後発
本省 10月8日夜着

第八一三號

往電第八一〇號ニ關シ

川越大使ヨリ

本日ノ會談ニ關シテハ蔣介石ハ新聞記者ニ對スル談話ノ形式ヲ以テ大要別電ノ如キ感想ヲ發表スルコトナリ右原稿ハ高宗武ヨリ豫メ當方ニ提示シ其ノ了解ヲ求ムル所アリタルカ高ノ内話ニ依レハ右ハ之ニ依リ一般ノ空氣ヲ緩和シ交渉ノ圓滿解決ヲ計ル目的ヲ以テ起草シタル趣ニテ多少誇張セル點アルモ了解ヲ願度シト附言セリ

因ニ往電第七八三號新聞社聯合聲明モ張公權カ七日須磨ニ

平ノ精神ニ依リ解決セラレ過去ノ紛糾ト暗影トハ一掃セラレヘシト信ス人類ハ感情ニ富ムカ故ニ精。誠ヲ以テセハ何者ヲモ感動セシメ得ヘシ余カ昨年春四川ニ赴クニ當リ發表セル對日感想モ要スルニ吾人カ精誠ヲ示セハ日本モ亦必ス精誠ヲ以テ相應スルノ日アルヲ豫期シ余ノ抱負ト希望トハ必ス貫徹スヘキヲ信シ發表セルモノナリ支、在支各總領事、北平、厦門ヘ轉電セリ支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

69 昭和11年10月10日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

中国との一般的防共協定締結交渉に当たり協定の地理的範圍につき請訓

南京 10月10日後発
本省 10月10日夜着

第八一四號(交渉)

貴電第一八七號ニ關シ

冒頭貴電ノ如キ一般的協定ノ締結方ニ付テハ折角努力中ナルモ右ハ支那側ニ對シテハ全然新ナル要求ナルノミナラ

ス累次往電ノ通り國內親蘇派ノ策動相當有力ナル次第第二モアリ面子上モ對内問題上モオイ夫レト我方提案ニ應シ難キ情況ニアルノミナス内心ハ單ナル一般的赤化防止(協定)ト云フモ實ハ赤化ノ根源ハ素ヨリ蘇聯ヲ措イテ他ニナキ次第ナルニ鑑ミ日本側ニ於テ漸次之ヲ切懸トシテ全面的防共協定ヲ實現セントスル足掛リト爲サントスル意圖ナルヤニ解シ深キ疑ヲ有シ居リ又蔣介石ハ馮玉祥等軍人派及陳立夫等ノ黨部ニ氣兼シ對日政策上ノ手トシテ表面ハ眇クトモ蘇聯ニ對シ「フリーハンド」ヲ保持シ置カントスル底意アル次第ナリ就テハ桑島局長ヨリ篤ト御説明ノ次第アリ尙一層ノ努力ヲ以テ先方ノ説得ニ努メ度キ所存ナル處爲念左記ノ點ニ關シ御意嚮回電アリ度ク尙日獨間ノ協定ニ關スル材料至急參考迄御送付アリ度シ

(一) 本件協定ノ地域範圍ハ支那全土ノミナリヤ或ハ日本全土ヲモ含ム相互ノモノナリヤ

(二) 本件ノ實質的範圍ハ中國共產黨、共產軍ノミナラス日本ニ於ケル共產運動ヲモ含ムモノナリヤ從テ赤化防止達成ノ爲取ルヘキ措置モ唯ニ支那側又ハ支那ニ限定セス日本側及日本ヲモ含ム相互ノモノナリヤ

テハ中央黨部宣傳部ヲシテ支那側ノ立場ヲ説明セシメ何トナク成都事件發生當時ニハ我方ノ苦境ニ同情シ來リタル外國側一般輿論力漸次消エ行クヲ見計ヒ最近何レヨリトモナク漏洩スル所謂我方要求六項目等ヲ夫レトナク外國側ニ漏ラシ特ニ防共、北支ノ兩問題ニ關聯シ如何ニモ日本力無理要求ヲ強ヒツツアルカ如キ空氣ヲ作ルニ努メ居タル處果然十日ノ双十節祝賀會及張群ノ晚餐等ノ機會ニ於テ各國大使等須磨ニ對シ質問ノ傍別電第八二三號ノ如キ意嚮ヲ述ヘタルカ折柄九日歸寧セル戴天仇モ俄然日本要求拒絕論ヲ唱ヘ馮玉祥一派ノ連露論ト相俟テ一應決定セルカ如キ蔣介石ノ意嚮モ仲々最後ノ階段ニ入ラス十日須磨ト會談ヲ約セル高宗武ニ對シ張群ハ形勢更ニ纏マル迄會談スルコト不得策ナリトテ約ヲ取消サシメタル事實アリ前途樂觀ヲ許サス

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

支、北平、天津ヘ轉電セリ

(別電)

南京 10月11日後発
本省 10月11日夜着

支ヘ轉電セリ

70 昭和11年10月11日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

南京での交渉に対する列国世論が中国に同情的となるにつれて中国国内に日本側提案拒絶
論台頭について

別電 昭和十一年十月十一日発在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛第八二三号
各国大使の反応振り

南京 10月11日後発
本省 10月11日夜着

第⑧三三號(館長符號扱?)

往電第三二一號ニ關シ

川越大使ヨリ

双十節ヲ機會ニ蔣介石ハ主ナル外國使臣等ニモ會見シ(ハ日本使トノ會見後英國大使ト會見又九日來寧ノ米國大使ハ蔣ノ方ヨリ會見希望ナラスヤト申入レタルモ結果ヲ見サリシ事實アリ)又恰モ當地ニ集マレル外國新聞記者等ニ對シ

第⑧三三號(館長符號扱?)

(一)⁽¹⁾英國大使、同大使ハ九日夜蔣介石ノ招宴ニ於テ蔣ハ前日本使ト會談ノ結果日本ハ領土不可侵、行政統一ノ原則ヲ認メタリトテ満足氣ニ將來大イニ希望アル旨述ヘタル所ヨリスルモ日本ハ支那ニ對スル要求中困難ナル數點(防共、北支ニ問題ヲ指スモノナルヘシ)ヲ思ヒ止マリシ譯ナリヤト言ヘルニ對シ須磨ヨリ蔣ノ印象ハ兎モ角日本トシテハ今迄ノ所形勢一向進展セスト見ルノ外ナク日本ハ支那ノ斷然タル「イニシアテイヴ」ヲ望ムモノニシテ要求ノ撤回等ハ觀念上モ誤ナリト應酬シ置キタリ

(二)蘇聯大使、同大使ハ新聞紙上ニ依レハ日支間ニ防共協定ヲ作成シタル處右ハ客年來ノ三原則中ニアリシ赤化防止ヲ意味スルモノトスレハ豫テ貴官ニ質問セルカ如ク日支間ニ對蘇同盟様ノモノヲ作ル譯ナリヤ實ハ綏東方面ノ僞軍等ニ關スル問題カト思ヒ居タルモ最近ノ確報ニ依レハ對蘇問題タルカ如キ懸念アルニ付「インデイスクリー」ト「乍ラ同フ次第ナリト言ヘルニ對シ須磨ヨリ日本ハ支那カ日支關係ノ改善ノ爲執ルヘキ自發的措置ヲ俟チ居ルニ過キスト應酬シ置キタリ

(三)佛國大使、佛蘇相互援助協定ハ歐洲ニ於ケル政治的約束ニシテ極東ニ全然關係ナキニ拘ラス如何ニモ右協定ニ關聯シ佛國ハ支那ニ對シ今回ノ時局ニ關聯シ何等カノ措置ニ出ツヘシト觀測スル者アルモ(須磨ヨリ顧維鈞カ佛國政府ニ右趣旨ヲ申出テタリトノ消息ハ事實ナリヤト問ヘルニ全然關知セスト答ヘタリ)東亞ニ於ケル唯一ノ平和的措施ハ日蘇間ニ佛蘇間ノ如キ了解ナリトモ遂クルノ外ナカルヘキ處新聞報道ニ依レハ今回日支間ニ所謂防共施設ト言フ企アルカ如キモ右ノ如キハ東亞ノ爲又支那ノ爲ニモ決シテ欣フヘキコトニアラス又自分ハ八年後再ヒ支那ニ來リ支那カ工業ノ發達ヲ遂ケツツアルコト(須磨ヨリ淺薄ナル謬見ナリト批評セリ)及英支間ノ親善關係全ク回復サレタルコトニ驚キ居ル次第ナルカ要スルニ日本モ英國ノ如ク或機會ニハサラリト方向轉換スルコト必要ナルヘク今ノ儘ニテ而モ日本ヨリ尙支那ニ要求ヲ續クルカ如キ狀況ニテハ支那ハ舊態依然タリト見クヒルニモ等シク

(3)前途幾多ノ不祥事件ナキヲ保セスト述ヘタルニ對シ須磨ヨリ日本ノ東亞ニ於ケル安定力タル地位ハ自ラ他國ノ出

歸ルカ如ク所謂統一ト言フモ忌憚ナク言ヘハ日本ハ統一ヲ阻マストノ消極的援助ニ依リ繫キ行キ得ル「ペーパー、ユニテイ」ナリ之ヲ今回ノ事件ニ照ラセハ支那カ今日本ノ示シツツアル忍耐ニ甘ヘテ強カリヲ出サハ統一モ目茶苦茶トナルヘキヲ觀念セサルカ爲ニ交渉ハ難澁ヲ極ムヘク他面日本モ日支關係ヲ軌道ニ歸スコトカ前述ノ如キ國民進展力ノ爲ニハ最善ノ策ナルヲ信スル大政治家的態度アルコトヲ要ス最近米國輿論カ極メテ靜ナルハ米國自體カ財政問題ニ絡ム内政上ノ紛糾竝ニ南米問題ノ爲東亞ヲ顧ミル餘裕ナキニモ因ルモ要ハ右ノ如キ日本ノ意圖ヲ漸次理解シ來リタルカ爲ナリト述ヘタルニ對シ

(5)須磨ヨリ支那ノ事態ヲ改善スルコトハ日米共同ノ利益ニシテ此ノ見地ヨリ支那ヲシテ乘セシムルカ如キ「ゼスチユアー」ニ出テラレサルコト當然ノ措置ナルカ出來得レハ日英兩國ノ如キハ是等ノ見解全然一致シ居ル旨ヲ何等カノ形式ニ依リ表示シ得ルカ如キ時ノ近カラシコトヲ望ムト答ヘ置キタリ

(四)獨逸代理大使、「フイツシャー」ハ日支會談中ニハ日本顧問ノ問題アル趣ノ處目下當地ニ在ル獨逸軍事顧問等ヨ

様ヲ其ノ儘取入ルル能ハス又英國ノ出方モ左ルコトヲ根本ハ支那カ以夷制夷ノ政策ヨリ時ニ應シテ第三國ヲ利用セントスルニ依ル點ハ佛國ト雖忘ルヘカラス日本ノ現ニ執リツツアル態度ヲ認ムルコト以外ニ支那ノ活路ナシト確信スト答ヘ置キタリ

(四)米國大使(過般須磨ヲ來訪セル「フレデリック、モアー」ノ内話ニ依ルモ「ジョインソン」ハ本國政府ノ東亞不干涉的傾向ニ基キ特ニ「アルーフ」ノ見解ヲ強メ來リタル由)同大使ハ日本ハ事實上ハ今ヤ軍人ノ率キル所トナリシカ結局軍人ハ大衆タル農民ノ味方トシテ國民發展ノ爲飽迄内外ニ對シ進展ノ活路ヲ見出シ居ルトノ信念ニ依ル處支那ハ先ツ之ヲ理解スルノ要アルニ拘ラス遺憾乍ラ支那ニハ政治家ナク徒ニ國權恢復ト言フカ如キ強カリニ終始スル爲日本ハ嫌々乍ラ

(4)北支ニ迄進出シ幾多ノナクモカナノ問題ヲ起シツツアル事實ヲ悟ラサルヘカラス即チ支那ハ日本ヨリ援助ヲ仰クヘキ限度及必要ヲ見極メテ掛ルヘキモノナルニ徒ニ他力本願ノ爲事態ヲ紛糾セシメツツアリ支那ハ言ハハ沙漠ニシテ日本ノ如キカ水ヲ灌ク間ハ固マリ水ヲ除カハ砂塵ニ

リ種々問合ノ次第モアルニ付日本側顧問トハ其ノ部門及數等ニ付テモ決定ヲ見タリヤト問ヘルニ付須磨ヨリ日支關係改善ノ爲ニハ顧問ニ依ルコト捷徑ニシテ支那ハ進ンテ之カ實施ニ至ルヘキヲ期待シ居ルモノナルモ日本ハ勿論他國ノ顧問ヲ廢セントスル積リナシト答ヘ置キタリ

支、北平、天津ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

71 昭和11年10月14日 有田外務大臣より
在南京須磨總領事宛(電報)

中国との一般的防共協定締結交渉に当たり協定の地理的範圍につき回訓

第一九三號(極秘)

貴電第八一九號ニ關シ

本省 10月14日發

御問合ノ協定ニ關シテハ機微ナル關係アリ此ノ際詳細ノ點ハ説明ヲ差控ヘ度キ處同協定中本件日支間ノ一般的反共協定締結ニ關シ參考トナルヘキモノハ曩ニ桑島局長ヲシテ携行セシメタル反共協定案ノ趣旨ヲ出テス即チ兩國ハ『共

産「インターナショナル」(「コミンテルン」)ノ目的カ凡ユル手段ニ依リ現存國家ヲ破壊セントスルニアルニ鑑ミ「コミンテルン」ノ活動ニ付相互ニ通報シ必要ナル措置ニ付協議スヘキコト竝ニ右目的達成ノ爲締約國ノ當該官廳ハ「コミンテルン」ノ活動ニ關スル情報ヲ交換スル外、國內又ハ國外ニ於テ直接又ハ間接ニ「コ」ノ工作ヲ助長スル國民ニ對シ各國內法ノ範圍內ニ於テ適當ノ防壓措置ヲ講スルコト」等ヲ骨子トスルモノニシテ全然相互的ナリ、換言スレハ右ハ全ク「コミンテルン」ヲ對象トスルモノニシテ協定ノ地域等ニ關シテハ何等規定シ居ラス日支反共協定ニ關シ我方ノ狙ヒ居ル所モ右ト全然同様「コ」ノ活動ニ關スル情報ヲ相互ニ提供スルト共ニ右ニ關スル啓發及防遏ノ措置ニ付隔意ナキ意見ヲ交換スル以外他意ナク從ツテ冒頭貴電(一)及(二)ノ如キ問題ハ本協定トハ直接ノ關係ナキ次第ナルニ付テハ右御含ノ上支那側說得方此ノ上共御盡力相成度シ尤モ右說明ニ拘ラス支那側ニ懸念アルニ於テハ(一)ニ關シテハ勿論日本全土ヲモ含ムヘク又(二)ニ關シテハ本協定ハ「コミンテルン」ヲ直接ノ對象トスルモノニシテ中國共產黨共產軍又ハ日本共產黨等ハ間接ノ問題タルニ過キサル譯ナルカ「コ」

ト關係アルモノニ關シテハ勿論日本ノ共產運動ヲモ含ムモノナル旨説明セラレ差支ナク又内容ハ必スシモ前記ノ如キ各條項ヲ含ムヲ要セス如何様トモ相談ノ余地アル次第ナリ追テ右御問合セノ協定ニ關シテハ絕對極秘トセラレ度御如オナキコトトハ存スルモ念ノ爲

72 昭和11年10月14日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

日本側提案に対する中国政府の回答方針を高
宗武説明について

南京 10月14日前發
本省 10月14日前着

⑧ 第八二九號(至急、交渉、極秘)

往電第八二二號ニ關シ

川越大使ヨリ

本十三日高宗武須磨ヲ來訪シ七日須磨トノ會談ニ關シ殆ト毎日幹部協議ノ經過竝ニ結果ナリトテ左ノ通り述ヘタリ

(一)九日戴天仇歸來シ王正廷等ノ歐米派貴見モ加ハリ俄然日支交渉直論擡頭シ之ニ例ヘハ六日英國大使張群ヲ訪問

シ英國トシテハ日支交渉ハ勿論支那ノ爲助力スルコト不可能ナルモ支那ハ此ノ際婉曲ニ日本ノ要求中困難ナル部分ヲ斷ルコト大局上得策ナルヘシトノ進言ヲ爲シ(此ノ點例ノ情報ト符合ス)其ノ他ノ大使ヨリモ大體同様若クハ夫レ以上支那ヲ噉ケルカ如キ申出モアリ殊ニ燕京大學教授中米人「スチユアート」ノ如キハ支那ハ此ノ際對日宣戰ヲ爲スコト延イテハ滿洲問題ヲモ支那ニ有利ニ解決スル方法ナリト主張スルアリ自然是等ノ空氣政府部內ニ反映シ初メハ對日妥協論ニ傾キ居タル王世杰モ遺直論ニ轉向スルアリ一般空氣モ極メテ險惡トナリ高自身モ身邊ノ危險ノ爲毎夜居所ヲ變ヘ居ル程ナリ

(二)以上ノ空氣ニ拘ラス蔣介石、張群ハ兎モ角此ノ際交渉ヲ取纏ムル方針ニテ進ムコトニ決心シ十一日以來ハ極少數ノ幹部ニテ協議シ大體左記ノ通り方針一決セリ(此ノ決定ハ他ノ院長ニモ知ラセ居ラサル程ニ付絕對極秘トセラレ度シト繰返シ居タリ)

(一)防共問題

(イ)防共其ノモノニ絕對反對ノ向増加シ蔣介石モ實ハ政策ノ大轉向ハ日本側カ上海、塘沽兩協定ヲ解消スル

コトヲ條件トシ居タル程ナルカ支那側五項目ニ付テハ須磨ヨリ申出ノ此ノ際ハ問題トセス日本側カ紳士協約ノ二間キ置クコトニ改ムルコトトスルモ唯冀東政府ノ解消、綏東僞軍ノ解消丈ケハ日本側ニ於テ近ク自動的ニ實現スルコトヲ期待シテ(此ノ二ツ丈ケハ少クモ條件トスヘシトノ主張未タニ強シ)九月二十三日張群ヨリ言明ノ防共原則ヲ認ムルコトトシ地域ハ山海關、包頭ノ線以北トスルコト最大限ナレハ三省ヲ防共區域トスルコトニ關シ一應ハ傳作儀、閻錫山ニ電照中ナルモ未タ回答ナキカ政府部內殊ニ軍務當局ノ強キ主張ニ依リ幾度カ四省又ハ三省說ヲ訴ヘタルモ效果ナカリキ

右ニ對シ須磨ヨリ山西省ヲ加ヘタル四省トスルコト然ルヘク假ニ三省トスルモ山西省雁門道ヲ含ムコト絕對必要ナル旨ヲ繰返シ且防共施設討議ノ爲日支共同委員會ヲ南京ニ置クコトノ絕對必要ナル趣旨ヲ強調シタル處高ハ地域ノ點ハ遺憾ナラ何トモ考慮シ難ク日本側カ飽迄之ヲ主張セラルルニ於テハ防共問題ヲ後廻シトスル(何應欽等ノ主張)ノ外ナシト答ヘ

(3) 共同委員會ノ件ハ更ニ考慮スヘシト言ヘリ

(ロ) 須磨ヨリ共產主義防止ノ一般の相互協定締結方ニ付委曲ヲ盡シテ力説シタル處高ハ本件ニ付テモ數回論議濟ナルカ此ノ種協定(締)結發表スルコトハ今ノ處全然見込ナシト答ヘタルニ對シ更ニ須磨ヨリ本件ハ日本政府ノ最重要視スル所ナルノミナラス外國側等カ日支間ニ蘇聯ニ關スル密約テモナキヤヲ猜疑スヘキ處ニ對スル「ゼスチュア」トシテモ亦日支共同ノ目標ヲ此處ニ置クハ國民政府カ死力ヲ盡シ來レル反共政策トカ全然合致スル點ヨリモ支那側ニ於テ欣然之ニ應諾シテ可ナルヘキヲ力説シタルニ對シ高ハ然ラハ内情ヲ申上クヘシトテ八日本使トノ會見ニ於テモ蔣介石カ明示シタル通り現在政府内ニモ聯蘇論ヲ主張スル者多ク又實ハ外國側(明カニ「ボゴモロフ」ヲ意味セリ)カ早クモ此ノ種ノ話アルヘキヲ豫想シテカ于右任、王陸一、馮玉祥一派ヲ通シ猛烈ナル策動ヲ開始シ居リ今ノ處何トモ考慮ノ餘地ナク唯今次交渉ノ結果日支ノ關係ヲ好轉セシメ得ルニ於テハ最近ノ機會ニ於テ蔣介石ヲシテ或一地點ニ於テ廣

ヘシト主張スル者多キ次第ナルカ御話ニモ依リ此ノ際ハ是等ヲ問題トセスト述ヘタリ

(三) 日支通商關係ヲ促進スル爲「シンジケート」ヲ日支有力者間ニ組織セシムルコトハ賛成ナリ又

日支關稅協定ノ復活ニ付須磨ヨリ孔祥熙ニ對シ申入レタル次第ハアルモ(往電第七四五號)結局此ノ際ハ考慮シ難キコトニ決定シ唯關稅ハ主トシテ日本側ノ希望ニ基キ三、四箇月内ニ引下ヲ實行スル用意アリ但シ之ニ伴ヒ日本側ニ於テモ密輸取締ニ協力アリ度シト述ヘタルニ對シ須磨ヨリ關稅協定ノ復活出來サルニ於テハ少クモ日本側希望ヲ容レタル改訂關稅率ヲ例ヘハ三年位据置クコトニ協定若クハ了解出來問敷キヤト迫レルニ高ハ右ノ如キ了解ハ支那トシテ關稅自主權ノ建前ヲ壞スコトナリ考慮ノ餘地ナシト答ヘタリ

(四) 顧問ハ三、四箇月内ニ招聘ス(須磨ヨリ軍事顧問及軍事教官ノ招聘遂行方ヲモ念ヲ押シ置キタリ)

(五) 不逞鮮人ハ逮捕引渡ニ異存ナシト述ヘタリ
(六) 航空聯絡ニ付テハ即時調印シ實行期ヲ半年後トシ其ノ間ニ北支飛行問題解決方ヲ條文中ノ末尾ニ附加シ

田總理ニ會見ヲ爲サシメ日支關係ニ付根本的ノ了解ヲ遂クルト共ニ反共ニ關シ

(4) 共同聲明ヲ爲サシムルカ如キ案ヲ内々考ヘ居リ實ハ蔣介石ニ自分ヨリ一寸之ニ觸レ置キタル程ニテ何レニセヨ今次交渉ヲ纏メラルル趣旨ナラハ本問題ハ他日ニ延ハサレ度シト繰返セリ

(二) 北支五省問題

冀察二省ノ現狀維持ハ支那側ヨリ原則トシテハ認メ難シ蓋シ右ノ如キ承認ニ依リ冀東政府、自由飛行、密輸ノ現狀等ヲモ是認スル結果トモナル譯ナレハ此ノ際無言ノ間ニ冀察ノ現狀ヲ維持シ行クコトト致度シ他ノ三省ニ關シ須磨ヨリノ提示セル包括的訓令即チ授權ヲ爲スコトハ出來サルモ御趣旨ニ從ヒ具體問題ノアル毎ニ必要ナル訓令ヲ發スルコトニ異存ナシト述ヘタルニ對シ須磨ヨリ右決定ハ恐シク日本側ノ意嚮ト遠サカル次第ヲ述ヘ再考ヲ促セルニ高ハ實ハ支那側トシテハ冀察ノ現狀ニ慍ラス例ヘハ張公權ヲ多少ノ軍隊ト共ニ平津地方ニ簡派シ新ナル行政ヲ行ハシメ必要ナラハ綏遠ヲモ加ヘテ三省ニ對シ軍人ノ手ニ依ラサル施政ヲ實行ス

度ク又客年十月廿三日決定ノ合約中ニ極メテ小キ技術的變更ヨリ、三申出テ度キ意嚮ナリト述ヘタルニ對シ須磨ヨリ實行期ハ兎モ角今猶北支飛行問題ト引懸クルニ於テハ又ゾロ九月廿三日ノ話ニ戻ル次第ニシテ絶對不可能ナリト揉合ヒタル結果高ハ無條件實施ノコトニ更ニ努力スヘシト答ヘタル處須磨ヨリ合約案ニ關スル交通部ノ研究モ左ルコト乍ラ我方トシテモ同案ヲ最後のニ整理シ度キニ付早速交通部ヲシテ李景樞ニ須磨ト折衝方取計ハシムル様手配方申入レタルニ高ハ之ヲ承諾セリ

(三) 尙成都總領事館ノ再開ハ今次交渉纏マリ次第實施シ差支ナキ旨七日高ヨリ言明アリタリ

73

昭和11年10月14日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

中国国内の政治状況にも鑑み共同防共問題に
ついては譲歩も考慮すべき意見具申

南京 10月14日前発
本省 10月14日前着

⑧ 第三〇號(至急、交渉、極秘)
往電第八二九號ニ關シ

川越大使ヨリ

一、高宗武ノ須磨ニ對スル内情ノ打明話ハ勿論多少駈引ノ意味モアルヘキモ他方我方ノ入手シ居ル例ノ内報其ノ他ノ情報ニ依ルモ大體困難ヲ加ヘ來リタル事情ハ累次往電ニ依リテモ御高察ノ通りニシテ殊ニ外國大使等ノ見解モ往電第八二二號ノ通り概ネ支那ノ强硬態度ヲ憑シ日支關係ノ決裂ニ依リ却テ各自國ノ立場ヲ有利ナラシメントスル下心アル者サヘアリ又外國新聞記者等モ此ノ間ヲ縫ヒ一層支那側ノ態度ヲ硬化セシメ其ノ消息ヲ發キツツアル次第ニモアリ今後交渉ノ遷延ニ伴ヒ益々此ノ傾向ヲ増スヘキヤニ觀測セラレ

ニ右情勢ニ(對シ)我方ニ於テ武力ニ訴フル程ノ決意ヲ爲スニ於テハ格別支那側ハ既ニ日本ハ決シテ最後ノ決意ヲ爲スモノニアラスト判斷シ居リ桑島局長ノ來支ハ主トシテ日本側ノ讓歩ヲ意味スルモノナリトシ殊ニ最近行政機構改革問題ニ關シ政府ト軍部ト正面衝突ノ結果内閣ノ更迭モ遠カラストノ觀測東京方面ヨリ支那側ニ打電セラレ居

會話モ爲サシメタルハ實ハ將來機會アル毎ニ是等ノ目標ニ支那側ヲ指導スル心組ニ外ナラス要ハ第二次北支處理要綱ノ實施ヲ手始め居タル譯ニテ少クトモ今回ノ交渉ニ依リ支那側ヲシテ北支ニ對スル我方ノ意嚮ニ付漸次觀念セシメ延イテハ今後我方カ執ルコトアルヘキ行動ヲ根據附ケル效果ハアリシモノト言フヘク此ノ際トシテハ先ツ冒頭往電先方申出ノ程度ニテ我慢シ置クコト然ルヘシト存セラレ

三、爾餘ノ四項ニ付テハ大體御訓令ノ趣旨ニ依ル解決ヲ遂ケ得ヘキ處防共ニ付テハ共同委員會ヲ設置セシメ山海關、包頭線ニテ我慢スルカ左モナクハ寧ロ支那カ政策ニ一大轉向ヲ加ヘ日本ト共同防共ヲ實行スルニ決定セル趣旨ヲ明確ニシ右實行ノ方法及地域等ニ付右委員會ヲシテ研究セシムルノ「ライン」ニテ纏メ今後機ヲ透サス一般赤化防止協定ヲモ促進スルト共ニ北方防共施設ヲ漸次廣汎ニ確立セシムル様指導スルコト然ルヘシト存セラレ

六、桑島局長ヨリ段々説明ノ次第ハアリ(脱)居ルモ右諸點篤ト御勘考ノ上折返シ御回電ヲ請フ

リ(例ノ内報)南京政府部内ノ大多數及民衆ハヨモヤ蔣介石カ冒頭往電ノ如キ決定ヲ爲ササルヘシトサヘ考ヘ居ル情勢ナリ

三、我方六項目中防共問題ハ最重キヲ置ク點トシテ本使及須磨ニ於テ蔣介石、張公權、高宗武等ニ力説ヲ續ケツツアルモ一般的赤化防止ハ我方ノ國邊防共施設ヨリモ餘程容易ナルモ高宗武ノ述ヘ居ル通り之ヲ固執スルニ於テハ全体ノ交渉ヲ頓挫セシムルノ惧アリ然ラハ支那側カ最困難ナルヘキ軍事同盟ノ發端トシテノ施設ヲ何カ故ニ承諾セリヤノ疑問生スル所右ハ今春蘇蒙協定發表ニ關聯シ吳震修ヲ了解指導ノ爲日本ニ派遣セル頃ヨリ支那側カ日本ヲシテ内蒙及北支ニ對スル進出ヲ緩和セシムルニハ對蘇軍事協定ヲ持出スニ限ルト見込ミタルモノナルヘク現ニ今回ノ塘沽、上海兩停戰協定、山東、綏東僞軍ノ解散、冀東政府ノ解消等ノ問題ヲ吹キ掛クル爲ニウツカリ藉シテ見タル言質ヲ我方ニ捉ヘラレ而モ條件トスル所謂支那側五項目ハ有耶無耶トサレ餘儀ナク山海關、包頭ノ線ニ依ル防共ヲ取消サスニ居ル程度ナリト觀ルノ外ナシ

四、北支問題ハ元來須磨ヲシテ五省六項目ヲ持出シ次テ特政

74 昭和11年10月15日

有田外務大臣ヨリ
在南京須磨總領事宛(電報)

共同防共問題も含め讓歩することなくわが方

提案貫徹方訓令

本省 10月15日發

第一九四號(極秘)

貴電第八三〇號ニ關シ

川越大使ヘ

一、往電第一八二號ノ方策ハ四相會議ニ於テ數次考究ノ結果決定ヲ見タルモノニシテ此ノ意味ニ於テモ貴大使ト支那側最高當局トノ間ニ二分ノ折衝アルコトヲ期待シ居ル次第ナル處右訓電發出後貴電第八一〇號ノ次第アリタルノミニテ然モ右會見ニ於テハ蔣ハ國交調整ニ關スル大局論ニ付支那側ノ希望ヲ開陳スルニ留マリ我方提案ニ對シテハ何等確タル意向ヲ表示セス、具体的ノ話合ハ張部長トノ間ニ繼續進行アリ度旨述ヘ居ル現狀ナリ就テハ須磨高宗武間數次ノ折衝ハアルモ此際蔣又ハ張ト貴大使トノ間ニ話合ヲ開始セラレ往電第一八二號我方提案ノ精神内容ヲ此ノ上共充分蔣、張ニ徹底セシメラルト共ニ責任

アル當局者ノ確タル意向ヲ突止メラルルコト當方各方面ノ狀況ヨリ見ルモ必要ナルニ付右御合ノ上至急可然御措置アリ度

三、追テ冒頭貴電御請訓ハ貴電第八二九號高宗武ノ須磨ニ對スル談話ヲ基礎トシ居ラルル處右ハ曩ニ高ニ於テ考慮方約束セル貴電第八〇四號ノ實行カ内政上其ノ他ノ理由ニテ實行不可能トナレリトテ釋明ニ之努ムルト共ニ泡ヨクハ我方要求ヲ値切り倒サントシ居ルモノナルノミナラス其ノ内容ニ付テモ例ヘハ防共問題ニ關シテハ廣田總理ト蔣介石トノ會見ヲ云々シ北支問題ニ關シテハ「無言ノ間ニ冀察ノ現狀ヲ維持シ」或ハ「具體問題ノアル毎ニ必要ナル訓令ヲ發ス」等全ク捕捉ニ苦シムカ如キコトヲ申シ居ル次第ニテ假令此ノ際本件交渉ノ急速妥決ヲ計ル爲我方限リノ肚トシテ右ニ基キ最小限度案ヲ作成セムトスルモ案ノ立テ方ニ窮スル次第ナリ(高宗武ノ當ニナリ難キハ往電第一六七號ノ三ヲ以テ申進ノ通りナリ)

75 昭和11年10月15日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

農民等ノ實狀右ノ如シトセハ却テ此ノ種協定ノ必要ヲ増スモノナラスヤト冒頭貴電ノ趣旨ヲ以テ繰返シ説得シ再考方ヲ促シ置キタルカ董ハ今ノ所見込ナシト繰返シ居タリ

76 昭和11年10月20日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

一般的防共協定締結を含め日本側提案を全面的に承諾するよう張群説得について

南京 10月20日前発
本省 10月20日前着

⑧ 第八五〇號(大至急、交渉、極秘)
往電第八二九號ニ關シ

川越大使ヨリ

貴電第一九四號ノ次第モアリ本使十九日午後三時ヨリ約三時間半ニ亘リ張群ト會談シタルカ(双方同席者ナシ)其ノ要旨左ノ通

一、先ツ本使ヨリ張ニ對シ今次ノ交渉ニ關シテハ去ル十三日須磨、高宗武間ノ話合モアリ支那側ニ於テモ充分考慮セラレタルコトト察スルモ此ノ際我方提案ノ内容ニ付充分

中国国内の対日感情に鑑み一般的防共協定締結は日中經濟合作達成後に譲りたいとの中国外交部意向について

南京 10月15日後発
本省 10月15日夜着

⑧ 第八三六號(交渉、極秘)

貴電第一九三號及往電第八三〇號請訓ニ關シ本十五日董道寧(楊雲竹ノ後任、五、六年間戴天仇ノ祕書トシテ考試院ニアリ黨部トモ關係深ク京大出身)本官ヲ來訪シ赤化防止ヲ日支共同目標トスル見地ヨリ支那全般ニ亘ル協定方ニ付其ノ後モ亞洲司中心トナリ折角考慮シ見タル處支那農村ノ最近數年ニ亘ル疲弊甚タシク知識階級ノ失業者激増シ事實上共產思想ニ侵サレ居ル程ノ實狀ナル上滿洲事變以來ノ潛行的對日感情一向改マリ居ラサル等豫テ高司令長等ヨリ御説明申上ケタル以外一層深キ事由モ存スル爲此ノ際ハ何トモ考慮シ難ク何レ今次交渉ヲ成立セシメタル上双方感情ノ融和ニ努力シ且農村等ニ迄行渡ルカ如キ日支經濟合作ヲ達成シ其ノ上ニテ赤化防止ノ一般協定ヲ遂クルノ外ナキコトニ一決セル旨ヲ述ヘタルニ對シ本官ヨリ果シテ

説明ヲ加ヘ國民政府ノ速ナル決斷ヲ望ムモノナリト冒頭シタル上先ツ防共問題ヲ持出シ貴電第一八二號ノ一(一)ノ(ロ)ノ防共協定ヲ説明シ其ノ受諾ヲ求メタル處張ハ本件提案ハ元來交渉ノ途中ヨリ加ハリタルモノナルカ支那側トシテハ此ノ種協定ハ到底締結シ難シト答ヘタルニ付本使ハ本件ハ全然相互の有利ノ約束ニテ國交調整上極メテ有意義ナル旨御來示ノ趣旨ニ依リ條理ヲ盡シテ説明シ支那側ニテ之ニ危懼ノ念ヲ抱クコトハ甚タ解シ難シト告ケタルモ張ハ依然難色ヲ示シ本件協定ハ極メテ困難ナルモ猶一應政府部内ニモ諮リ回答スヘシト答ヘタリ

二、北支防共協定ニ關シテハ張ハ須磨、高宗武會談ノ際ト同様本協定締結ノ條件トシテ冀東政府ノ解消及綏東僞軍ノ解散ヲ持出シ種々國民政府ノ立場ヲ訴ヘ何トカ考慮願度シト述ヘタルニ付本使ハ冀東問題ハ防共トハ全ク關係ナキモノニテ到底問題トシ難ク綏東問題ハ將來防共委員會ニ於テ話合フコトモ出來得ヘキニ付今茲ニ問題トスル必要ナシト告ケタルニ張ハ更ニ塘沽協定ノ解消ヲ持出シタルニ依リ本使ハ本件協定カ曩ニ貴部長ノ述ヘラレタル通り將來漸次發展シテ日支軍事同盟ニテモ出來ルコトトナ

◎¹⁾ 第八五九號(大至急、交渉、極秘)
往電第八五〇號ニ關シ
川越大使ヨリ
本使本二十一日午後三時ヨリ張群ト會見(同席者ナシ)約二

南京 10月21日後発
本省 10月22日前着

一般的防共協定締結および華北防共提携に關
し依然として中國側難色表明について

77 昭和11年10月21日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

支、天津へ轉電セリ

介石モ閉口シ居ル次第ナリト種々陳辯スル所アリ本使ヨ
リ蔣介石ニシテ日支國交調整ノ決心アラハスル反對ヲ彈
壓スルコトハ決シテ不可能ナラサルヘシト告ケタルモ張
ハ到底右ノ如ク簡單ニ片付ケ難シトテ容易ニ應スル色ナ
ク結局蔣介石ニモ請訓ノ必要アリトテ(蔣ハ本十九日杭
州ヨリ歸寧セリ)明二十日又ハ明後二十一日再會ヲ約シ
本日ノ會談ニ引續キ討議スルコトトセリ

三、⁽³⁾ 北支問題ニ付テハ張ハ依然須磨、高宗武會談ノ筋ヲ繰返
シ冀察二省ノ現狀維持ヲ承認スルコトハ自然冀東政府ヲ
認ムルコトヲモ含ミ到底不可能ナル旨ヲ述ヘタルニ付本
使ハ然ラハ冀察ニハ觸レス他ノ三省ニ對シ我方ノ要求ヲ
認ムヘシト告ケタルニ張ハ夫レハ結局日本カ冀察ニ於テ

レハ其ノ時コソ此ノ種停戰協定問題ヲ議スルモ差支ナカ
ルヘキモ今ノ所全然問題トナラスト一蹴シタルニ張ハ然
ラハ防共協定ハ如何ナル地方ニ於テ如何ナルコトヲ爲ス
モノナリヤト問ヒタルニ付本使ハ協定ノ地域ニ付テハ双
方主張同シカラス此ノ點ニ付テモ亦其ノ實施ノ内容ニ付
テモ專門委員會ニ於テ協議シテ可ナルヘシト述ヘ種々説
得ニ努メタルカ張ハ無條件ニテ本件ヲ受諾スルコトハ政
府ノ立場トシテ極メテ苦シク日本側ニ於テ支那側希望ノ
事項中切メテ一ツ位聞入レラレスハ之ヲ纏ムルコト困難
ニテ或ハ交渉全體ヲ破局ニ導ク惧アリトテ種々苦衷ヲ訴
ヘタリ依テ本使ハ北支ニ於ケル防共ハ日滿兩國ノ自衛上
是非其實行セサルヘカラサル所ニシテ支那側ニ於テ飽迄
協力ヲ拒ムニ於テハ我方トシテハ任意ニ必要ノ手段ヲ執
ルノ外ナシト念ヲ押セリ

勝手ニ振舞フコトトナリ支那側ニ於テハ到底容認シ難シ
要スルニ北支ニ於ケル日本ノ特殊ナル關係ニ鑑ミ經濟合
作ヲ爲スコトヲ認ムルモ右實施ハ國民政府ト日本トノ話
合ニ依ルコト支那側ノ要望ナリト述ヘタリ
四、關稅引下問題ニ關シテハ張ハ支那側自發的ニ之ヲ行フニ
異存ナシト述ヘタルニ付本使ヨリ日本側ノ希望ヲ充分容
ルル決心ナリヤト念ヲ押シタルニ張ハ出來得ル限り日本
ノ希望ニ副フヘキ旨ヲ答ヘタル後之ト交換的ニ密輸取締
問題ヲ持出シタルニ依リ本使ハ本件取締共助問題ハ今次
ノ交渉ニ關聯セシメス別途ニ考慮スヘキ旨ヲ説示セリ
五、顧問ノ問題ニハ言及セス不逞鮮人逮捕引渡問題ニ付テハ
何等議論スル所ナク張ハ承認セリ
六、⁽⁴⁾ 航空聯絡ニ付テハ張ハ須磨、高宗武會談ノ際ト同様北支
飛行問題解決方ヲ引懸ケ來リタルニ付之亦本使ヨリ斯ル
條件ヲ附シ難キ旨答ヘタリ
七、以上ノ通り種々折衝シタルカ防共協定ハ張ニ於テ最難色
ヲ示シ本件協定ニハ政府部内ニモ反對ノ聲相當強ク甚タ
シキハ日本側カ飽迄之ヲ迫ルニ於テハ交渉全部ヲ打切り
日支ノ國交惡化スルモ已ムナシト主張スル者サヘアリ蔣

時間半ニ亘リ會談シタル處其ノ要旨左ノ如シ
一、先ツ一般的赤化防止ヲ目的トスル協定ヲ話題トシ本使ヨ
リ桑島局長持參ノ案ノ趣旨ニ依リ詳細説明ヲ與ヘ張モ繰
返シ質問シ其ノ内容ニ付テハ先ツ認識シタル模様ナルカ
張ハ之ヲ協定トシテ發表スルコトナレハ(一)支那國民一
般ニ疑惑ヲ生シ(二)之ヲ利用シテ政府反對ノ策動ヲ爲ス者
出テ來ル惧アリ今日到底之ヲ受諾シ難ク何レ日支間ノ空
氣好轉シタル上更メテ相談スルコトト致度シト述ヘタル
ニ付本使ハ空氣ヲ好轉セシムルニハ積極的ノ努力ヲ爲サ
サルヘカラス現在ノ儘放任シテ空氣ノ好轉ヲ俟ツカ如キ
ハ無責任モ亦甚タシ若シ支那ニ於テ此ノ惡化セル關係ヲ
放置シテ顧ミサル態度ナラハ日本側ハ其ノ覺悟ニテ對應
セサルヘカラス又若シ過日蔣介石カ言明セラレタル通り
兩國國交調整ニ努力スル決心ナラハ此ノ際積極的ノ工作
ヲ施シ國民ヲ率キテ日支親善ノ途ニ向ハシムヘシ
本件協定ノ如ク兩國共通ニシテ且極メテ簡單明瞭ナル目
標ヲ掲グルコトハ日支間ノ空氣ヲ好轉セシムル絶好ノ材
料ニアラスヤ斯ル協定ニ對シ國民一般カ疑惑ヲ抱クヘシ
トハ信セラレス萬一何等誤解ヲ抱ク者アラハ政府當局ハ

三、以上本日ノ會談ハ殆ト防共問題ノミニテ終始シタルカ更ニ近日中再ヒ會談スルコトヲ申合セタリ

支、天津ヘ轉電セリ

~~~~~

78 昭和11年10月22日 在南京松村總領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

中国側説得のため日中防共協定の案文作成方意見具申

南京 10月22日後発  
本省 10月22日夜着

◎ 第八六一號(至急、交渉、極秘)

往電第八五九號ノ一二關シ

川越大使ヨリ

一般赤化防止協定ニ付支那側ハ冒頭往電ノ通り其ノ形式ニ反對ナルノミナラス内容自體ニ付テモ未タ幾分ノ疑惑ヲ有スルヤニ看取セラレ本使ノ説得ニ依リ漸ク蔣介石ト再應相談スルコト迄ニ漕着ケタル次第ニテ今後本使ニ於テ本件貫徹方最善ヲ盡スヘキハ勿論ナルモ成否全ク豫斷シ難キ實狀ニアル處此ノ際前記支那側疑惑ヲ一掃シ本件ニ關シ我方ノ

宜シク言論機關ヲ利用スル方法等ニ依リ進ンテ國民ヲ啓發指導スルニ努ムヘシ要スルニ斯ル明朗ナル協定ヲ躊躇スル様ニテハ支那ノ國交調整ニ對スル決心ノ程モ疑ハシキ次第ナリト言葉ヲ盡シテ説服ニ努メタル處張ハ協定ノ形式ヲ執ラス事實上之ヲ行フコトトシ例ヘハ上海ニ於テ日本官憲ト支那官憲トノ間ニ情報ヲ交換スルカ如キコトナラハ出來得ヘシト述ヘ協定締結ニ付テハ依然難色ヲ示シ國民政府トシテモ日本側ノ新ナル要求ニ屈服シタルカ如ク見ラレ其ノ立場極メテ困難ナリト附加ヘタルニ付本使ヨリ若シ本件協定カ日本側ノ要求ニ出テタルコト不便トスルニ於テハ支那側ノ提案トシテ之ヲ妥結スルコトトスルモ差支ナシト告ケタルモ張ハ容易ニ納得セス更ニ本使ヨリ種々説得シタル結果張ハ兎モ角更ニ蔣介石ト相談ノ上返答スヘシト答ヘタリ

三、次テ北支防共問題ニ移リ本使ヨリ本件協定ハ前回張カ希望シタルカ如キ綏東問題ト關聯セシメス無條件ニテ締結方ヲ要求スルモノナル旨急ヲ押シタル處張ハ最近綏東方面ノ形勢逼迫セル旨種々情報アリ且冀察ニ於テモ日本側カ勝手ニ種々ノ工作ヲ進メ居ル模様ニテ國民政府トシテ

ハ甚タ其ノ立場ニ窮シ延イテ今回ノ交渉ニモ面白カラサル影響ヲ與ヘツツアリ政府ノ立場上極メテ困難ナリト泣言ヲ竝ヘ立テタル後日本側ノ希望スル共同委員會ノ設置ハ先ツ本件協定ノ實施區域ヲ定ムルニアラサレハ承諾シ難シ

④ 日本側ニ於テハ冀察、綏遠ヲ其ノ地域トスルコトヲ主張セラルルモ支那側ハ山海關、包頭ヲ連ヌル線以北ニ限定シ度キ次第ナリト述ヘタルニ付本使ハ右地域ニ付テハ本件カ外蒙方面ヨリスル赤化ノ脅威ニ對スル防遏ヲ目的トスルモノナルヲ以テ此ノ精神ヨリ推シテ考フレハ自ラ一定ノ地域アルヘシ山西省雁門道ノ如キモ右地域ニ加フル必要アリト告ケタル處張ハ更ニ本件協定ニ於テ爲スヘキ仕事ノ内容ヲ明カニセサレハ漫然ト之ヲ承諾シ難シト述ヘタルニ依リ本使ハ其ノ内容ニ付テハ委員會ノ協議ニ委スル方可ナルヘク要ハ共同防衛ノ目的ノ範圍内ニ於テ行フ次第ナルニ付取越苦勞ヲスル必要ナカルヘシト説明シタルニ張ハ納得セス當地ニハ兩宮輔佐官モ居ルコトナレハ切メテ其ノ大綱文ケニテモ承知シ度シト述ヘタルニ付本使ハ何レ次回ニ返答スヘシト告ケ置キタリ

求ムル所ヲ一層明瞭ナラシムル爲ニハ機ニ應シ本使ヨリ張群ニ對シ本件ニ關スル我方協定案文ヲ提示スルノ必要モ生スヘキニ付テハ協定内容等ハ先般桑島局長持參ノ案文並ニ其ノ後累次ノ貴電ニ依リ大體明カナルモ右ヲ成文化シタル協定案御作成ノ上折返シ回電アリ度ク尙右作成ニ當リテハ形式並ニ内容共目下支那側ノ機微ナル内部關係ヲモ考慮ニ容レ成ルヘク支那側ニ於テ受諾シ易キ體裁文言トセラレ且出來得レハ數個ノ代案ヲ用意セラルル様致度シ

尙本件情報ノ交換並ニ防遏措置ノ協議等ヲ行フヘキ官廳並ニ其ノ場所等ニ關スル御意嚮ヲモ併セテ御回電アリ度シ

支ヘ轉電セリ

~~~~~

79 昭和11年10月23日 在南京松村總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

一般的防共協定締結は受諾しがたき旨を有田外相へ通報するよう外交部が許大使に訓令したとの高宗武内話について

南京 10月23日後発
本省 10月23日夜着

第八六八號(大至急、交渉、極秘)
往電第八五九號ニ關シ
川越大使ヨリ

本二十三日午後三時高宗武本使ヲ來訪會談ノ要旨左ノ通
ニ高ハ外交部ニ於テハ昨二十二日午後九時許大使ニ宛テ目
下交渉中ノ防共問題ニ關シ有田大臣ト會見ノ上
(一)北支防共協定ハ其ノ地域ヲ山海關、包頭ヲ連ヌル線以
北トシ其ノ協定スヘキ事項ノ大綱判明スレハ共同委員
會ヲ設置スルコトニ異存ナキモ

(二)一般的赤化防止ニ關スル協定ハ其ノ内容ハ左シテ重大
ナルモノニアラサレトモ對内關係上今直ニハ到底受諾
シ難ク即チ強ヒテ之ヲ成立セシムレハ一般對日感情ハ
一層惡化シ之ヲ利用シテ種々ノ策動ヲ爲ス者モ出テ來
ルヘク結局日本ニ取リテモ利益ナキ次第ナルニ付此ノ
際同協定ニ關スル話ハ打切トシ何レ將來適當ノ時機ヲ
見計ヒ協議スヘキ旨申入レ日本側ノ了解ヲ取付クル様
電報セリト述ヘタルニ付(右ハ許大使ヲシテ帝國政府
ノ眞意ヲ探ラシメンカ爲ト考ヘラル)本使ハ張群ヲ說
キタルト同様ノ筆法ニテ右(二)ノ協定ノ意義及效果ヲ說

川越大使ヨリ

防共協定ノ内容ニ關スル張群ヘノ説明振ニ付本二十三日喜
多、兩宮兩武官トモ打合ノ結果此ノ際電第一八二號(一)ノ
(イ)末段括弧内ノ如キ具體的事例ニ迄言及スルハ尙早ナリト
認メ單ニ「交通及通信ノ聯絡ニ關スル事項等」ト量シ置ク
コトトセリ

尙支那側ニ於テ最懸念ヲ有スヘキハ日本軍力協定地域内ニ
進駐スルコトナカルヘキヤ否ヤノ點ナルコト想像ニ難カラ
ス或ハ次回會談ノ模様如何ニ依リテハ或程度迄此ノ點ニ觸
レ來ルヘキコトモ豫想セラルルニ付テハ右ニ關スル政府ノ
御意嚮早目ニ御回示置相成度シ

81 昭和11年10月27日

在南京松村總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

一般的防共協定および華北防共提携に関する

川越・張会談につき内容報告

南京 10月27日前発
本省 10月27日前着

第八八〇號(至急、交渉、極秘)

示シ之カ受諾方更ニ一層ノ努力ヲ求メタルカ高ハ努力
ハスヘキモ右ハ極メテ困難ナリト答ヘタリ

ニ高ハ成都事件ニ關シ昨二十二日劉湘ヨリ同事件ノ責任者
タル警備司令ト公安局長トハ何レモ之ヲ免職セシメ其ノ
他ノ關係者數名ニ對シテモ夫々處罰セル旨電報越セリト
語レリ

ニ高ハ本使ト張群トノ次回ノ會談ハ許大使ヨリノ回電ヲ俟
チテ取極メ度キ希望ナルモ兎ニ角來ル二十六日午後會見
ノコトト致度キ旨申出テタリ
支、天津ヘ轉電セリ

80 昭和11年10月24日

在南京松村總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

華北防共協定の内容に関する対中説明振りに
つき請訓

南京 10月24日前発
本省 10月24日前着

第八七一號(至急、交渉、極秘)

往電第八六一號ニ關シ

往電第八五九號ニ關シ
川越大使ヨリ

本廿六日午後四時ヨリ約二時間ニ亘リ本使張群ト會談(同
席者ナシ)ノ要旨左ノ通

一、一般的反共協定ニ關シ張ハ許大使ヨリ有田大臣トノ會談
ニ關スル回電ニ接シ大臣ガ本協定ノ成立方ニ付極メテ熱
心ナルコトヲ承知シタルガ元來本件ハ今次交渉ノ途中ヨ
リ加ハリタル問題ニテ左シテ重要ナル問題トモ思ハレザ
ルガ日本側ニテハ如何ナル理由ニテ本件協定ヲ斯ノ如ク
熱心ニ主張スル次第ナリヤ此ノ點臍ニ落チザル所アリト
述ベタルニ付本使ハ國際共產ノ脅威ヲ防止スルコトハ夫
レ自體兩國ニ利益ナルハ言ヲ俟タザル所ナルガ更ニ重要
ナルハ斯ル共同目標ヲ掲グルコトニ依リ兩國ノ空氣ヲ改
善セントスル點ニアリ蓋シ兩國ノ空氣ヲ良クスルニハ支
那ノ空氣ヲ良クスルト同時ニ日本ノ空氣ヲ良クスル必要
アリ今若シ此ノ種協定ヲ成立セシメ兩國共同ノ目標ヲ樹
立スレバ日本國民一般ノ南京政府ニ對スル信用ト信頼ハ
少カラズ回復シ一般ノ空氣ハ相當改善セラルル望アリ抑々
日支關係ハ眼前ノ事象ニノミ捉ハレズ大乘の見地ヨリ

(2)之ヲ考慮スル必要アリ本件協定ノ如キ有益無害ニシテ而モ前述ノ如ク國交調整ニ重大意義ヲ有スルモノニ對シテハ對内的ニ多少ノ障礙アリトスルモ之ヲ押切りテ斷行スル位ノ勇氣ナカルベカラズト告ゲタル處張ハ前記電報ニ依レバ本件協定ノ内容ハ極メテ輕キモノニテ情報交換程度ノモノニテモ宜シク尙本協定ハ假令成立スルモ其ノ發表ハ適當ノ時機迄延バスモ差支ナシトノ報告ナルガ本使ノ意嚮如何ト問ヒタルニ依リ本使ハ情報交換ノミニハアラズシテ意見ノ交換等ヲモ含ム次第ナルガ何レニセヨ其ノ實行ハ決シテ情報交換ヨリモ六ヶ敷キモノニアラズ又發表ノ時機ニ付テハ支那側ノ立場上如何ニシテモ困ルト言フナラバ更ニ相談ノ仕様モアルベシト答ヘ夫レヨリ種々説得ニ努メタルガ結局張ハ許大使ノ電報モ蔣介石ニ轉電シ置キタルニ付本件ニ關シ更ニ蔣ニ請訓スベシ蔣ハ西南へ出發前モ自分(張)ニ對シ繰返シ本協定ハ之ヲ受諾シ難キ旨語り居タル關係モアリ一存ニテハハ取計ヒ難シト述ベタリ

(3)ニ北支防共協定ニ付テハ張ヨリ其ノ内容ニ付質問アリタルニ付本使ハ例ヘハ交通及通信聯絡ニ關スルカ如キ事項ナ

リト説明セルニ張ハ今少シク具體的ニ承知シ置クニアラサレハ委員會ノ設置ニ贊成シ難シト述ヘ結局高宗武ヲシテ兩宮武官ヲ訪問セシメ説明ヲ求ムルコトニ話合ヒタリ尙其ノ際張ハ許大使ニ於テハ防共地域内ニハ新ニ日本軍隊駐屯セサルモノト了解スル旨報告アリタリト述ヘタルニ付本使ハスルコトハ何レ委員會ニ於テ打合スルコト然ルヘシト告ケ置キタリ

防共地域ニ付テハ張ハ大臣ハ許ニ對シ支那側ノ主張スル線ハ狹過キル旨述ヘラレタル由ナルカ山海關、包頭ノ線ヲ讓歩シ難シト述ヘタルニ付本使ハ冀、察、綏及雁門道ヲ主張スル議論ヲ繰返スモ詮ナキコトナレハ委員會ノ協議ニ委スルコト然ルヘキ旨告ケタルカ張ハ飽ク迄前記ノ線ヲ主張シ殊ニ雁門道ノ如キハ閭錫山ノ反對ニテ到底見込ナシト述ヘタリ

張ハ北支防共協定ニ引懸ケ再ヒ冀東政府ノ消解ヲ持出シタルヲ以テ本使ハ是迄數回繰リ返シタル通り現在到底問題トナラス蔣介石モ此ノ點ハ了解シ居ルニアラスヤト告ケタル處張ハ國民政府ノ立場上何レカ一ツ位ハ支那側ノ希望モ容レテ貫ヒ度シト種々懇願スル所アリタリ

三本日ノ會談ハ雙方其他ノ問題ニ觸レス近ク更ニ會見ノ筈支、天津ヘ轉電セリ

82 昭和11年10月29日 在南京松村總領事代理より 有田外務大臣宛(電報)

華北防共提携に関する雨宮・高宗武會談につ

き報告

南京 10月29日後発
本省 10月30日前着

◎第八八三號(大至急、交渉、極秘)
往電第八八〇號ニ關シ

川越大使ヨリ

北支防共協定ニ付説明ノ爲本二十九日午後三時雨宮武官高宗武ト會談ノ要旨左ノ通

一先ツ武官ヨリ防共協定ノ内容ノ大綱ニ付説明スル前ニ支那側ニ於テハ如何ナル具體案ヲ有スル次第ナリヤ承知シ度シト質シタル處高ハ支那側トシテハ山海關、包頭ノ線以北ヲ以テ防共地域ト爲シ外蒙方面ヨリ來ル共產勢力ニ對シ防衛セントスルモノナリト答ヘタルニ付武官ハ右ノ

如キ共產勢力ハ庫倫ヨリ張家口ヲ經テ來ルコトハ稀ニシテ寧口庫倫ヨリ包頭又ハ其ノ以西ニ向フコト自然ノ勢ナルノミナラス殊ニ新疆方面ヨリ甘肅ヲ經テ來ルモノハ最も憂慮サルヘキ性質ノモノナリ果シテ然ラハ山海關、包頭ノ線以北ニ於テ何レノ方面ニ對シテ防衛セントスルモノナリヤト問ヒ質シタル處高ハスル委シキコトハ考ヘ居ラス之ハ専門家ニアラサレハ判ラスト答ヘタリ

(2)ニ次テ高ヨリ日本側ノ具體案ヲ承リ度シト申出タルニ付武官ハ具體案ハ方針サヘ明確ニナレハ直ニ出テ來ルヘキモ支那側ノ言フカ如キ地域ニ限定スルトセハ我々専門家トシテ案ヲ立ツルニ極メテ困難ナリ孫子ノ兵法ニ依ルモ防禦ヲ爲スニハ交通ノ便利ナル地域ニ依リテ通信聯絡ヲ密接ニシ置クヲ要スル次第ニテ支那側ノ言フカ如キ沙漠ノ真中ニテハ何事モ出來難キニ付此ノ際右ノ如キ不合理ナル線ヲ固執スルコトヲ撤回シ地域ノ範圍ハ委員會ニ委セテハ如何ト告ケタルニ高ハ自分トシテハ右地域ニ關スル御話ノ趣旨ハ了解シタルカ既ニ張群ヨリ川越大使ニ對シ再三話シ居ル次第ニテモアリ遽ニ之カ變更方ヲ張ニ進言スルコトハ出來難キモ報告ハスヘシト答ヘタリ

三最後ニ高ハ防共協定ノ内容トシテ交通及通信聯絡力重要ナルコトモ略了解シ得タルニ付之亦張ニ報告ノ上必要アラハ再ヒ會談シ度シト述ヘタリ

支、天津ヘ轉電セリ

83 昭和11年10月29日 在南京松村總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

雨宮・高宗武會談におけるわが方説明の主眼点について

南京 10月29日後発
本省 10月30日前着

第⁸⁰八八四號(大至急、交渉、極秘)

往電第八八三號ニ關シ

川越大使ヨリ

右會談ニ於テハ豫メ當方トノ打合ニ基キ先ツ高宗武ヲシテ山海關、包頭線ヲ固執スルコトハ専門家ヨリ見レハ不合理ニシテ交通及通信聯絡ノ便利ナル地方ヲモ含マシムルニアラサレハ全ク意義ナキコトヲ悟ラシムル點ニ主眼ヲ置キタル次第ナリ爲念

支、天津ヘ轉電セリ

84 昭和11年11月3日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

日本側が一般的防共協定締結に固執すれば交渉決裂の懸念があると高宗武説明について

別電 昭和十一年十一月三日発在南京須磨總領事より

有田外務大臣宛第八九一号

一般的防共協定以外の問題に関する高との会谈内容

南京 11月3日後発
本省 11月3日夜着

第⁸⁰八九〇號(至急、極秘、交渉)

往電第八二九號ニ關シ

川越大使ヨリ

須磨歸任後直ニ高宗武ヨリ希望申出アリ須磨ヲシテ本三日高ト會談セシメタル處左ノ通

一、須磨ヨリ東京ニ於ケル一般ノ日支會談ニ對スル關心甚大

ナルコト竝ニ此ノ上ノ遷延ハ思ハサル結果ヲ來スヘキ點等ヲ説明シタル上先ツ國民政府ハ本交渉ヲ急速解決ノ見据アリヤト問ヘルニ高ハ實ハ楊永泰暗殺後張群ハ更ニ消極的トナリ又張公權、吳鼎昌等モ同様ナル上新聞論調ハ外交部等ノ努力ニ拘ラス相當強硬ヲ弄ヒ一般情勢恰モ滿洲事變直前ノ如キ感アリ樂觀シ難キ次第ナル一方張部長ヨリノ照會電報ニ對シ蔣介石ヨリ最近一般赤化防止問題ニ付テハ日本側ト此ノ上ノ話合ヲ避クヘク若シ更ニ日本側ヨリ強硬申出アルニ於テハ國民政府トシテハ本件ヲ受諾セハ崩壞ヲ覺悟スルノ外ナシトノ訓電アリ(例ノ内報ニ依レハ一日右電報張群ニ達セリト)旁本交渉ノ見透ハ困難ナルモ日本側ニ於テ一般赤化防止協定締結方ニ關スル主張ヲ撤回セラルルニ於テハ蔣介石トシテハ飽迄妥結ノ決心ナルモノト信スト答ヘタリ(本日例ノ内報ニ依レハ二十六日蔣介石ハ何應欽ニ對シ今戰爭ノ準備ナキニ付日本ニ對シテハ暫ク忍耐ノ要アル旨軍官學校ニ訓話方電報越シ居レリ)

二、一般赤化防止協定ノ内容ニ付張群ハ大使ヨリノ説明竝ニ我方具體案(貴電第二〇五號公文案ヲ協定案ニ改メ十月

二十九日田尻ヲシテ高二手交ノ上篤ト説明セシメ置キタリ)ニテ篤ト了解セルニ拘ラス猶蔣介石等カ絕對反對スル根本ノ理由如何ト相當執拗ニ追及セルニ高ハ情報交換ノ如キ簡單ナル内容ニ拘ラス強ヒテ今協定方ヲ主張セラルル日本ノ眞意ヲ了解シ得サテハ裏面ニ何等カノ意圖ヲ抱藏スルナラントノ疑惑猶存スルコト一事由ナレハ今少シク時日經過シ自然右誤解解ケナハ更ニ重大ナル内容ノ協定トシテ成立セシムルコトモ出來得ヘシ更ニ内密ノ話ナルカ民間ニハ猶日本トノ提携ヲ嫌フ分子多ク現ニ葉楚傖ヲ含ム有力ナル民間團體アリ行政院ヲ通シ蔣介石ニ對シ日本トノ提携ハ死道ニシテ聯露ハ生道ナルヲ以テ此ノ際日本トノ話ハ打切方進言セル者モアル程ナリトテ實ノ所日本カ本件ヲ固執セハ交渉ノ前途悲觀ノ外ナシト繰返セルカ須磨ヨリ再考方ヲ強ク主張シ置キタリ

三、須磨ヨリ他ノ點ニ付從來話合ノ結果ハ再檢討スヘシトテ別電第八九一號ノ通り會談セリ

別電ト共ニ北平ヨリ天津ニ轉報アリタシ

本電別電ト共ニ支、北平、天津ヘ轉電セリ

(別電)

南京 11月3日後発
本省 11月3日夜着

第^①八九一號(至急、極秘、交渉)
往電第^②八九〇號ニ關シ

川越大使ヨリ

一、須磨ヨリ排日禁絶問題ニ關スル從來ノ話合ヲ繰返シ中央
黨部常務委員會副主席ヨリノ命令並ニ蔣介石ノ全國民ニ
對スル排日禁止方ノ訓示等未済ノ部分アルコトヲ念ヲ押
シ須磨歸朝ノ際携行セル成都事件、日華交渉議事録等第
二部(イ)前段川越大使陳述ノ部分ヲ我方書面申入要領トシ
(ロ)後段張部長答辯ノ部分ヲ支那側書面回答要領ト書替ヘ
タルモノヲ手交シタルニ高ハ一讀ノ上内容ハ大體話合ノ
通りナルモ排日禁絶ニ關スル一切ノ措置ハ自發的ノモノ
故書面ノ交換ハ絶對見込ナシト言ヘルモ須磨ヨリ然ラハ
我方書面申入ハ差控ヘ國民政府ヨリ其ノ執リタル及執ル
ヘキ措置ヲ我方ニ通報スルコトトシテモ差支ナシトテ別
ニ用意セル排日禁止ニ關スル國民政府公文案(前記(イ)(ロ)
ノ趣旨ヲ本文トシ(ロ)ノ排日禁絶ニ關スル具體的措置ヲ附

屬書トセルモノ)ヲ手交シタルニ

高ハ之トテモ至難ナリトテ聽カサリシモ須磨ヨリ執拗ニ
先ツ交換公文案ヲ主張シ置キタリ

二、須磨ヨリ六項目ニ關シ往電第^③八二九號高ノ意嚮ニ變更ナ
キコトヲ確メタル上此ノ上高トノ話合ヲ續クルモ涯ナケ
レハ從來ノ經過ヲ辿リ最後ニ議事録ト爲シ得ヘキ體裁ノ
會談要録ヲ基礎トシ話ヲ進ムルノ要アリト主張シタルニ
高ハ議事録作成方ニ關スル累次ノ御希望ニ付テハ政府ニ
報告シタルモ政府ハ今以テ其ノ必要ナシトノ意見ナリト
頑張りタルモ須磨ヨリ議事録ヲ不要トスル位ノ話ナラハ
初ヨリセヌモ同シナリトテ強ク主張シ兎モ角研究方ヲ約
セシメ須磨歸朝ノ際携行セル成都事件日華交渉議事録案
(多少筆ヲ加ヘ置ケリ)一乃至六ヲ手交シ之ヲ基礎トシテ
以下三、四ノ通り會談セリ

三、北支防共協定ニ付高宗武ハ政府トシテハ冀東政府ノ解消
竝ニ綏東問題ヲ條件トシ居ル次第ハ張部長ヨリ川越大使
ニモ數次申上ケタル所ニテ切メテ冀東問題位何トカ色著
ケラレマシキヤト申出テタルニ對シ須磨ヨリ往電第^④八二
九號會談ノ際

華北經濟開發に關する現地了解の成立が南京
交渉の解決を困難としてゐるとの彭学沛交通
部常務次長内話について

南京 11月6日後発
本省 11月6日夜着

第^⑤八九六號(交渉、極秘)

昨五日彭學沛ハ本官ニ對シ楊永泰ノ暗殺後政府カ極秘入手
セル陰謀團體ノ計畫ニヨレハ今後ハ張群、孔祥熙、兪飛鵬
ノ順序ニテ暗殺ヲ續行ノ計畫アルコト判明シ特ニ張群ハ愈
小心トナリタルモ左リトテ此ノ儘逃ケ出スヲ得ス何トカ日
本外務省ノ顔ハ此ノ際或程度迄立テルコト必要ナリト苦慮
中ナルカ三日ノ行政院會議ニ於テ田代、宋哲元北支經濟開
發了解討議ノ際日支交渉進行中此ノ種地方了解力遮二無二
進メラルルニ於テハ將來憂慮ニ堪ヘストノ見解多數出席者
ヨリ述ヘラレ結局ハ承認ノコトトハナレルモ之ハ中央ノ面
子ヲ保ツ爲ノ已ムナキ措置ニシテ會議全體カ華北問題ニ付
憂慮ヲ新ニシタルコト事實ナレハ張群ハ益々消極トナレリ
ト述ヘ唯張等カ餘程決心アルコトハ日支航空問題ハ外交部
ニ任サレ度シトテ一切ノ種類ト共ニ一時交通部ノ所管ヲ外

交部ニ移シタルニ徴スルモ推知シ得ル次第ナリト附加ヘタ
リ
支ヘ轉電セリ

86 昭和11年11月6日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

日本側提案への回答を早急に表明するよう翁
文瀾行政院秘書長を説得について

南京 11月6日後発
本省 11月6日夜着

第八九八號(大至急、交渉、極秘)

川越大使ヨリ

最近張群カ消極的トナルニ連レ張公權、吳鼎昌等日本關係
者ハ却テ手ヲ引キ自然翁文瀾乗出シ居ル矢先ニモアリ六日
須磨翁文瀾ト會見シ日支交渉モ既ニ相當ノ時日ヲ費シ今ヤ
速ニ之ヲ妥結スルヲ要スル時期ニ達シ之以上遷延スルニ於
テハ支那側ニ於テモ益々反動分子ノ策動ヲ誘致シ次々ニ不
測ノ事件ヲ發生セシメ却テ事態ヲ惡化スル懼アリ元來我方
ノ提出セル項目ハ兩國國交ヲ根本的ニ調整シ滿洲事變以來

交渉ニ處シ居ル次第ナリト語リタルニ付更ニ須磨ヨリ今回
東京ニ往復シ我方政府當局ノ意ノアル所ヲ充分含ミ來リタ
ルカ要スルニ支那側ニ於テ前述ノ如キ趣旨ヲ了解シ誠意ヲ
披瀝シテ我方提案ニ對スル明確ナル態度ヲ表示スルニ於テ
ハ我方モ亦誠意ヲ以テ之ニ應對スルノ用意モアリ若シ外交
部當局カ其ノ責任ニ耐エ兼ネテ勇斷ヲ躊躇スルカ如キコト
アラハ外交部ハ却テ益々苦シキ立場ニ立至ルヘク此ノ際行
政院ニ於テモ充分外交部ヲ支持シ速ニ最後ノ決斷ニ出テン
コトヲ希望スト述ヘタルニ翁ハ貴見ニ對シテハ全然同感ナ
ルヲ以テ更ニ一層外交部ヲ援助シ三日貴方ヨリ提出セラレ
タル最後案ニ對シ充分考慮ヲ加ヘ回答ヲ爲ス様慫慂スヘシ
ト答ヘタリ
北平ヨリ天津ヘ轉報アリタシ
支、北平、天津ヘ轉電セリ

87 昭和11年11月7日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

日本側提案に対する張群回答は全面的拒絶に
等しいと強く反駁し須磨總領事より交渉妥結

軌道ヲ外レタル外交關係ヲ常軌ニ戻サントスル用意ニ出テ
タルモノニシテ特ニ北支ニ於ケル防共及經濟開發ノ二問題
ヲ南京ニ於テ討議スルノ態度ニ出テタルニ萬一國民政府ニ
於テ對内的ニ多少ノ困難アルヲ口實トシテ之ニ對スル態度
ヲ明カニスルヲ肯セサルカ如キコトアラハ從來支那側ニ於
テ希望セル兩國國交正常化ノ機會ヲ好シテ逸スルコトナ
リ支那ノ爲採ラサルハ勿論日本國民ヲシテ國民政府ニ對ス
ル期待ヲ失ハシメ且我方ノ誠意ヲ無ニシ延テ我國民ヲシテ
外交交渉ノ無意義ナルヲ痛感セシムルコトナリ之カ將來
ニ及ホス影響是ニ鮮カラサルモノアリ此ノ點ニ就テハ蔣院
長モ充分ノ認識ヲ有セラルルモノト察セラルルカ果シテ然
リトセハ行政院ニ於テハ蔣院長ノ意ヲ體シ一大決心ヲ以テ
我方ノ要望ニ副フヘキ解決案ヲ定メ動モスレハ消極的ニ赴
カントスル外交部當局ヲ鞭撻指導シテ
本交渉ノ急速解決ヲ圖ラレンコトヲ希望ス此ノ際翁秘書長
ノ努力ハ我方ノ最期待スル所ナリト告ケタルニ翁ハ御話ノ
次第ハ一々尤モニシテ蔣院長ニ於テモ今回交渉ヲ徒ニ遷延
セシメテ日本ノ誠意ヲ有耶無耶ニ葬リ去ラントスルカ如キ
コトハ考ヘ居ラス從テ行政院ニ於テモ右ノ趣旨ヲ以テ本件

に向けた試案提示について

南京 11月7日後発
本省 11月8日前着

第九〇三號(大至急、交渉、極秘)

往電第八九〇號ニ關シ

川越大使ヨリ

高宗武ノ希望ニ依リ七日午後四時須磨ヲシテ會見セシメタ
ル處左ノ通

一、高ハ去ル三日須磨ヨリ受取りタル書物ヲ張部長ニ示シ裁
斷ヲ仰キタル處張ノ傳言トシテ

(一)排日取締及國交調整ニ關スル各項目ハ何レモ支那側自
發的ニ實行スル建前ヲ取ルモノナルト共ニ本交渉ノ初
ヨリ是等ヲ文書ニ認ムルコトヲ協議シ居ラサル次第ニ
テモアリ文書ノ形式ヲ執ルコトハ絕對ニ不同意ナルコ
ト

(二)國交調整ニ關スル項目ノ内

(イ)一般反共協定ハ到底受諾シ得ス

(ロ)北支協定ハ其ノ實施地域及實施事項ニ付意見ノ合致
ヲ見且冀東政府及綏東僞軍問題解決シタル上ニアラ

サレハ話合ヲ進メ難ク

(イ)上海、福岡間航空聯絡ハ即時調印スヘキモ日本側ヨリ此ノ際北支ノ自由飛行停止方約束ヲ得且現實停止アリタル後實行スヘク

(ニ)北支問題其ノ他ノ各項目ニ付テハ内容ノ字句ニ相當修正スヘキ點アルモ大體從來ノ話合ノ通り實行差支ナキコト

(三)成都事件ニ關シ國民政府ノ名ニ於テ陳謝スル以上劉湘ノ總領事ニ對スル陳謝ハ之ヲ取止メ度キコトヲハツキリ日本側ヘ傳達スヘシ

トノコトナルニ付右承知アリ度ク尙其ノ際張ハ須磨ヨリ提示ノ書物ハ之ヲ返却スヘキ旨命シタリト語レリ(高ハ右趣旨ヲ事前ニ清水ニ内話セリ)

(四)右ニ對シ須磨ハ張ノ回答ハ會談ヲ全體トシテ拒絕スルニモ等シク話ハ全ク逆轉シ之ニテハ當然決裂ノ外ナキ次第ナルカ支那側ニテハ一體其ノ積リナリヤト質シタル處高ハ只今ノ話ハ張部長ノ指示セル所ヲ其ノ儘述ヘタルモノナルカ自分(高)トシテモ之ニテハ日本側ニ於テ憤慨スルコト察スルニ難カラス左レトモ内部ノ事情ヲ打チマケ御

到底支那側ニ交渉解決ノ意思アリト認メ難シ張カ逡巡シテ決スル能ハサルコトハアリトスルモ蔣介石ニ於テハ交渉ノ圓滿解決ヲ圖リ度キ意嚮ナルヘシト我方ハ今尙信シ居ル次第ナルカ若シ張部長ニ之以上話ヲ進メル肚モ腕モナシト言フナラハ高自ラ早速蔣ノ許ニ赴キ最後ノ點ヲ纏メ來ル方宜シカラスヤ高カ折角此處迄努力シ來リ今ヤ後一步ノ所ナルカ若シ更ニ奮發スル決心アラハ大膽率直ニ自分(須磨)限りノ試案ヲ示シ相談スルモ差支ナシト告ケタリ

(五)高ハ右須磨ノ説得ニ依リ盡力スヘキ決意ヲ披瀝シタルニ依リ須磨ハ今假ニ試案トシテ

(一)航空聯絡及北支防共協定ニ引懸ケ居ル支那側ノ條件ヲ撤廢スルコト

(二)劉湘ノ陳謝ヲ免除スルコトハ承諾シ難キコト

(三)少クモ排日取締ニ付テハ文書ヲ以テ支那側ヨリ通報越スコト

(四)國交調整ニ關スル事項ニ付テハ正式ノ「ミニツ」ヲ作ルコトヲ取止トスルモ話合ノ結果ヲ各自覺書トシ讀合ノ上寫ヲ交換スルコトトスルナラハ

話スレハ張ハ汪兆銘等ト全ク異リ事務的ニ處理スル以外交渉ノ取纏ニ努力スル程ノ人物ニアラス其ノ上行政院各部長ハ何レモ進ンテ難局ヲ打開シ責任ヲ取ラントスル勇氣ナク殊ニ楊永泰暗殺事件發生後ハ張公權、吳鼎昌等自分ヲ力付ケ吳レタル連中モ段々尻込シテ(吳震脩スラ近ク四川ヘノ旅行ニ出ツル次第ナリ)結局自分一人ニテ漸ク交渉ノ綱ヲ切ラスニ維持シ居ル様ノ始末ニテホトホト困惑シ居ルモ何トカ妥結點ニ達シ度ク依然強キ熱意ヲ有スル次第ナル旨述ヘタリ

(五)依テ須磨ハ第一當方ヨリ話ノ基礎ヲ作ル爲提示シタル書類ヲ突返スカ如キハ外交禮儀ヲ缺クコト甚シク第二文書ノ形式ヲ一切避クルト言フハ如何ナル理由ナルヤ排日取締ニ關スル事項ノ如キハ實ハ成都其ノ他事件ノ將來ノ保障ニ關スルモノニテ當然公文ヲ以テ交換セラルヘキ性質ノモノナリ

(六)其ノ他國交調整ニ關スル事項ニ付テモ何等ノ記錄ヲモ留メ置カスト言フハ最初ヨリ交渉ナカリシト同様ニテ承認スルヲ得ス第三航空聯絡ニ北支航空問題ヲ引懸ケ北支防共協定ニ冀東及綏東問題ヲ條件トスルカ如キコトニテハ

(七)一般反共協定ハ後日更ニ話合ヲ爲スコトトシ此ノ際ハ之ニ觸レサルコト

トスルモ已ムヲ得サルヘキカ此ノ程度ナラハ取極メ得ルノ見込アリヤト切出シタルニ

(八)高ハ稍愁眉ヲ開キ此ノ程度ナラハ何トカ盡力シ見ルヘキモ文書及劉湘陳謝ノ點ハ最困難ナルニ付排日取締ニ關スル事項ハ成都事件ノ附屬ノ如キ體裁トシ且之ヲ公表セサルコトトシ其ノ他ノ國交調整ニ關スル項目ハ文書ニ認ムルコトヲ取止ムルコトト願度シト答ヘ更ニ此ノ程度ノ最後案ニテ纏ムルコトモ自分獨リニテハ仲々困難ニテ若シ出來得レハ今日ノ如キ話ヲ川越大使ヨリ張ニ持出スト共ニ東京ニ於テモ大臣ヨリ許大使ニ告ケ兩方面ヨリ押サルレハ自分(高)ノ工作モ餘程遣リ易クナル次第ナリト述ヘタリ

(九)右ニ對シ須磨ハ排日取締事項ハ素々成都事件ニ關聯スルモノニテ何レニスルモ同時ニ取扱フヘキ問題ナルニ付其ノ文書ヲ事件ニ關スル公文ト同時ニ受理スルコト差支ナク其ノ他ノ事項ハ前述ノ通り正式ノ外交文書ノ形式ニ依ラス各自覺書程度ノモノヲ交換シ我慢スルモ差支ナク大

使、張群並ニ大臣、許大使ノ會談モ考慮スヘシト告ケタルニ(本使ハ九日張群ニ會見ノ見込)高ハ前記須磨ノ試案ヲ以テ一應張部長ニ當リ其ノ結果直ニ洛陽ニ赴クコトナルヘク兎モ角明八日回答スヘキ旨ヲ約セリ

88 昭和11年11月8日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

須磨試案に対する張群の反応について

南京 11月8日後発
本省 11月8日夜着

第九〇四號(至急、交渉、極秘)

往電第九〇三號ニ關シ

川越大使ヨリ

本八日高宗武ヨリ須磨ニ對シ電話ヲ以テ昨日早速張部長ト三時間ニ亘リ相談シタルニ張ハ贊否ヲ明言セサルモ冀東、綏東ノ問題モアルニ付此ノ際北支防共ハ將來ノ話ニ讓ルコトトセハ解決容易ナリト述ヘ居タルカ右ニ對シ高ヨリ兎モ角冀東問題等ニ付テハ今後本使等ノ盡力ニ俟ツコトトシ此ノ際ハ須磨試案ニヨリ解決絶對必要ナル旨強調シタルニ張

ハ然ラハ高ニ洛陽ニ赴キテハ如何ト言ヘルモ察スルニ張部長自身洛陽行ヲ望ミ居ルヤノ印象モアルニ付何レ明九日本使ヨリ張群ニ申入レタル後何レカニ決定スルコトトナルヘシト通知アリタリ

89 昭和11年11月9日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

南京交渉妥結の際のわが方発表振りにつき請訓

南京 11月9日後発
本省 11月9日夜着

第九〇六號(交渉、極秘)

川越大使ヨリ

今次交渉案件解決ノ上ハ我方内政關係上或程度迄其ノ内容ニ立入リ公表方取運フ要アルヘク當方ニ於テモ慎重研究中ナル處右ハ最後ノ妥結點如何ニヨリ左右セラルヘク又支那側ノ要望モ考慮シ遣ル必要モアルヘキモ目下ノ會談ヨリ見レハ大體ノ骨子トシテ左記趣旨ニ依リ貴地及當方ニテ發表致度キ處本省ノ御意嚮御回電相成度シ

一成都事件等對日不祥事件ニ付テハ須磨歸朝ノ際ノ打合ニ

依ルニ成都事件解決ニ關スル交換公文ハ樞府ニ懸ケサル

本省ノ方針ナル由ニ付右ニ御變更ナシトセハ不取敢成都事件ノミ解決シタル旨前書シ交換公文ヲ其ノ儘發表シ尙成都總領事館ハ近ク岩井赴任シ開館スル旨附記スルコトニ排日取締ニ付テハ國民政府ニ於テ自發的ニ一切ノ排日ヲ根絶スヘク且一切ノ排日の策動ニ付同政府力責任ヲ負フコトトナレル旨ヲ述ヘ支那側カ已ニ執リ又今後執ラントスル取締措置ノ要領ヲ併セテ列舉シ右ニ對スル我方ノ態度トシテ貴電第二二五號ノ(二)ノ(ホ)警告的聲明ノ内容ヲ附記スルコト

三六項目ニ付テハ一々言及スルコトヲ止メ單ニ日支國交調整方ニ關シ國民政府ノ具體的誠意ノ披露ヲ期待シ成都事件ト併行シテ折衝ヲ續ケタルカニ、三重要問題ニ付主義上意見ノ合致ヲ見タルモノアリ尙豫テ遞信省及交通部代表間ニ話合中ナリシ福岡、上海航空連絡ニ付業務上ノ協議纏リタルカ其ノ他日支通商貿易ノ發展ヲ阻害スルカ如キ要因ノ排除(關稅引下ヲ指ス)並ニ一、二日支國交改善ニ資スヘキ具體的事項(顧問及朝鮮人問題ヲ指ス)等ニ付テモ國民政府ニ於テ自發的ニ近ク夫々適當ノ措置ヲ講ス

ルニ至ルヘキ旨ヲ發表スルコト

90 昭和11年11月11日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

須磨試案を応諾するよう張群説得について

南京 11月11日前発
本省 11月11日前着

第九一二號(大至急、交渉、極秘)

往電第九〇三號ニ關シ

川越大使ヨリ

本使張群トノ會談ハ張不在ナリシ爲(例ノ内報ニ依レハ張ハ熊式輝ト共ニ七日洛陽ニ赴キ蔣ニ面會シ其ノ指示ヲ受ケ九日歸寧セルモノナルカ張自身及外交部當局ハ右旅行ノ事實ヲ祕シ居レリ)本十日午後三時ヨリ二時半ニ亘リ行ヒタルカ其ノ要旨左ノ通り

一先ツ本使ヨリ支那側ニ於テ依然交渉ヲ纏ムルノ決心ナリヤト質シタル處張ハ速ニ交渉ノ解決ヲ計ラントスル方針ニハ變更ナキ次第ナリト答ヘ日本側ニテハ支那力遷延策ヲ執リツツアリト觀測スル向モアル由日本ノ新聞等ニモ

見エ居ルモ國民政府トシテハ本件交渉ヲ遷延セシムルコトニ依リ何等得ル所ナキ次第ヲ充分覺リ居リ決シテ斯ル不得策ナル手段ヲ弄スル意思ナシト辯明セリ依テ本使ハ果シテ然ラハ議論ハ既ニ之ヲ盡シ日本側ノ要望ニ付テモ徹底シタルモノト察セラルルニ付此ノ際明確ニ支那側ノ態度ヲ表示シ本件交渉ヲ速ニ纏ムルコト然ルヘシ本使ニ於テモ此ノ希望ニ基キ過日須磨ヲシテ高宗武ト會見セシメ極メテ大膽ナル試案ヲ提示シ本使ノ責任ニ於テ交渉ノ妥結ヲ圖ル決心ナルコトハ既ニ高ヨリモ報告アリタル所ナルヘキカ要スルニ一般反共協定問題ハ我方ニ於テハ屢々説明ノ通り兩國々民ノ共同目標ヲ示シ兩國關係ヲ改善セシムル絶好ノ問題トシテ其ノ受諾ヲ要求シタル次第ナル處國民政府ニ於テハ其ノ趣旨ニ異存ナキモ今直ニ協定ヲ締結シ實行スルコト對内關係上到底不可能ナリト固執スル以上前述須磨試案ノ如ク他ノ事項ニ付日本側ノ要望ヲ容ルル決心ナルニ於テハ同協定ハ暫ク之ヲ他日ニ讓リ時機ヲ見テ實行スルコトスルモ或ハ已ムナキカト考慮シ居ル次第ナルカ是非共右試案ノ通り承諾スルコトヲ希望スルモノナリト告ケタリ

府ノ解消問題ヲ固執シ此ノ點ハ蔣モ絶對ニ讓ラス今若シ冀東問題ヲ解決スルコト不可能ナラハ本件協定モ或時期迄延ハスノ外ナシト答ヘタルニ依リ本使ハ抑々外蒙カ現在ノ如キ狀況ニアリ蘇聯ノ赤化勢力カ此ノ方面ヨリ侵犯スル以上日本ハ其ノ自衛並ニ生存ノ必要ヨリ適宜ノ措置ヲ執ラサルヘカラス即チ日本ノ對内蒙政策ハ此ノ點ニ出發スルモノニシテ本協定ヲ締結スルコトハ支那側ニ取リテモ極メテ有益ナルモノナル旨ヲ說キタルニ張ハ其ノ點ハ蔣モ良ク承知シ居ル所ナリト答ヘタルニ付

(4) 本使ハ九月二十三日ノ張ノ國策轉換ノ言明ヲ繰返シ支那側ニ於テハ既ニ我方提議ニ贊成シタルモノト認ムルカ如何ト念ヲ押シタルニ張ハ素ヨリ其ノ趣旨ヲ變更スル譯ニアラス蔣モ同様ニシテ絶對ニ共產主義ヲ排撃シ蘇聯ト提携スルカ如キコトハ毫モ考慮シ居ラサルコトハ茲ニ斷言シ得ル所ナルヲ以テ日本側ニ於テモ右蔣ノ態度ニ信賴シ其ノ實行ノ時期ヲ後日ニ延ハス雅量ヲ示サレ度シ本件協定ニ關スル支那側内部ノ困難ナル實狀ハ到底御話ニモナラサル程度ナリト零セルモ本使ヨリ種々説得シタル結果本件協定問題ニ付須磨ト高宗武トノ間ニ於テ案ヲ練ラシ

ニ右ニ對シ張ハ先ツ北支防共問題ヲ持出シ國民政府カ國策ノ一大轉換ヲ爲シテ右協定ノ趣旨ニ贊成シタル點ハ依然變ル所ナキモ支那トシテ斯ノ如キ決心ヲ爲ス以上日本側ニ於テモ蔣及國民政府ノ對内的立場ヲ考慮シ冀東政府ノ解消及綏東僞軍ノ解散ヲ實行セラレ度シ元來北支防共協定問題ニ關シテハ嘗テ有田大臣ト會談シタルコトアルカ其ノ當時支那側ハ滿洲問題ノ解決ヲ條件トシタル程ナルカ今回ハ之ヲ變更シ

日本トシテ寧ロ遣リ易キ冀東及綏東問題ノミヲ之カ條件ト爲シタル點ニ充分同情セラレ度シ實ハ今回ノ交渉ノ初ニ於テハ塘沽協定ノ廢止モ本件協定問題ノ條件トナリ居リシ次第ナルカ自分(張)ノ努力ニ依リ之丈ケハ引込メ結局冀東及綏東ノ二問題ノミヲ條件トスルニ至リシモノナリト述ヘタルニ付本使ハ冀東政府問題ハ之迄屢々説明セリト通り防共問題トハ全ク關聯性ナキ問題ニシテ之ト結ヒ付ケテ解消又ハ變更スルカ如キハ事實上不可能ノコトニ屬シ去ル九月二十三日會見ノ際本件協定ヲ論議シタル際モ支那側ニ於テ何等ノ條件ヲ附シ居ラサリシモノニアラサヤト告ケ共同委員會設置ヲ求メタル處張ハ飽迄冀東政

ムルコトヲ提議シ張モ之ヲ贊成セリ

三、其ノ他ノ項目ニ關シテハ

(一) 北支問題ニ付張ハ冀察ノ現狀ヲ默認セヨトノ日本側ノ主張ハ冀東政府ヲ承認スル意味ヲモ含ムコトトナルヲ以テ之ヲ承諾シ難ク冀察ニ觸レスシテ其ノ他ノ三省ニ於テハ日本ト協力シテ經濟開發ヲ促進シ中央竝ニ地方當局ニ於テ

(2) 融通提携ヲ圖ルコトハ差支ナク唯須磨試案中ニ掲ケタル字句ニハ多少修正シ度キ箇所アリト述ヘタルカ結局須磨ト高トノ間ニ於テ之ヲ調整スルコトナレリ

(二) 航空連絡ハ張ハ又復北支自由飛行ノ解決ヲ持出シタルカ本使ヨリ之ヲ撥付ケ置キタリ

(三) 關稅引下ハ日本側ノ希望ヲ容レ之ヲ調整スルニ異存ナク

(四) 顧問問題ニ付張ハ兩國間ノ空氣良クナリタル上之ヲ實行スヘシト述ヘタルカ本使ハ右ハ期限ヲ附シテ實行スヘキ旨ヲ告ケ張モ之ヲ了承セリ

(五) 不逞鮮人引渡問題ハ從來ノ話通り實行ヲ約セリ

四、最後ニ本件交渉ノ文書作成問題ニ入り張ハ今回ノ交渉ハ

最初ヨリ口頭ニテ之ヲ爲シ文書作成ヲ考慮シ居ラス國民政府ノ立場ヨリスルモ全ク不可能ノコトニ屬スト強硬ニ反對シタルモ本使ヨリ會談ノ記錄ヲ留メ置カサレハ他日話ノ内容スラ判明セサルコトナリ種々不都合ヲ生スヘキ點ヲ説明シ冒頭電須磨試案トシテ提議シタル覺書交換ノ必要ヲ力説シ之亦須磨、高宗武ヲシテ打合せ決定セシムルコトヲ承諾セシメタリ

支、北平へ轉電セリ

91 昭和11年11月11日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

須磨試案の受諾を拒絶する張群の回答振りに
ついて

南京 11月11日後発
本省 11月12日前着

第九一六號(交渉、極秘)
往電第九一二號ニ關シ

川越大使ヨリ

冒頭往電本使張群トノ會談ノ結果本十一日午後須磨ヲシテ

トハ絶對ニ受諾シ得ス(往電第九〇三號、一)ノ理由ニ基ク)

(二)北支ノ防共ハ冀東及綏東問題ノ解決後實行スルコトト致度ク從テ右解決迄ハ本件ヲ延期スルノ外ナシ(北支問題ハ日本側提案ノ字句通りニテ差支ナキ由)

若シ以上ノ建前ヲ變更セントスル話出ル場合ハ張ニ於テ須磨ト直接話合フヘキ旨述ヘタリ

三依テ須磨ヨリ此ノ際一事務官ニ過キサル高司令長ヲ責メテモ致方ナキカ右ノ如クンハ當初支那側ノ主張ト殆ト異ナル所ナキヲ以テ七日須磨ヨリ提示セル試案ハ(往電第九〇三號ノ四)此ノ際全部撤回ス依テ右試案ハ當初ヨリ存在ナカリシモノト心得ラレ度シト應酬シ且張部長ハ川越大使ニ對シ支那側ハ交渉ヲ取纏メントノ意嚮ナル旨言明セルニ拘ハラス前記一ノ如キ態度ニ出テタルハ誠意那邊ニアルヤヲ疑ハサルヲ得スト攻メ掛ケタル處

高ハ極々ノ打明話ニテ川越大使ニモ御知セナキ様致サレ度キモ張部長ハ自分(高)ニスラ相談ナク洛陽ニ飛行シ今日猶之ヲ祕シ居ル事實アリ從テ昨日ノ張部長ト大使トノ會見ハ部長カ蔣介石ト話合ノ上ナルモ部長ノ述ヘタル所

高ト會談ヲ續ケシメタルカ右要領左ノ如シ

一先ツ高ハ張部長ヨリ次ノ如ク傳達方並ニ右以外ニ付テハ一切話合フヘカラサル旨嚴重訓令アリタリト前提シ「十日張部長カ川越大使ニ述ヘタル所ハ最後の意見ニシテ之ヲ變更スルコトハ内政上殊ニ最近ノ綏東方面情勢ノ發展ニ依リ生セル對日疑惑及不安ヨリ絶對ニ不可能ナリ而シテ交渉ノ難點ハ四項目アル處

(イ)劉湘ノ陳謝ハ受諾シ難シ但シ支那側ニテ自發的ニ輕度ノ處罰ヲ爲スヘク

(ロ)航空聯絡ニ付テハ此ノ際調印ニ異議ナキモ協定文面ニ實施期日ヲ記載セス且外交部ヨリ「今回調印ノ協定ハ六箇月後ニ實施ス但シ右期間内ニ本件協定ニ關聯スル問題ヲ解決セラレ度シ若シ解決ヲ見サルニ於テハ之カ解決迄實施ヲ延期スル」趣旨ノ

(ハ)公文ヲ提出スルコトト致度ク(必スシモ日本側ヨリノ回答ハ期待セス)

(ニ)交渉ニ關スル文書作成ノ問題ハ(A)六項目ニ付テ各自覺書ヲ讀合セ寫ヲ渡スコトハ差支ナキモ字句及書振ニ付テハ豫メ協議致度ク(B)排日取締ニ付テハ文書ト爲スコ

カ果シテ蔣ノ意嚮通ナリヤニ付テハ部長カ平素極メテ小心而モ駭引多キコトヨリ見テ疑問ナシトセス實ハ張公權及自分ヨリ部長トハ別ニ七日貴方ヨリ提示ノ試案ヲ蔣ニ電報セル處「更ニ努力セヨ」トノ回電アリタルニ鑑ミ貴官ハ直接張部長ト會見シ交渉ヲ續ケラルル一方張公權及翁文灝トモ會見セラレ同人等ヲシテ直接蔣介石ノ意見ヲ求メシメ側面ヨリ交渉ノ進展ヲ計ラルルコトト致度シト述ヘタリ

三、右様ノ次第二付須磨ハ之以上高ト細目ノ話合ヲ爲スモ詮ナキモノト認メ唯本交渉ノ前途ニ對スル高ノ見込ヲ引懸ケ見タル處高ハ航空問題ヲ日本ノ言分通り無條件ニ調印スルトセハ北支防共ノ實行ヲ當分延期スルコトトシ妥結シ得サルヘキヤ自分(高)ハ其ノ邊カ落ナリトノ見透ニテ爾餘ノ文書等ノ問題ハ左シテ重要ナラスト思フ故日本側ニ於テモ固執セサルコト然ルヘシト認ムル處右ニ關スル貴官ノ御意見如何ト反問シ來レルカ須磨ハ兎モ角モ張部長ト會談シ眞意ヲ突止ムルコトトスヘシト輕ク受流シ置ケリ

92 昭和11年11月14日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

須磨・高宗武共同試案の作成について

南京 11月14日後発
本省 11月14日夜着

第九二三號(至急、交渉、極秘)
往電第九一六號ニ關シ

川越大使ヨリ

須磨ヲシテ張群ニ更ニ詳細説明セシムル筈ナリシカ張ハ高宗武ヨリ冒頭往電ノ如ク所謂須磨試案ヲ撤回スト言フカ如キ話ノ經緯ヲ聽取シタル上實ハ十日日本使トノ會見ニ於テ得タル印象ニ依レハ北支防共延期方ニ付體裁ヲ整フル爲須磨高宗武間ニ話合シムル以外大體意見ノ合致ヲ見タリト考ヘ居タルニ拘ラス須磨ノ高ニ對スル話ニテハ未タ餘程ノ開キアレハ此ノ儘須磨ト直接會談スルモ物別レノ外ナキニ付更ニ詳細折衝方訓令シ置ケルニ付高ト會談アリ度シト申入レ須磨ニ於テ十三日夜高ト會談ノ次第左ノ通

一、須磨ヨリ許大使カ有田大臣ニ申入ノ次第ヨリスルモ張群ハ如何ニモ北支防共以外ハ全然纏リタルカ如キ體ヲ裝ヒ

ルニ於テハ解決シ得ヘシト確信スル處何トカ各項ニ付支那側ノ主張ヲモ包含セラルルト同時ニ冀東解消位ニハ多少色良キ言質ヲ與ヘラレマシキヤト述ヘタリ

二、須磨ヨリ是迄隨分話シタルモ張群ハ貴下(高)ノ言分ヲ潜リ依然トシテ當初ノ主張ヲ盲押ニ固執シ居ル處

本日ハ貴下ヲ張群ノ代表ト認メ一方のノコトハ止メ言ハハ須磨高宗武試案トモ言フヘキ双方カ之ニ依ツテ飽迄夫々ノ政府ヲ納得セシムヘキ基礎ヲ作りテハ如何ト述ヘタルニ贊成セルニ付長時間協議ノ結果左ノ通り共同試案ヲ得タリ

(一)北支防共ニ關シ支那側ハ從來ノ國策ニ轉換ヲ爲シ日本ト共同シテ防共ノ措置ヲ取ルノ原則ヲ決定セル旨ヲ言明シタル上右共同措置ノ實行振ニ付テハ引續キ兩國間ニ於テ熟議スルコト(須磨持歸リノ最小限度案、防共ノ要領ニ「引續キ熟議」ノ點ヲ加ヘタルモノナルカ高ハ右熟議トハ支那語ニテハ「從長計議」ナルヘシト述ヘ居タリ又高ハ「國策轉換ヲ爲シ云々」ハ省カレマシキヤト繰返シ居タルカ部長カ數次言明セル所ヲ今トナリテ修正セントスルハ卑怯不屈ナリト撥付ケ置キタリ)

居ルノ觀アリシカ更ニ詳細ノ事情説明ニ依リ張ハ我方ニ於テ赤化防止協定締結延期ヲ已ムナク承認スルハ他ノ各點ニ關スル困難ヲ支那側ニ於テ全部取除キ我方ノ主張ニ合スヘキ含ミノ下ニ大使限リニ於テ大膽ニ提案シ見タル迄ナルヲ我方ノ讓歩ハ其ノ儘トシ

他ノ點ノ困難ヲ今以テ固執シ居ルノ不誠意ナル態度ナルヲ知り大使ニ於テモ驚クノ外ナカルヘシト述ヘタルニ高ハ張部長ハ兎モ角今以テ十日ノ會見ニ於テ北支防共以外大體支那側ノ言フ通りニナレリト行政院方面ニモ内々報告濟ナルハ事實ナルカ日本側ノ言分ハ良ク了解シ居ルニ付本日ハ自分ハ張ヲ代表シ改メテ話シ度シト答ヘタリ

二、高ハ十二、十三ノ兩日ニ亘リ蔣作賓、吳鼎昌、何應欽、張公權等日本關係各部長ヲ歴訪シ張群ハ消極ニ過クルニ付激勵方當リ見タルニ四部長トモ張群以上ノ消極ニテ又不在中ノ孫科以外ノ各院長ハ大體聯俄論ヲ主張シ居リ且十三日朝上海官民十萬人連署ノ交渉反對請願行政院ニ達スルアリ形勢樂觀ヲ許ササルモ蔣介石トシテハ何トカ片附ケ置キ度ク自然最近旨ヲ受ケタル張群モ同様ノ氣持ニテ苦慮中ナルハ事實ナレハ速急雙方歩ミ寄り案ヲ作成ス

(二)航空聯絡ハ合約中ニ實施期ヲ昭和十二年五月一日ト定メ調印ス但シ支那側ハ一方の公文ヲ以テ本合約實施前ニ自由飛行停止ヲ期待スル旨ヲ申入ルヘキカ我方ノ回答ヲ要セス

(三)會談ノ要領ヲ讀合セハスヘキモ排日取締ニ付テハ文書ニ依ルコト絶對不可能ナリトノ支那側(外交部及黨部ノ主張)意嚮ヲ固執セルカ結局成都事件關係文書ノ附屬トシテ通報ノ書翰ヲ送ラシムルコトニ一應押付ケ來レリ

(四)劉湘陳謝ノ點ニ付支那側ハ飽迄難色ヲ示シ殊ニ南京、濟南兩事件ニモ此ノ事ナシト主張シタルカ

須磨ヨリ右兩事件當時ノ各省政府ノ國民政府トノ關係ハ今回ト全然異リ又事件解決力遅レタル事情モアリ先例トハナラスト主張セルモ自發的處罰ニテ打合ハセラレ度シト述ヘ一應其ノコトトシ置キタリ

(五)成都事件負傷者ニ對スル見舞金ニハ先例ナキカ小額ナラハ部長又ハ司長ノ手許金ヨリ非公式ニ出スコトサレ度シト述ヘタルカ賠償金額ニ付テハ張群ノ癖トシテ餘程値切ル様子見エ透キ居ルニ付爾餘ノ重要點決定迄

申入ヲ留保シ居レリ
高ハ右(一)乃至四ノ案ヲ場合ニ依リテハ高限リノ試案トシテ報告シ或ハ自身洛陽ニ赴クヤモ知レスト言ヘルニ對シ須磨ヨリ名目ハ何レニセヨ右ノ「ライン」ニテ速急纏マル見込付クニ於テハ大使ニ政府ヲ動カス様依頼スルコトトスヘキカ早速明十四日朝中ニ張群ト話合ヒ午後位ニハ本使ニ於テ張群ト面會右試案ニ關聯シ正式ニ話シ置クコトトスル様申聞ケタルニ高ハ快諾シ居タリ

93

昭和11年11月14日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

須磨・高共同試案によって交渉妥結を図るよう努力する旨張群回答について

南京 11月14日後発
本省 11月14日夜着

第九二四號(至急、交渉、極秘)

往電第九二三號ニ關シ

川越大使ヨリ

本十四日高ヨリ須磨ニ對シ今朝早速委細張部長ニ相談シタルニ張ハ昨夜ノ話ハ須磨カ本使ヲ、高ハ張ヲ夫々代表シタル話トシ早速之ニ依リテ妥結方政府ノ訓令ヲ仰クコトトシ本日豫定ノ會見ハ不要ニ付十六、七日迄ニハ確答ヲ申上ケ得ル會談ヲ爲シ度シト通報越セリ

94

昭和11年11月18日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

南京交渉妥結には共同防共問題の全面撤回と緩遠工作の中止が必要との蒋介石伝言について

別電 昭和十一年十一月十九日発在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛第九三三號
右蒋介石伝言をめぐる高宗武との会谈内容

南京 11月18日後発
本省 11月18日夜着

第九三三號(至急、交渉、極秘)

往電第九二九號ニ關シ

川越大使ヨリ

本十八日午後高宗武ヨリ昨夕歸來セル趣ヲ以テ本使ニ面會

ヲ求メ來レルヲ以テ同人ト概要左ノ如ク會談セリ

一、先ツ高ヨリ洛陽ニ赴キ本件交渉ニ付蔣介石等ト相談セル次第ヲ語リタル上蔣ノ傳言ナリトテ

(一) 綏東工作ノ存續スル限リ交渉ヲ成立セシムルコト困難ナル點ニ付特ニ本使ノ考慮ヲ求メ度シ

(二) 防共問題ハ支那ノ内政上極メテ機微ナルモノアルヲ以テ此ノ際ハ一切之ニ觸レス今後適當ノ機會迄延期セラレ度シ

(三) 支那國民ノ日本ニ對スル不安猜疑ノ念慮ハ前記(一)ノ關係モアリ益々昂ズル一方ニ付日本政府ニ於カレテハ大局上ノ見地ヨリ右念慮ヲ一掃スルカ如キ措置ヲ執ラレ度ク特ニ例ヘハ適當ナル聲明(右ハ日本政府トシテハ綏東工作ヲ支援セサルコトヲ明カニスル趣旨ノモノナル如ク認メラレタリ)ヲ公布スルコト最望マシキ旨本使ニ傳達セリ

二、右ニ對シ本使ハ綏東問題ノ如キハ今次ノ交渉ニ關聯シテ考慮シ得サル次第ハ屢次張群ニ話シ置ケル通りニシテ又防共問題ニ付テハ本使ハ特ニ支那側内部ノ事情ヲ斟酌シ實ハ有田大臣ノ承認ヲモ取付クルコトナク全ク本使一己

ノ私案トシテ他ノ問題ニ付支那側カ誠意ヲ披瀝シ來ルニ於テハ赤化防止協定ノミハ直ニ之ヲ實行セサルモ我慢スヘキ旨提案セル事情ナルニ拘ラス支那側ニ於テ右ノ經緯ヲモ無視シ今又華北防共問題ヲモ赤化防止協定ニ倣ヒ延期セント試ミルカ如キハ到底本使ニ於テ承諾シ難キ旨申聞ケタル上委細ハ須磨ト話合ハシムルコトトセリ(別電第九三三號ノ通)

(別電)

南京 11月19日前発
本省 11月19日前着

第九三三號(大至急、交渉、極秘)

川越大使ヨリ

高宗武ハ本使ニ會見後直ニ須磨ト會談シタルカ要領左ノ通一、先ツ高ヨリ自分ハ十五日午後二時飛行機ニテ洛陽ニ赴キ(陳立夫同行ス)同日七時ヨリ蔣介石ニ面會(立夫及陳夫雷同席)川越大使ノ今次交渉ノ取纏ニ對スル熱意ヲ強調シ十三日ノ須磨、高宗武共同試案ノ「ライン」ヲ率直ニ報告シ更ニ二十六日二回ニ亘リ右試案ノ内容ヲ詳細蔣ニ説

明セル結果蔣ハ今次ノ交渉ニ付テハ對内的ニ多大ノ困難アルモ廣田内閣ニ信賴シ且今次交渉ハ日本側ヨリハ何等ノ代償ヲモ與ヘ居ラサルモ自分トシテハ日支ノ大局ニ鑑ミ本件交渉ニ依リ兩國間ノ空氣ヲ好轉セシメンカ爲難キヲ忍ンテ何トカ纏メ度キ決心ナルカ日本側ニテ折角此處迄折合ハレタル譯ニ付此ノ際防共問題ニハ一切觸レサルコトニ取計フヲ得ハ更ニ好都合ナリ尙傳作義ヨリノ來電ニ依レハ綏東僞軍ノ活動ノ背後ニハ關東軍ノ支持アリ現二十四、五ノ兩日三臺及七臺ノ飛行機綏遠ニ飛來シ爆彈ヲ投下セルカ右ハ明白ニ關東軍所屬ノ飛行機ナル由ニテ之カ爲抗日輿論及運動自然激化シ來レルニ付先ツ自ラ太原及出來得レハ綏遠ニ赴キ果シテ傳ノ報告通りナリヤ否ヤヲ實見シ度ク其ノ上ナラテハ的確ニハ判明セサルモ大體關東軍ノ支持アルコトハ疑ナキモノト察セラル尤モ右ハ東京政府ノ承認セルモノトモ思ハレサルニ付大使等ノ斡旋ニ依リ此ノ種行動ヲ停止セラルレハ交渉ヲ成立セシムルコト容易ナルニ付此ノ趣旨ヲ大使ニ傳ヘ何分ノ盡力方ヲ希望ス尙右綏遠方面ノ實狀ヲ見タル上交渉ニ對スル最後ノ結末ヲ着ケ度シト語リタル旨述ヘタリ

スルコトヲモ考慮中ナル模様ナルカ今回ノ洛陽行ニ依リテ得タル印象ヲザツクバラシニ聽キ度シト前提シタル上綏遠問題カ假ニ傳作義ノ報告ノ如キ狀態ニテ進展シ居ルトセハ蔣ハ交渉ヲ決裂セシムル覺悟ナリヤト問ヒ詰メタル處高ハ絶對極秘ナルカ十六日蔣ト別ルルニ臨ミ高ヨリ蔣ニ對シ共同試案ニテ解決出來サレハ自分ハ辭職スルノ外ナシト覺悟シ居ル旨語レルニ對シ蔣ハ三、四日内ニ華北視察ヲ了ヘタル上ハ一先ツ洛陽ニ歸リ直ニ歸寧スルカ夫レトモ場合ニ依リテハ右日取ニテ太原ヨリ直接歸寧スル心組ニ付夫レ迄ノ間ニ高等ノ對日折衝カ最後ノ段階ニ達スルニ於テハ蔣自身中央政治會議ニ對シ共同試案ノ「ライン」ニ基キ解決案ヲ提出シ委員等ヲ説伏ノ上一氣ニ交渉ヲ解決シ度キ覺悟ナリト内話セル旨ヲ語レリ

三、最後ニ須磨ヨリ今次ノ交渉ハ何時迄待テハト大使ヨリ綏遠問題ニ付何等ノ措置ヲモ執ラルヘキ筋合ノモノニモアラサル一方日本内地ニ於テハ交渉打切ノ輿論モ擡頭シ來リ支那側ニ於テモ對内的ニ益々困難ナル情勢ニ立到ルヘク兩國ノ爲懸念ニ堪ヘサルニ付一日モ早く交渉ヲ取纏

二、右ニ對シ須磨ハ

(一) 綏遠ノ實狀ト今次交渉トノ牽聯關係ハ絶對ニ成立セサルモノニシテ若シ支那側ニシテ之ヲ口實トシテ交渉ヲ決裂セシムル積リナラハ全面的ノ日支衝突ヲ惹起スル惧アリ此ノ點ヲ考慮セハ結局速ニ交渉ヲ纏ムルコト然ルヘシ

(二) 防共問題ニ付此ノ際一切觸レスト言フナラハ日本ハ却テ交渉ヲ打切り度ク打切ノ上ハ外交部長ノ既ニ表明セル意思ヲ其ノ儘發表シ得ル譯ナルカ今回ノ共同試案(往電第九二三號須磨、高宗武會談ノ際北支防共ニ關シ既報ノ通りノ試案ヲ提出シ(居ル外赤化防止協定ニ付テハ「趣旨ハ了解シ實行ハ内政上ノ困難アルヲ以テ暫ク延期スルモ右困難消滅セハ直ニ實行スル」旨ノ試案ヲ提議シ置ケル次第アリ貴電第二三六號ノ御趣旨モアリ爲念)ハ右部長ノ言明ヲ祕密ニシ置キ得ル様ニ作成セルモノナレハ試案ヲ承認スルコト支那側ニモ却テ有利ナルヘシ

(三) 支那側ニ於テ綏遠問題ヲ口實トシテ交渉ヲ引延ハス積リナラハ大使ニ於テモ前記ノ理由ニ依リ寧ロ決裂ヲ賭

ムルノ要アル旨繰返シ申聞ケタル處高モ之ヲ納得シ張群モ大體其ノ氣持ナルヲ以テ茲一週間乃至十日間位ノ内ニハ目鼻着ク様努力スヘシト答ヘタリ

95 昭和11年11月18日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

中国国民への演説など蔣介石が対日親睦措置 実行を承諾した旨高宗武言明について

南京 11月18日後発 本省 11月18日夜着

第九三五號(至急、交渉、極秘)

川越大使ヨリ

往電第九三三號會談ノ際高宗武ハ須磨ヨリ念ヲ押セルニ對シ蔣介石ノ全國民衆ニ對スル對日親睦の演説及黨部常務委員會副主席トシテノ黨部各機關ニ對スル訓令ハ勿論實行スヘシト明言セル趣ナリ

96 昭和11年11月20日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

共同防共問題の全面撤回要求を取下げて須磨・高共同試案を応諾するよう蒋介石説得方高宗武へ説示について

南京 11月20日後発
本省 11月20日夜着

第九三九號

往電第九三三號ニ關シ

川越大使ヨリ

昨十九日例ノ内報ニ依レハ高宗武ハ外交部祕書段茂瀾ヲ隨ヘ綏遠ニ赴クコトトナレル趣ナリシニ付出發前須磨ヲ高ニ面會セシムルコトトシ本二十日須磨ヨリ高ニ對シ其ノ事情ヲ確メタルニ高ハ蔣介石カ太原ヨリ自身綏遠ニ赴ク筈ナリシモ都合ニ依リ洛陽ニ引返シタル爲張群ト蔣ト電報往復ノ上自分(高)ヲ綏遠ニ送ル様全部手配済ナリシカ昨日蔣ハ濟南ニ赴キ或ハ其ノ儘南京ニ歸ルコトトナルヤモ知レサリシニ付一兩日綏遠行ヲ延ハシ居レルカ更ニ數日中ニ參謀本部員並ニ主要新聞社長等ヲモ伴ヒ約七十名ノ一行出發ノ手筈ナリト述ヘタルニ對シ須磨ヨリ左ナキダニ遷延シ居ル交渉ヲ其ノ當面ノ責任者タル者カ數日ナリトモ南京ヲ交渉以外

會談ヲ爲ス手筈ト致スヘシト述ヘ須磨ヨリ右會談ハ出來得レハ明日遅クモ月曜日(廿二日)迄ニハ開キ得ル様力説シ置キタリ

97 昭和11年11月20日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

中国側の共同防共全面撤回要求に応じなければ交渉決裂に至るべきところ今後の交渉方針
開示方請訓

南京 11月20日後発
本省 11月20日夜着

第九四一號

往電第九三九號ニ關シ

川越大使ヨリ

支那側トノ折衝ニ付テハ此ノ上トモ突張り少クトモ須磨高宗武案ノ程度迄ハ漕着ケ度キ考ニテ銳意促進中ナルカ一屢次電報ノ通り支那側トシテハ當初ヨリ防共問題ニハ一切觸レルヲ欲セサルモ張群カ九月二十三日會議ニ於テ無條件ニ國策ノ一大轉換云々ヲ表明シタル爲今更取消モ出

ノ目的ノ爲離ルルカ如キハ更ニ遷延セントスル一策トモ見ルヘク自然日本側ニモ種々ノ意見ヲ生シ且ツ軍人ニアラサル

高司令長ヲ特ニ此ノ瀬戸際ニ派遣セントスル蔣及張ノ意嚮ハ甚シク交渉ニ熱意ヲ缺クモノト言フ外ナシト力説シタル結果高ハ成程尤モニ付自分ノ綏遠行ハ取止ノコトニ相談スヘシト言ヘルニ依リ須磨ヨリ更ニ面前ニテ張群ト電話方主張シ高ハ其ノ場ニテ直ニ張ト取止ノコトニ打合せ段ノミ本日出發ノコトトシ須磨ヨリ蔣介石ノ歸寧ヲ待ツコトモ左ルコト乍ラ何日トナルカ的確ノ目度ハ付カサルヘキニ付此ノ際共同試案ニテ至急取極方電照ノ上一日モ早く最後ノ會議開催方主張シタルニ高ハ蔣ハ共同試案ニ對スル最後ノ意見ハ二、三日待タレ度シト述ヘ居タル經緯ハアルモ此ノ際防共問題ニハ一切言及セサルコトトセハ支那側モ難局ヲ押切り冀東、綏東ノ問題ヲ差措キ全般ノ妥結ヲ爲シ得ルモノト思ハルトテ防共全部延期方ヲ繰返シ申出テタルニ對シ須磨ハ其ノ位ナラハ日本ハ或ハ決裂ヲ擇フコトトモナルヘキ次第ヲ述ヘタルニ高ハ然ラハ御申出ノ通り蔣ニ早速電報シ何分ノ返事アリ次第川越大使、張部長ニ自分等モ加ハリテ正式

來ス已ムナク内政事情或ハ綏東及冀東問題等ヲ之ニ引懸ケ何トカ取繕ノ方法ト時機ヲ求メ居ル矢先綏遠方面ノ時局カ測ラサル急轉回ヲ示シタル爲之ヲ口實トシ我方ヲシテ綏遠工作ノ停止カ夫レトモ防共問題ノ拋棄カ執レカヲ選ハシムル様更ニ進ンテ往電第九三三號ノ通り綏遠ノ事情判明スル迄ハ爾餘ノ問題ノ妥結ニモ應シ難シト迄言出シタル次第ニテ右ハ張群及之ヲ取捲ク連中ノ無力、防共問題ニ對スル親蘇反蔣派等ノ反對及綏遠問題カ國民ニ對シ全般的ニ意外ニ深刻ナル反響ヲ與ヘ居ル點等ヨリ考ヘ蔣介石乃至ハ高宗武等ニ於テ何トカ此ノ際交渉ヲ取纏ムルコト有利ナルヲ知悉シ乍ラモ遽ニ手ヲ下シ兼ヌル事態ニ陥レル次第ト觀測セラレ例ノ情報ニ依ルモ

蔣介石ハ綏遠現地調査ノ結果背後ニ日本ノ援助アルコト的確トナラハ日支交渉ハ總テ承認スルヲ得ス唯綏遠ノ對策順調ニ進メハ交渉ヲ繼續シテ可ナルモ其ノ場合モ防共問題ハ北支ナルト全般的ノモノナルトヲ問ハス不承認ノ意嚮ナル由ナル一方軍部及學生間ノ交渉反對運動モ最近相當有力者ノ煽動ニ依リ熾烈トナリツツアル旨ノ情報モアリ勢ノ趨ク所或ハ我方ニ於テ交渉ヲ繼續セントスルモ

能ハサル事態ニ立到ルナキヲ保セス又斯ル情勢ニ於テハ交渉ヲ繼續スルモ效果ナク寧ロ交渉開始以來ノ經過ヲ公表シテ思切リ良ク我方ヨリ決裂セシムルニ如カサル情勢トモナルヘク苦心慘憺シテ今日迄折衝ヲ重ネ來リタル出先トシテハ寔ニ遺憾千萬ナルモ内蒙工作ノ遂行カ我方既定方針ナル以上一旦遣リ掛ケタル此ノ際「ソヴィエツト」側ヲシテ乘セシムル餘地アルカ如キ措置ハ斷シテ執リ得ス自然全局ノ大勢上交渉打切方ニ付テモ充分考慮ヲ加ヘラレ其ノ際ノ發表振ニ付テハ當方ヨリモ何レ電稟致度キ所存ナルモ豫メ御考査置キヲ請フ

ニ、他面又打切又ハ決裂トナル際ニハ當分日支間睨合ノ状態トナリ再度日支關係打開ノ機會ヲ捉ヘルコト相當困難トナルヘク或ハ綏東問題ノ展開如何ニ依リテハ之カ爲日支間ノ全面的衝突ヲ結果スルコトモナルヘク右ノ如キ情勢ニ付テハ帝國外交ノ大局ヨリ篤ト考慮ヲ要スルコトタルヘシ而シテ支那側ノ眞意ハ本二十日高宗武ノ須磨ニ夫レトナク打明ケタル所ニ依ルモ支那側一般ハ兎モ角少クトモ蔣、張等ハ交渉ヲ何トカシテ纏メ置キ度キハ事實ナルモ何シロ張群カ元來塘沽協定、冀東政府、綏東問題等

第九四號

往電第九三九號ニ關シ

川越大使ヨリ

冒頭往電會談後高ヨリ須磨トノ話合ヲ變更シ程。滄波。(中央日報社長)及段茂瀾ヲ伴ヒ二十一日早朝飛行機ニテ綏遠ニ向ヒ三、四日ノ豫定ニテ調査スルコトナレル旨通報越セルニ依リ二十日夜須磨ヲシテ更ニ高ト會談セシメタル結果左ノ通

一、高ヨリ冒頭往電會談後更ニ張群ニ於テ各部長ヲ招集協議ノ結果綏遠問題ニ對スル輿論ノ手前上外交部トシテハ日本關係者ヲ現地ニ送り調査ヲ爲シ置クコト職責上當然ナリトノ結論ニ達シ再應高ニ赴綏方命セラレタリト述ヘタルニ依リ須磨ヨリ高カ今離寧スルコトハ交渉ヲ停頓ニ導カンカ爲トシカ考ヘラレス歸來後ノ報告カ如何ナルモノニセヨ之ヲ口實トシテ交渉ノ進行ヲ拒マントスルコト蔣介石、張群ノ意嚮ト思ハルル處右ハ從來話合ノ經緯及高自身ノ將來ヨリ見ルモ甚シク不得策ナリトテ再考方ヲ促

南京 11月21日午後
本省 11月21日夜着

ニ引懸ケテ爲スヘカリシ華北協同防共方ニ關スル言明ヲ迂闊ニ單獨ニ決定のニ爲シタル經緯ヲ抹消シ且ハ一般ノ防共反對氣勢ヲ抑制スル爲防共問題ニハ一切觸レサルコトトシ其ノ他ノ事項ノミニテ一應ノ覺ヲ着ケントシ居ル次第ナル處我方トシテハ張群カ九月二十三日爲シタル言明ハ他日利用シ得ル機會モアルヘキニ付此ノ際ハ一應之ニ觸レサルコトトシ爾餘ノ問題ニ付既定方針ニ依ル解決ヲ遂ケ置クコトモ諸般ノ情勢上已ムヲ得サルヘシトモ思考セラル

三、就テハ大勢篤ト御考慮ノ上以上二項孰レニ依ラルル御意嚮ナルヘキヤ冒頭往電末段ノ正式會談迄二間ニ合フ様本使限リノ含迄ニ本省ノ御意嚮至急御回電相煩度シ

98

昭和11年11月21日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

高宗武に對し綏遠出張を中止し南京交渉妥結
のための中国側対案を作成・提出あるよう説
得について

シ更ニ蔣介石ニ共同試案ニテ取極方ニ關スル回答ヲ求メタリヤト問ヘルニ早速電照セリト答ヘタルニ付然ラハ蔣ノ回答如何ニ依リテハ直ニ開如セラルルコトナルヘキ會議ノ爲ニモ高ノ在寧ハ絶對必要ナリトテ赴綏取止方繰返シ説得シタルニ高ハ高個人トシテハ同感ナレハ今夜中篤ト考慮シ見ルヘシト答ヘタリ

ニ、依テ須磨ヨリ一體洛陽ヲ中心トスル蔣介石ノ言動ニ徴スルニ蔣ハ表面ハ兎モ角内心ハ綏東問題ヲ口實トシテ少クトモ交渉ヲ遷延セントスル底意ニテ張群モ之ニ和シツツアリト見ラルト述ヘタルニ高ハ率直ニ申上クレハ將來ハ兎モ角目下ノ處蔣ニハ斯ル意思ナク防共等ニ關スル内政上ノ困難ヲ避ケ得ル如キ解決ナラハ之ヲ遂ケ度シトノ意嚮ニテ實ノ處全面的ノ日支衝突ニ堪エ得ルカ如キ準備ハ未タ出來居ラスト詳シク一應尤モラシキ理由ヲ列ヘ立テタルニ付須磨ヨリ然ラハ此ノ現地ノミニテハ何トモナラサルニ付之ナラハ即時解決差支ナキ「ライン」ヲ當方ヨリ提出シアル覺書案等ノ對案トシテ書物ニテ二十一日中ニ提出シ得ルニ於テハ右「ライン」如何ニ依リテハ大使ヨリ政府ニ請訓方取計フヘシト述ヘ結局高トノ間ニ全然

雙方共拘束セラレサル約束ニテ話合ノ結果左ノ通り一應ノ案ヲ作成セシメタリ

(一)防共問題ニ付テハ高ニ於テ初メヨリ言及ナカリシコトニ取計ヒ從テ記錄ニ留メサルコトヲ主張シタルモ揉合ヒタル結果「防共ニ關スル雙方ノ話合ハ結論ニ達シ得サリシニ付今後引續キ熟議スルコトトス」トシ

(二)北支問題ニ付テハ「北支カ日本ト緊密ナル關係ニアルニ鑑ミ冀察兩省ハ今後共順當ナル發達ヲ遂ケシムルコトトシ其ノ隣省(河南モ含ム)ニ於ケル經濟的開發ニ關シ日支協力スルノ建前ニテ今後具體的問題ニ付中央ヨリ隨時訓令ヲ發出スヘシ」トシ

(三)關稅引下、鮮人引渡、顧問、航空聯絡ニ付テハ從來ノ話合通り

(四)前記六項目ノ話合ニ付テハ覺書ヲ作成シ互ニ寫ヲ取交スヘキモ排日問題ニ付テハ文書ハ素ヨリ何等ノ記錄ヲモ存セサルコト絶對必要ナリト主張シテ讓ラス最後ニ須磨ヨリ文書ト同一内容ノ話合ノ六項目ニ關スルモノト同様覺書トシテ交換方(須磨ノ本省ニ持歸レル最小限度案)申出テタルニ考慮シ見ルヘシト答ヘタリ(排日

二十一日午前清水ヲシテ高宗武ニ對シ對案作成ヲ急カシメタル處高ハ程滄波ト段茂瀾ノ二名ノミ豫定通り今朝出發シ自分ハ延期ノ名目ニテ實際ハ旅行取止ノコトナリ蔣介石ニ對シテモ須磨トノ會談ノ模様ヲ一切電報シ置キタルニ付一、兩日待タレ度シト述ヘタリ其ノ際高ハ清水ニ對シ最近張群ノ態度極メテ消極的ニシテ須磨トノ會談ノ結果ヲ報告シタルニ對シテモ何等意見ヲ表示セス交渉ニ取合ハサルカ如キ始末ニテ閉口シ居ル次第ナリト内話セル越ナリ

100 昭和11年11月24日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

南京交渉行詰まりの場合の交渉終結措置につ

き請訓

南京 11月24日前發
本省 11月24日前着

第九四八號
川越大使ヨリ

其ノ後モ高宗武ニ督促ヲ續ケ居ル處蔣介石ヨリ回電ナキ趣ヲ以テ猶暫ク待タレ度シトノミニテ一方本使ヨリ張群

取締ハ全然自發的タルヘシトノ主張黨部ニ強ク實ハ張群モ共同試案通り本件文書ヲ成都事件關係文書ノ附屬タラシムルコトニ内々異存ナカリシモ上述ノ如ク黨部等ヨリ撥付ケラレタル次第ナリ

三、結局須磨ヨリ前記二ノ「ライン」ノ如キ支那側ノ確定的對案ヲ提出ノ上ハ考慮ノ上請訓モスヘキニ付高ノ綏遠行ハ絶對取止ムル様力説ノ結果高自身ハ張部長並ニ緊急行政委員會議ノ承認ヲ條件トシテ出發延期ヲ承諾セルカ更ニ深夜ニ至リ張ト相談ノ結果一先ツ赴綏ヲ延期スル旨通知越シタリ

99 昭和11年11月21日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

南京交渉妥結のための對案提出方高宗武へ督促について

南京 11月21日後發
本省 11月21日夜着

第九四五號
川越大使ヨリ

ニ會見方夫レトナク申入レ居ルモ張ハ一向氣乗セス他面日獨間ノ話合アリテヨリ蘇聯ハ日露漁業條約ノ調印延期方ヲ日本ニ通告セリトノ報道等ヲ基礎トシ左ナキタニ綏遠問題ニ依リ對日強硬論ヲ弄ヒ來リタル新聞論調ハ一層強硬論ヲ掲ケ爲ニ一般ノ對日空氣モ豫想外ニ惡化シツツアル情勢ナル處二十二日陳樹人カ須磨ニ對シ綏東問題以來行政院並ニ中央政治兩會議ニ於テ日支交渉ハ自然消滅ト心得居ル旨ヲ内話ノ次第アリ二十一日綏東問題ニ關スル帝國政府聲明ニ拘ハラス内蒙軍ノ背後ニハ日本アリトノ說常識化シ自然交渉ノ成立ニ最熱ヲ出シ居ル高宗武ニ至ル迄本二十三日清水ニ對シ綏東問題ニ關スル日本援助證據

續々舉リツツアルヲ零シ又惠通公司成立ノ今日ニ於テモ猶北支ニ軍事自由飛行ノ行ハレツツアル旨ヲ述ヘ此ノ分ニテハ福岡上海問題モ實施覺束ナシト述ヘタル程ナリニ、上記ノ實狀ヨリセバ交渉ノ成立ニ最障礙トナリ居ルハ綏東問題ヨリ發セル空氣ニシテ實ハ張群カ八日、九日、高宗武カ十五、十六ノ兩日ニ亘リ蔣介石ヨリ大体須磨、高宗武共同試案ヨリ防共問題ヲ除キタルモノ位ニテ交渉ヲ

成立セシメテ可ナリトノ了解ヲ得居リ唯最後の決定ハ綏東問題ノ停止ヲ見タル上トスヘキ旨ノ意圖ヲ受ケ居ルニアラスヤト察セラレ自然張群カ從來ノ會談ニ於テモ問題視シ來リタル綏東工作カ愈表面化セル今日張程ノ驅引屋カ之ヲ口實トシテ交渉ノ遷延ヲ來スノ作戰ニ出ツヘキハ當然ニシテ若シ今後ノ會見ニ於テ先方ヨリ綏遠問題ニ關スル先手ヲ打タレナハ我方トシテ實ノ處打ツ手ヲ失ヒ而モ交渉ノ成果ハ漸次薄ラクニ至ルヘキヲ懸念セラリ

三、⁽³⁾上述ノ情勢ニ鑑ミ何トカ從來ノ話合ヲ活カシ得ル對策ニ付慎重考慮ヲ盡シタル結果今後共累次貴電ノ趣旨ニ依リ交渉ノ圓滿成立ニ飽迄努力ノ覺悟ナルモ若モ此ノ張群トノ會見ニ於テ先方ノ出方カ前記ノ觀測ヲ愈々強カラシムル様ノ場合ニハ同會見ニ於テ直ニ本使ヨリ左記四及五ノ如キ措置ヲ執ルノ外ナキ場合トモ相成ルヘク右ハ現地諸般ノ情勢ヨリ判斷シ篤ト考慮ヲ盡シタル結果外ニ方法モナキ次第ニ付實ニ已ムヲ得サルノ處置トシテ右豫メ御承知置ヲ請フ

四、本使ヨリ今次交渉ニ依リ成都事件以來支那側ノ投シタル暗影ヲ除キ兩國國交ヲ常道ニ引戻サンコトヲ期待シ六項

目排日禁遏問題、成都事件等ニ付會談ヲ重ネタル旨ヲ述ヘ其ノ内既ニ纏リタル點ヲ要録セルモノ（豫テ送付濟ノ會談覺書ノ我方書物案ノ「ライン」ニ依リ認メタルモノ）ヲ讀上ケ（其ノ寫ハ先方ニ手交）

⁽⁴⁾牽連性ナキ綏遠問題ニ引懸ケラレ交渉ノ結末ヲ遷延シ置クハ兩國國交ノ障礙トナルヘキニ鑑ミ以上ノ如ク纏リタル點ヲ記錄シ一應之ニテ日支會談ヲ區切付ケ本使ハ上海ニ戻リ成都事件、排日問題、航空聯絡合約ノ調印其ノ他本會談中其實行カ今後ニ懸リ居ルモノニ付テハ主トシテ須磨等ヲシテ協議決定ニ當ラシメ必要ニ應シ本使ニ於テ直接折衝スルコトモアルヘキ旨ヲ告ケテ會談ヲ打切り同時ニ（其ノ時刻ニハ當地ニ於テ稍々遅レテ貴地ニ於テ發表シ得ル如ク豫メ手配シ置クコトトス）別電（第九四九號返電ヲ待チ電報ス）ノ如キ趣旨ヲ公表シテ一面我方ノ立場ヲ傷ケス他方話合ノ實質文ケハ殘シ置ク様始末スヘシ元來交渉ノ内容ヲ實效アラシムルヤ否ヤハ何ウセ綏東問題ノ推移竝ニ支那側誠意ノ實體ニ依ルコトニシテ假ニ圓滿妥結ヲ見タル曉ニモ所詮幾曲折アルコトヲ免レサル次第ナリ

五、右申入ノ日ニ直ニ成都事件以外ノ諸事件ニ關シ御訓令ノ趣旨ニテ速急解決方外交部長ニ申入ルヘシ

101 昭和11年11月24日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛（電報）

南京交渉終結措置實施の場合に發出すべき大使館聲明案

南京 11月24日後発
本省 11月24日夜着

第九五二號

一、本年八月二十四日成都ニ於ケル邦人被害事件ハ帝國政府ニ於テ日支兩國ノ共同利害ヲ増進シ延イテ東亞ノ平和ト安定ヲ確立センカ爲折角國交調整ヲ企圖シ又國民政府當局ニ於テモ同様ノ希望アル旨ヲ漏ラシ居リ且兩國ニ於ケル國民的輿論ノ漸次之ヲ要望シ來レル際不幸ニモ突如トシテ發生ヲ見タルモノニシテ日本朝野ノ關心ヲ裏切り日支ノ國交ニ甚タ好マシカラサル暗影ヲ投シタリ

ニ、元來成都帝國總領事館ニ付テハ開設以來何等問題ナカリシ處本年七月下旬南京中央通信カ同總領事館再開反對ノ

報道ヲ爲シ次テ外交部ヨリモ反對意嚮ノ表明アリタル結果一般ノ反抗氣勢昂リ四川方面ニモ波及シタルカ一方國民政府ニ於テハ曩ニ邦交敦睦令ヲ公布シ排日取締方累次言明スル所アリ殊ニ成都總領事館再開反對策動取締ニ付テハ特ニ帝國出先官憲ヨリ數次嚴重注意ヲ喚起シタルニ其ノ都度國民政府ハ取締ヲ言明シ居リ乍ラ國民政府及四川省當局ハ何等有效ナル措置ヲ講セス排日氣勢ヲ趨クカ儘ニ放任シタル爲遂ニ成都事件ノ發生ヲ見タルモノニシテ期ノ如ク國民政府カ自ラ邦交敦睦令ノ精神ヲ蹂躪シ累次言明ニ對スル不誠意ヲ暴露スル結果トナリタルハ日支國交ノ調整ヲ希望スル者ニ取り洵ニ痛恨ニ堪エサル所ナリ

三、依テ國民政府ニ於テ

右ニ對スル重大ナル責任ヲ反省自覺シ誠意ヲ披瀝シテ善後措置ヲ講スヘキハ當然ノ次第ナルカ之爲ニハ單ニ事件自体ノ速急解決ヲ計ルニ止マラス累次事件ノ再發ニ依リ兩國國交力更ニ阻害セラレ雙方ノ國民的感情カ愈疎隔セラルヘキ危險ヲ豫防シ進ンテハ積極的ニ國交ノ調整改善ヲ計ルコト肝要ナル次第ニ付帝國政府ハ國民政府ニ對

第九五四號
往電第九四八號ニ關シ
川越大使ヨリ

南京 11月24日後發
本省 11月24日夜著

102

昭和11年11月24日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

綏遠問題が解決するまで南京交渉の妥結は困難との吳鼎昌内話について

編注 原文では「安定ヲ」の後に「確定ヲ」があるが、筆写の際の誤りと思われるため削除した。

民政府カ誠意ヲ以テ其ノ實行ニ當ルヘキヲ期待シ之ニ依リ日支國交調整ニ一歩ヲ進ムヘキコトヲ確信スルモノナリ
一、本交渉開始以來北海、上海、漢口等ニ於テ續發セル邦人被害事件ニ付テハ本日更メテ速急解決方外交部ト話合ヲ開始セリ

シ成都事件自体ノ解決方ヲ要求スルト共ニ支那國民ノ對日感情は正ノ根本策トシテ國民政府ニ於テ自發的ニ排日ノ根絶ヲ爲シ且一切ノ排日的策動ノ禁遏方ニ付其ノ責ニ任スヘキコトヲ求ムル一方國民政府カ成都事件ニ依リ國交調整及改善ノ將來ニ投シタル重大ナル暗影ヲ一掃スル爲此ノ機會ニ於テ重大ナル決意ヲ以テ國交調整ヲ實現スヘキコトヲ大局ヨリ篤ト申入ルル所アリタリ
一、右ニ關スル折衝ハ九月八日頃須磨總領事ト張外交部長トノ間ニ豫備的會談開始以來川越大使ト張外交部長トノ間ニ七回、須磨總領事ト張外交部長或ハ高亞洲司長等トノ間ニ二十數回ニ亘リテ行ハレ我方申入ハ妥當ニシテ且國交調整上必須ノ事項タルコトヲ委曲ヲ盡シテ説明スル所アリ尙此ノ間北海、上海、漢口等ニ於テ帝國海軍軍人、領事館警察署員及商民ニ對スル殺傷事件續發シテ被害者數名ニ及ヒ
⑧ 自然國內ノ輿論甚タシク硬化シタルモ帝國政府ニ於テハ國交調整ノ高所ヨリ隱忍ヲ重ネテ國論ノ指導ニ努メ專ラ國民政府ニ於テ速ニ誠意ヲ披瀝シ自發的解決ヲ爲スコトヲ期待シ累次ノ會談ニ依リ國交調整ニ關スル重

要事項ニ付テハ大体意見ノ接近ヲ見タルモ最近ニ至リ國民政府外交當局ハ遽ニ本折衝トハ全然關係ナキ事項ヲ採用シ來リ會談ノ結末ヲ遷延スルカ如キ態度ヲ示シ殆ト何等進展ヲ見サルニ至レリ
一、然ルニ本折衝開始以來三箇月ニ垂トスルニ拘ラス斯クノ如キ模糊ノ狀態ニ於テ荏苒日ヲ空ウスルコトハ國交ノ調整ニ何等資スル所ナキノミナラス却テ兩國國民ノ疑惑ヲ深メ輿論ノ趨向ヲ誤ラシ又爲ニスルモノヲシテ乘セシムル惧モナキニアラス本折衝ノ企圖スル目的ニ反スル結果ヲ招クモノト認メラルルヲ以テ
川越大使ハ十一月五日張外交部長ト會見シ從來行ハレタル會談ノ經緯ヲ辿リ既ニ雙方意見ノ合致ヲ見タル諸事項ニ付逐一檢討ヲ重ネ其ノ相違ナキヲ確メタル上正式ノ會談ハ右ヲ以テ打切り結末セル諸事項ニ關シテハ事務的手續ヲ行ハシムルコトセリ
一、未處(理)事項即チ成都事件、排日問題其ノ他國交調整ニ關スル諸問題ニ付テハ事務的手續完了次第發表ヲ爲ス運トナルヘキ處是等問題ノ大部分ハ國民政府ニ於テ將來逐次之カ實行ヲ爲スヘキモノニ鑑ミ帝國政府ハ國

綏東問題ニ依ル空氣ノ惡化募リツツアルモ何トカ交渉ヲ冒頭往電ノ如キ一方の押付案ニ依ラサル圓滿結末ヲ達成シ度ク更ニ支那側ノ猛省ヲ促ス爲最後ノ努力ヲ爲シ居リ本二十四日須磨ヲシテ吳鼎昌ニ對シ支那側態度ノ煮切ラサルハ心外ニシテ却テ兩國間ノ全面的衝突ヲモ来スヘキ惧アル處之ヲ自覺シテノ遷延ナリヤト突込マシメタル處吳ハ本使並ニ日本側ノ努力ニ依リ支那側内部ノ困難ニモ同情ノ上勇氣ヲ以テ妥結ニ努メラレタル誠意ハ外交當局ハ勿論行政院側全部ニ於テ大イニ感謝シ居リ自然大体往電第九四四號須磨、高宗武ノ話合程度ナラハ何トカ纏マリ着クコトナリシニ氣遣ハレタル綏東問題俄然進展シ傳作義ノ報告ニ依レハ武器及人ニ於テ全部日本側ノ支援ニ依ル趣ノ處
⑨ 二十一日ノ東京政府ノ聲明ニ依リ日本ハ何等關知セサル旨ノ誓言アリ少クトモ此ノ上ノ展開ハナキモノト安心ハシ見タルニ喜多武官ノ右政府聲明トハ相反スル談話モアリ(往電第九五〇號ノコトナルカ須磨ヨリ恐ラク事實ニアラサルヘシト説明シ置ケリ)事實刻々到達スル華北ヨリノ情報ニ依ルモ背後關係ニ付益々疑惑ヲ濃厚ナラシムルモノアリ結局張群ニ於テモ事實上綏東問題消滅スルコトヲ見極メサル

ニ於テハ交渉ノ結末ハ爲シ難カルヘク從テ右結末ノ時期ハ日本側ニ於テ決定シ得ラルル譯ナリト述ヘ須磨ヨリ繰返シ牽聯關係ナキ問題ニ口實ヲ求ムルコトノ不合理ナルヲ說キ交渉結末ノ促進ニ努メ見タルモ中央政府トシテ日支關係ノ惡化ヲ防ク爲重大決意ヲ爲シ居ルコトハ例ヘハ上海ニ於テ紡績罷業ヲ煽動セル救國會系ノ有力者ヲ逮捕シタルニ依リテモ知ラルヘシト應酬シ居タルカ尙須磨ヲシテ張公權ニモ會見申込マシメ見タルニ張ハ何レ吳ヨリ須磨ノ話ヲ承ルヘシト逃ケ居ル狀態ナリ

103 昭和11年11月25日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

南京交渉終結措置實施の場合に中國側へ手交すべき口上書案について

- 別電一 昭和十一年十一月二十六日発在南京須磨總領事より有田外務大臣宛第九五八号
- 共同防共など六項目に関する口上書案
- 二 昭和十一年十一月二十五日発在南京須磨總領事より有田外務大臣宛第九五九号

排日取締問題に関する口上書案
三 昭和十一年十一月二十五日発在南京須磨總領事より有田外務大臣宛第九六〇号
成都事件解決交渉に関する口上書案

南京 11月25日後発
本省 11月25日夜着

* 第九五七號
往電第九四八號ニ關シ
川越大使ヨリ
冒頭往電四、本使ニ於テ讀上ケ寫ヲ先方ニ手交シ置クヘキ口上書案別電第九五八號(六項目)、第九五九號(排日取締)及第九六〇號(成都事件)ノ通

(別電一)

南京 11月26日前発
本省 11月26日前着

* 第九五八號
川越大使ヨリ⁽¹⁾
一、共同防共

往電第八九一號ノ二末段ノ議事錄案(別府事務官持歸ノ分、以下單ニ案ト稱ス)

本使ノ發言ニ續ケ左ノ通り附加ス、前文ノ形式ハ後出不逞鮮人及顧問ノ項ノ通り、以下同シ

貴外交部長ヨリ中國ニ對スル赤化勢力ノ侵犯ヲ防遏スル爲日華兩國ニ於テ協力シ共同ノ方策ヲ樹ツルノ必要ナルヲ認メ國民政府ハ從來ノ國策ニ一大轉換ヲ爲シ日本ト共同シテ防共ノ措置ヲ執ルノ原則ヲ決定セル旨及蔣行政院長ニ於テモ絶對ニ共產主義ヲ排撃シ蘇聯ト提携スルカ如キハ毫モ考慮シ居ラレサルコトヲ斷言シ得ル旨言明アリタルカ本件ニ關スル雙方ノ話合ハ未タ結論ニ達シ居ラサルニ付今後引續キ熟議スルコトトスヘシ

⁽²⁾ 赤化防止ニ關シテハ

案

本使ノ發言ニ續ケ左ノ通り附加ス

貴外務部長ヨリ右本使ノ提議ノ趣旨ハ篤ト了解セルモ反共產主義協定ノ即時締結方ニ付テハ差當リ中國側内政上機微ナル事情アルヲ以テ此ノ際直ニ本使ノ提議ヲ受諾シ難ク何レ右事情消滅ノ上更メテ協議ニ應スルコトト致度

キ旨應答アリタルニ付本使ニ於テハ其ノ時期ニ至リ又協議ヲ遂ケ度キ所存ナリ

一、華北問題ニ關シテハ

案

本使ノ發言ニ續ケ左ノ通り附加ス

貴方ヨリ國民政府ニ於テハ華北方面カ日本ト緊密ナル關係ニアルニ鑑ミ右ニ即應スルニ必要ナル措置ヲ講スヘク冀察兩省ニ付テハ此ノ上共順當ナル發達ヲ遂ケシムルコトトシ冀察ノ隣省ニ付テハ同地方ノ經濟開發ニ關シ日華協力スル建前ニテ具體的事項ニ付今後國民政府ヨリ關係地方當局ニ對シ隨時訓令ヲ發出スルコトトスヘキ趣旨ノ應答アリ本使ニ於テ先ツ當分此ノ趣旨ニテ同方面ノ日華緊密關係ヲ助成シ行クノ熱意ヲ茲ニ更メテ發表ス

⁽³⁾ 航空問題ニ關シテハ

案

本使ノ發言ニ續ケ左ノ通り附加ス

貴方ニ於テハ不取敢客年十月二十二日合約草案中ニ本件實施期ヲ明年五月一日ト定ムル旨ヲ明記シテ即時之ニ調印シ前記期日ニ無條件ニ實施スルコトトスヘク唯右調印

ト同時ニ貴方ヨリ右合約ニ協定ナキ航空ニ關シ日本側ニ對シ公文ヲ以テ何等申入ヲ爲シ度ク尤モ我方ヨリハ之ニ對スル回答ハ期待セラレサル旨申出アリタルカ本使ハ右申入ハ貴方内部關係上ノ必要ニ基クモノナルヘキヲ考慮シ特ニ公文ノ受領ハシ置クヘキコトヲ茲ニ聲言ス

一、日華兩國經濟關係ノ改善方ニ關シテハ

案

本使ノ發言ニ續ケ左ノ通り附加ス
貴外交部長ヨリ國民政府ニ於テハ九月二十一日日本側ヨリ提示シタル輸入稅率引下案ヲ參照シ出來得ル限り日本側ノ希望ニ副フヘキ(脱?)ヲ三、四箇月内ニ實施スヘキ旨回答アリシカ日本側トシテハ一日モ速ニ其ノ希望ヲ達成スルコトカ日華兩國ノ經濟關係上極メテ樞要ナルコトニ付再應國民政府ノ注意ヲ喚起スルモノナリ

二、不逞人ニ關シ

本使ヨリ從來國民政府ニ於テ不逞鮮人ヲ庇護シ來レルハ日華國交上重大ナル障礙ナルヲ以テ速ニ是正方ヲ要望シタルニ對シ貴外交部長ヨリ國民政府ニ於テハ本件要望ニ應スヘキ何等ノ條約上ノ義務ナキモ日本ニ對スル好意ノ

編 注 原文では「右申入ハ」が二度繰り返されているが、筆寫の際の誤りと思われるため削除した。

(別電二)

南京 11月25日後發
本省 11月25日夜着

第九五九號

川越大使ヨリ

「今次事件ノ發生ノ如キ極メテ不祥ナル結果ヲ招クニ至レルハ全ク貴國ニ於ケル排日ニ根源ヲ有スル次第ニ付帝國政府ニ於テハ此ノ點ニ關シ國民政府ノ反省自覺ヲ促スノ要アルヲ認メ本使ヨリ貴部長ニ對シ排日根絶ニ付適切有效ナル手段ヲ講シ根本的ニ兩國々交ヲ阻害スル原因ノ排除ニ努メラルコト肝要ナルヘキ旨注意ヲ喚起シ置キタル處右ニ關シ國民政府ノ自發的措置トシテ今後(イ)國民政府ハ最善ノ努力ヲ盡シ一切ノ排日ヲ根絶セシムヘク從テ(ロ)國民政府ハ國民黨部其ノ他如何ナル團體タルトヲ問ハス其ノ一切ノ排日的策動ノ禁絶方ニ付其ノ責ニ任スヘク又(ハ)國民政府ハ此ノ後充分ニ中國民衆ヲ指導シ日支兩國

表示トシテ不逞ノ行爲アリ又ハ不穩ノ計畫ヲ有スル朝鮮人ニシテ現ニ中國管轄區域内ニ居住シ居ルモノハ自今國民政府ニ於テ之ヲ庇護セサルハ勿論日本官憲ヨリ右事實ヲ明示セラルル場合ハ之カ逮捕引渡ヲ爲スヘキ趣旨言明アリタリ依テ本使ハ右言明ニ信賴スルト共ニ茲ニ再應本件不逞鮮人中ニハ皇室ニ關スル罪ノ犯人ヲモ含ミ居リ國民的感情上ヨリスルモ本項ノ實行ニハ帝國政府力最重キヲ置クモノナルコトヲ聲言ス

二、日本人顧問ニ關シ

本使ヨリ日華兩國間ノ緊密ナル關係ニ鑑ミ國民政府僱聘外國人顧問中ノ相當多數ハ日本人タラシムルコトト致度キ旨希望ヲ表明シタルニ對シ貴外交部長ヨリ國民政府行政院各部及現ニ外國人顧問ヲ招聘シ居ル各機關ニ日本人顧問ノ招聘方ニ異存ナク明年三月迄ニハ實行スヘキ意嚮ナル旨言明アリシカ本使ハ國民政府ニ於テ招聘ヲ希望セラルル部及人數ニ付テハ前記三月以前ニ出來得ル限り速ニ諸般ノ御希望ト共ニ日本側ニ申出アランコトヲ茲ニ切望ス

關係ノ積極的改善ニ努力スヘキ方針ナルカ尙以上ニ關聯スル具體的措置トシテ國民政府ニ於テハ既ニ八月二十九日陸隣令ヲ又九月十日右徹底方ニ關スル行政院長ノ命令ヲ夫々發出シ尙又九月十四日軍事委員會委員長ノ各軍事當局ニ對スル排日禁止方命令ヲ發出シ又教科書審查委員會ヲ設ケテ教科書ノ檢閲ヲ實行セル外進テ近キ將來ニ於テ執ルヘキ措置トシテ

(一)排日禁止命令ノ徹底

(イ)中央黨部常務委員會副主席ハ近ク各級黨部(各地方黨部、各海外黨部、各職業別特別黨部及各軍隊特別黨部其ノ他各黨部機關)及黨部員ニ對シ排日禁絶方命令ヲ發スヘク

(ロ)蔣介石氏ハ近ク全國民ニ對シ排日禁止方聲明スヘク

(二)排日教科書ノ改訂

教育部當局ニ於テ委員會ヲ設ケテ教科書ノ改訂ヲ促進中ナルヲ以テ各學校ニ於テ使用セラルル教材中排日的色彩アルモノハ最短期間内ニ一切之ヲ除去スヘク

(三)排日言論ノ取締

新聞(小報ヲ含ム)、雜誌(兒童用ノモノヲモ含ム)其ノ

他出版物、意匠、繪畫、映畫、演劇等ニ於ケル一切ノ排日的色彩ノ取締ニ付一層ノ注意ヲ加フルト共ニ日華關係ノ増進ヲ旨トセシムル様指導スヘク

(四)日本人ノ旅行ノ自由及安全ノ保障

從來日本人ノ中國旅行ニ付安全保障ノ爲行動ノ自由ヲ束縛スル惧アリタルヲ以テ自今寧ロ中國民衆ノ取締ニ遺憾ナキヲ期シテ以テ日本人ノ旅行ノ自由ト安全トヲ確保スヘキ旨申出アリタルニ付本使ハ之ヲ了承シ國民政府ニ於テ誠意ヲ披瀝シ以上各項ノ實行ニ當ラシムルコトヲ期待スルト共ニ日本側ハ是等措置ニ關スル實績ヲ監視スル爲特ニ常設的機關ヲ設ケ徹底的調査監視ニ當リ必要ニ應ジ中國側ニ對シ警告ヲ爲スヘク若シ中國側ニ於テ右調査ノ結果ニ基キ警告ヲ顧ミス其ノ責任ヲ回避スルカ如キ場合ニハ日本側トシテハ已ムヲ得ス自衛ノ爲必要ナル手段ヲ講スヘキ旨併セテ茲ニ聲明ス

(別電三)

南京 11月25日後発
本省 11月25日夜着

貴電第二四五號ニ關シ
川越大使ヨリ

一 往電第九四八號ノ四ノ趣旨ハ今次ノ交渉事項ニ關シテハ御承知ノ通り雙方ノ意見大体一致シ居ルニ拘ラス支那側ニ於テ綏遠問題ニ引懸ケ之カ締結ヲ爲スヲ肯セス却テ先手ヲ打ツテ交渉ヲ決裂セシメントスヘキヲ見越シ且ハ日獨協定發表後當分ノ情勢ハ決シテ我方ニ有利ナラサルハ往電第九五六號高宗武ノ談話ニ依ルモ明カナルニ鑑ミ之カ對抗策トシテ我方ヨリ進ンテ一應ノ結末ヲ着ケ且之ニ依リ正式會議ヲ打切り我方カ綏遠工作ノ傍交渉ヲ續行セントスルカ如キ矛盾セル態度ヲ執リツツアリトノ支那側全般ノ觀測及重苦シキ空氣ヲ一掃スル一方情勢次第ニ依リテハ

(2) 之ヲ以テ支那側ノ反省ヲ促シ往電第九四四號ノ二程度ノ成果ヲ得ントスルモノニシテ本使等ニ於テ苦心慘澹ノ結果漸ク茲迄漕付ケ猶凡ユル努力ヲ爲スニ拘ラス如何トモ爲シ難キ場合已ムヲ得ス執ルヘキ手段トシテ悲壯ナル覺悟ヲ以テ熟慮ノ上得タル結論ナルコトハ御賢察ノ通りナリ

* 第九六〇號

川越大使ヨリ

一 成都事件ニ關シテハ曩ニ解決案ヲ送付シ置キタルカ貴方ニ於テハ大体異存ナキモ唯四川省主席ノ謝罪ハ困難ナル場合アルヲ以テ之ニ代ヘ同主席ノ處罰及將來ノ保障ヲ爲スコトニ改變方提議アリ本使ハ之ニ異議ナシ尙賠償金額モ大体異議ナキ由ナルヲ以テ至急本件解決ニ關シ必要ナル手續ヲ進メラレ度ク(爲念解決案更ニ調製ノ上茲ニ交付ス)貴方ノ右手續完了ノ上ハ貴方ニ於テ承諾方數次言明アリタル通り直ニ在成都總領事館ノ再開方取計フヘキニ付必要ナル準備ヲ進メラレ度シ

104

昭和11年11月25日
在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

南京交渉行詰まりの場合の交渉終結措置につ
き再度請訓

南京 11月25日後発
本省 11月25日夜着

* 第九六一號

二 綏遠問題ニ對スル支那側空氣ハ豫想外日ニ激化シ來リツツアリ又中央要人ノ態度ハ往電第九五四號吳鼎昌ノ談話ノ通りナル處二十五日須磨ヲ來訪ノ際高宗武ノ談ニ依ルニ高カ本使ト張群トノ會見ヲ溢リ居ルハ會見ノ上ハ張ヨリ綏遠問題ニ言及セサルヲ得サルコトナリ自然交渉ヲ決裂ニ導ク惧アルカ爲ナル由ニテ(右ハ宣傳トノミハ思ハレス)支那側トシテハ綏遠工作一段落後ナラテハ交渉ヲ取纏メ得サル立場トナルヲ以テ此ノ際之ヲ切離スコトハ我方不斷ノ努力ニ拘ハラス到底望ナク又中央軍部ノ態度及交渉ト綏遠問題ヲ切離サシメンカ爲ノ本省ニ於ケル御苦心ノ程ハ充分推察スルモ元來内蒙工作カ帝國ノ既定方針ナル以上今次ノ如キ時機及方法ニ付テハ意見モアルヘキモ既ニ始ツタ以上ハ之ヲ中止スルヲ得サルヘク萬一不用意ニ中止スルカ如キ場合ハ當然結果スヘキ支那ノ侮日的態度ハ暫ク措クトスルモ

(3) 内蒙工作ハ根本的ニ打擊ヲ受クヘキハ勿論滿洲國ノ統治ニモ重大ナル影響ヲ及ホシ帝國國策ノ核心ニ觸レ來ルヘク此ノ觀點ヨリセハ綏遠工作一段落後交渉ヲ纏メントスルカ如キハ言フヘクシテ行ハレスト認メラル

派員「チエンバリン」ノ須磨ヘノ來談ニ依レハ二十五日張群ハ「チエ」ニ對シ日支交渉ハ綏遠問題終熄スル迄ハ中止スル考ナルカ萬一同方面調査ノ結果背後ニ日本カ關係シ居ルコト判明セハ是迄ノ話合ハ總テ當初ヨリ話ナカリシモノトスルノ他ナキ意嚮ニテ折角研究中ナル旨語リ又同日翁文灝ハ日支ノ話合ハ一切中止スルコトニ決定シ居レルカ日本側今日迄ノ遣方ヨリ考フルニ日本ハ蘇聯ニ對抗センカ爲ニ綏遠工作ヲ爲シ居リ結局支那ヲ自分ノ方ニ引摺リ込マントスル腹ナリト認メラルル處北支及内蒙方面ニ於テ日本ノ軍事的強制ノ下ニ支那カ立タシメラルルコトハ眞向ヨリ反對セサルヲ得サル旨語リタル由ニテ「チエ」ハ斯ノ如キ狀況ナリトセハ日支交渉ハ決裂ノ他ナシト考フル旨述ヘタル趣ナルカ新聞並ニ支那側ハ百靈廟占領ノ報道等ニ關聯シ昨今ハ殆ント戰勝気分ニ酔ヘルカ如キ實狀ニテ事態ハ益々我方ニ不利ニ展開シ此ノ分ニテハ支那側ヨリ先手ヲ打チ來ルコトモアリ得ヘシト思考セラルルニ付右情勢及往電第九六六號ノ次第モ御考慮ニ加ヘラレ冒頭往電御詮議ノ結果明二十七日中ニ到達スル様御回電相煩シ度シ

三 政府ニ於テ或ハ現在ノ交渉狀態ヲ繼續スルコトニヨリ内蒙情勢ノ激化ヲ幾分ナリトモ阻止シ得ヘシトノ御内意モアルヘキモ右ハ一應尤モノコト乍ラ前記二ノ事情ヨリ考フルニ果シテ幾何ノ期待ヲ持チ得ヘキヤ餘程考慮ヲ要シ又先般綏遠視察後當地ニ立寄レル大橋次長ノ實狀談ニ依ルモ形勢決シテ樂觀ヲ許ササルモノアルヤニ存セラル

四 本件交渉ヲ茲迄漕付ケ得タルハ從來ノ御訓達ニ基キ本使等ニ於テ一体不可分ノモノナルコトヲ斷ヘス支那側ニ強調シ來レル結果ナルコト御承知ノ通りナル處此ノ際成都事件或ハ排日問題ヲ切離シ解決ヲ急ク態度ヲ示スニ於テハ本使ノ立場ハ暫ク措クトスルモ帝國政府ノ綏遠問題ニ對スル弱味ヲ暴露スル結果トモナルヘク

又前記會談ニ於テ高ハ須磨ニ對シ交渉ノ成否ハ今ヤ内容ノ大小如何ニアラスシテ綏遠工作ヨリ生スル一般の空氣如何ニ懸ル次第ナル旨ヲ明言シ居リ我方ヨリ冒頭貴電ノ御訓示ニ基キ支那側ニ當リ見ルモ所詮承諾ヲ得ラレサルヘク却テ帝國ノ威信ヲ失墜スルニ止マル結果トモナルヘシ

五 就テハ御訓電ニ基キ此ノ共努力ヲ重ヌヘキモ萬策盡キタ

ル場合ハ當方ノ見透ニ依リ往電第九四八號ノ案ニテ進ム外ナカルヘク右ハ決シテ交渉ノ打切ニアラサルコトハ往電第九五七號等ニテモ明カニシテ或程度交渉ノ成果ヲ收メントスルト共ニ帝國ノ威信ヲ保チツツ一應ノ引込ヲ付ケ且後日交渉再開ノ餘地ヲ殘シ置ク次第ナルニ付テハ内政上ノ關係等機微ナルモノアルヘキハ感慨ニ堪ヘサル所ナルモ前記諸點篤ト御考慮ノ上再應御詮議相煩度シ

105

昭和11年11月26日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

綏遠事件への中国側空氣に鑑み中国側が南京
交渉を打切る懸念もあり交渉終結措置の是非
につき至急回訓方稟請

南京 11月26日後発

本省 11月26日夜着

第九六八號

往電第九六一號ニ關シ

川越大使ヨリ

二十六日「クリスチアン、サイエンス、モニター」東京特

106

昭和11年11月26日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

南京交渉終結措置實施の場合に発出すべき大
使館声明案の修正について

南京 11月26日後発

本省 11月26日夜着

第九七〇號

往電第九五二號ニ關シ

川越大使ヨリ

本件公表文案左ノ通り訂正セリ

(一)第二項前段「次テ外交部ヨリ」以下「表明アリ」迄ヲ削
除シ直ク次ノ「結果」ヲ「以來」ト改メ並ニ末段「邦交
敦睦令ノ」ヨリ「蹂躪シ」迄ヲ削除ス

(二)第五項末段「其ノ相違ナキ」以下「打切り」迄ヲ「テ會
談ノ結末ヲ明カニシタル上」ト訂正ス

(三)第六項前段「ニ付テハ事務的云々」以下「是等問題」迄
ヲ削除ス

107

昭和11年11月27日 有田外務大臣より
在南京須磨總領事宛(電報)

南京交渉終結措置実施に至るまではできる限り多くの成果を残すよう尽力すべき旨訓令

本省 11月27日発

第二五一號(大至急、極秘)

貴電第九六八號ニ關シ

川越大使へ

一、貴電第九五七號別電及貴電第九七〇號ノ内容詳細検討シタルカ貴方御苦心ノ存スル所ハ本大臣ノ深ク諒トスル所ナリ。萬一貴電第九六一號御觀測ノ如ク張群ニ於テ綏遠問題ニ引懸ケ既ニ大体意見ノ一致ヲ見タル點ヲモ否認スル外更ニ進シテ全面的ニ交渉打切ノ態度ニ出テ來タル場合ニ於テハ我方ニ於テ今後幾多支那側ノ具體的實行ヲ要望シ居ル成都事件、排日取締問題等ニ付此ノ上話合ヲ進メムトスルモ所詮妥結ノ途ナキ次第ニシテ其ノ際ハ交渉ハ事實上決裂トナルノ外ナキ次第ナルモ從來許大使等ニ於テハ六項目中大体防共問題(一般及北支)ヲ後廻シトスルニ於テハ其ノ他ノ點ニ關シテハ話合纏マレリトノ見解

テ萬一冒頭貴電ノ如キ措置ヲ執ルノ已ムナキニ至レル(最後ノ手段トシテ本件措置ヲ執ル場合ト雖モ其ノ時期ニ關シテハ當方ト打合ハセラレ度シ)結果假令交渉行惱トナルトモ今次交渉ノ成果トシテ殘ル事柄ヲ成ルヘク多クシ置クコト諸般ノ關係上極メテ肝要ナリト思考シ居

リ
換言スレハ今後支那側ノ態度如何ニ依リ貴電第九六一號ノ如キ措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ル場合アリトスルモ其レ迄ニハ往電第二四五號ノ趣旨ニ依リ貴大使ニ於テ十二分ニ手ヲ盡サルコト絶對必要ナリト存ス(其ノ結果支宛往電第二二四號ノ交渉ヲ先ツ)ヨリ取纏メ行キ更ニ機ヲ見テ(甲)ニ移ル建前トナル處成都事件自体及其ノ他ノ事件ニ付キ今少シク交渉ノ結末ヲ着ケ置クハ對内關係上ヨリ云フモ必要ナルノミナラス「南京政權ハ國交調整ニ關スル全面的問題ヲ討議スルノ資格ナシ」トノ捨セリフハ成都事件自体、排日取締問題、顧問、不逞鮮人、關稅、航空等南京側ヨリ取り得ル限りノモノヲ取り盡シタル上ノコトトスルモ決シテ遅カラサルヘシ懸案解決ニ關スル原則ヲ支那側ニ押シツケタルノミニテ事件ニ對スル賠

ヲ持シ居タル次第ニテ此ノ際綏遠問題ニ引懸ケ六項目ヲ遷延セシメントスルノ態度ニ出ツルコトアリトスルモ如何ニ張群ト雖モヨモヤ成都事件及排日取締等直接事件ニ關係アル問題迄ヲモフイニセントスルカ如キ不敵ノ覺悟ハ決メキラサルモノトモ想像セラレサルニ非ス

二、然ルニ今次交渉中排日取締問題ニ就テハ(綏遠問題ノ發生ニ依リ困難ヲ加ヘタルハ事實ナルモ)九月十四日軍事委員會委員長ノ命令以後何等具體的の命令發出ノ運トナリ居ラサルノミナラス成都事件自体ニ關シテモ高宗武ニ於テ大体差支ナキ旨述ヘ居ル外ハ貴大使ト張群トノ間ニ於テハ責任者ノ處罰、賠償金等ノ問題ニ關シ何等具體的の確約ナク尙上海事件、北海事件等ニ關シテハ更ニ話合ナキ次第ニシテ旁々當方トシテハ御來示ノ如キ措置ヲ執ルコトニ依リ却テ此等排日取締問題、成都事件其ノ他ニ付前記ノ末尾ノ如キ支那側態度ヲ強ムルノ惧ナキヤヲ懸念シ居ル一方貴電第九四四號二ノ如キ成果ヲ得ル爲ニモ此ノ際公式會談ヲ打切ルト云フカ如キ印象ヲ支那側ニ與フル形トセス往電第二四五號ノ趣旨ニ依リ飽迄執拗ニ交渉ヲ續ケ其ノ間交渉ノ成果ヲ出來得ル限り多く取纏メ行キ以

償金モ取レスト云フカ如キ結果トナリテハ當方立場ハ極メテ困難トナル次第ニ付以上諸點充分御含ノ上我方目的達成方此ノ上トモ御盡力相成度シ

108

昭和11年11月28日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

南京交渉につき最後の努力を継続中ではあるが万やむを得ない場合は交渉終結措置を実施する旨請訓

南京 11月28日後発
本省 11月28日夜着

第九七六號(至急、交渉、極秘)

貴電第二五一號ニ關シ

川越大使ヨリ

一、當方ニ於テハ往電第九四八號中ニ述ヘタル通り萬已ムヲ得サル場合ニ處スヘキ方法ニ付稟請ヲ爲シタル傍ラ何トカシテ出來ル丈ケノ成果ヲ現實ニ收メル爲總ユル努力ヲ續ケ居ル次第ナルカ其ノ後モ引續キ須磨ヨリ高宗武ニ當リ見タル結果高ハ二十五日來訪ノ際高限りノ試案トシテ

未タ自信ハナキモ段茂瀾歸寧ノ上ハ綏遠工作ノ背後關係ヲ極メテ輕ク取扱フ様指導スルニ付其ノ際ハ日本側ヨリ今一度日本カ全ク無關係ナルコトヲ發表スルコトトシ交渉自體ハ大體往電第九四四號ノ「ライン」ニテ極秘裡ニ取纏メ之カ發表ハ現在ノ如キ重苦シキ空氣ノ緩和スルヲ待チ考慮スルコトトシ度キ内意ヲモ洩ラシタルコトアリタルカ高ハ本二十八日周[○]隆[○]庠[○](亞洲司研究室專員)ヲ須磨ノ許ニ派シ右案ヲ修正方全然望ナキニアラス此ノ關係ニテ二、三日南京ヲ留守ニスヘキニ付了解ヲ請フ旨ヲ傳ヘ(高ハ本日洛陽ニ飛行セルモノト察セラル)シタルカ(尤モ右高ノ試案ハ高カ交渉ハ何トカ取纏メントスル熱心ノ餘リ立案セル全然私的ノモノナルヘク又元來ノ空氣ヨリ見テ殆ト望ヲ懸ケ得サルヘシ)一方政府部内ノ空氣ハ依然トシテ相當險惡ニシテ本使ヨリ張群ニ會見ヲ申入レタル爲昨二十七日行政院會議ヲ開キ長時間討議ヲ重ネタルカ交渉至急打切論盛ニシテ張群、吳鼎昌、張公權ノ如キハ

翁文灝、俞飛鵬等ヨリ痛ク軟弱ナリトテ非難セラレ遂ニ默リ込ムノ已ムナキニ至レル由ノ情報モアリ情勢ハ殆ト

閣下御諒察ノ通りニテ最後ノ場合ニハ右以外方法ナク本省ニテ或ハ想像相成ルカ如ク徒ニ交渉打切ヲ爲サントスルモノニアラサルコトヲ篤ト御考慮ヲ仰キ萬已ムヲ得サル最後ノ手段トシテ右様措置ヲ執ルコト枉ケテ御諒承置ヲ請フ而シテ右措置ノ時機ニ付テハ御訓達ノ通り豫メ御打合ノ積リナルモ先方ノ出方ニ依リテハ或ハ其ノ違ナキコトモアルヘキニ付右豫メ御含置ヲ請フ

109 昭和11年11月29日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

日独防共協定が日中關係に及ぼす惡影響につき 高宗武懸念表明について

南京 11月29日午後 本省 11月29日夜着

第九五六號

貴電第二四五號ニ關シ

川越大使ヨリ

本二十五日高宗武須磨來訪ノ際日獨間ニ反共產協定並ニ軍事同盟成立セル旨ノ確報アル處如何ト質問セルニ對シ須磨

何等緩和ヲ見ス新聞記事漫畫ノ如キモ前例ナキ毎日の調子ヲ示シツツアリ

「冒頭責電本省御苦心ノ程充分察シ居ル所ニシテ本使等トシテモ此ノ際切メテ排日及成都事件ナリトモハツキリシタ解決ヲ計り度キ氣持ハ肚一杯ナルカ支那側ヨリ進ンテ全面的交渉打切ノ態度ニ出テ何モ彼モ否認スルカ如キコトハ萬ナカルヘシトハ考フルモ左リトテ御來示ノ如ク貴電第一八二號當初ノ訓令ニ立歸リ成都事件等ヲ切離シ今日ニ至リ急ニ是等ノミノ妥結ヲ求ムル態度ヲ示ストキハ支那側ハ今日迄ノ話合ハ假ニ眞向ヨリ否定ハセストスルモ特ニ張群カ防共問題ニ付政策ノ一大轉向ニ出テ過キタル失態ヲ何トカ取繕ヒ度キ事情モアリ其處ハ支那式ニ巧ク全部ノ話合ヲ有耶無耶ニスルノ態度ヲ示スノ餘儀ナキ環境ニアルコトハ屢次ノ往電ニ依リ御推定相成ル通りニシテ當方トシテハ右危險ニ直面シタル際先ツ「スマート」ニ立廻リテ從來ノ成果丈ケハ待ツタナシニ抑ヘ込ミタル上而モ油斷ナク冒頭責電ニ一通リ一ツ宛片付ケ行カントスル苦衷ニ出テタルモノ即チ冒頭往電ノ方策ニ有之何トカ我方全面的地歩ヲ害セス而モ成果ヲ收メン爲ノ苦心ハ

ヨリ先般來支那側トモ話合ヘル反共產主義協定以外ニハ何物モナシト答ヘタルニ高ハ本問題ノ爲支那側大部分ハ日本ノ對支壓迫強化サルヘキヲ懸念シ又之ニ依リ支那カ蘇聯ト結フカ如キコトハ絶對アリ得サルモ支那國內ノ連俄派ト親英派トカ提携シ當分ノ間日支關係ニハ面白カラサル影響アルヘシトノ觀測專ラナリト述ヘ居タル趣ナリ

110 昭和11年11月30日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

日独防共協定や綏遠事件が及ぼした対日氣運の惡化に関する吳震脩内話について

南京 11月30日午後 本省 11月30日夜着

第九八二號

過去三週間四川雲南ヲ旅行シ上海ニ於テ王曉籟其ノ他中國銀行關係者等ト會談シ昨二十九日歸寧直ニ張群トモ會談セル吳震脩カ本官ニ對スル内話左ノ通

「上海其ノ他各重要都市ニ於ケル上下一般ノ對日的觀測カ今ヤ日獨協定ニ依リ一變セリ即チ日本ハ獨逸及伊太利等

ト親交ヲ確立セル爲自然支那カ日本ニ敵對セハ獨伊ノ敵タル英、露、佛ハ支那ヲ支持スヘキコト西班牙革命ノ經過ニ徴シ明白トナリ現ニ五中全會ニ於テハ蔣介石カ「エチオピア」カ無慘ニモ伊太利ニ蹂躪サレタル引例ヲ以テ支那ノ對日輕舉ヲ戒メタルカ西班牙革命ノ實例ニ依リ右考ハ大修正ヲ要ストノ議論上海有力實業家及「インテリ」ノ間ニ勃興シツツアリ蔣カ陳誠ヲ總指揮トシテ中央八箇師飛行機約四十臺ヲ率キ綏遠ニ赴カシメタルハ前記ノ如キ心理狀態ヨリ敢行セルハ勿論ナルカ唯蔣ハ先ツ華北ニ於ケル衝突ハ覺悟ノ前ナルモ出來得ル限り全局面ノ交戦ヲ避ケントスルモノノ如シ

②他方英、佛、露ノ關係アル地方即チ兩廣、雲南、西北一帯ハ支那トシテ最防備ニ易ク自然早クモ自分ノ今次旅行ヲ以テ中國銀行等ノ奧地引揚仕度ニアラスヤトノ觀測同方面銀行家ノ間ニモアリシ程ナリ唯注意スヘキハ各地方トモ現銀漸次集中セラレ正確ノ數字ハ擧ケ難キモ準備金餘程増加シ當分ノ間相當額ノ紙幣増發ニハ困ラサル實情ニテ之亦前項ノ支那側強硬心理ヲ強ムル一因タリ

③此ノ形勢ヨリセハ交渉等出來得ル筈モナク支那トシテハ

111

昭和11年12月2日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

綏遠事件への関東軍関与に對し外交部が對日
抗議方決定した旨および同事件による南京交
渉決裂の懸念を高宗武内話について

南京 12月2日後發
本省 12月2日夜着

第九九〇號
大使ヨリ

本二日須磨高宗武會談要領左ノ通

一、須磨ヨリ交渉促進ニ關スル支那側ノ措置振ヲ質シタルニ
高ハ國際上ノ情勢並ニ國內ノ困難ナル事情ノ如何ニ拘ラ
ス蔣介石ニ於テ此ノ際交渉ヲ兎モ角纏メ置クニアラサレ
ハ一方聯露論者ニ引摺ラレ漸次露支間ノ退引ナラサル關
係ヲ生スルコトナルヘク他方日支間ノ全面的衝突モア
リ得ヘキ旨ヲ述ヘ此ノ際極秘裡ニ話ヲ纏メ置ク様二十八
日長文ノ電報ヲ蔣介石ニ發スルト共ニ上海ニ於ケル某有
力者ヨリモ(吳鐵城ノコトカ)同様蔣ニ直接電報セシメタ
ル次第ハアルモ既ニ支那部内ニハ全面的ニ交渉ニ反對シ

其ノ責任ニ歸スルカ如キ決裂ノ方法ハ飽迄避ケ唯何トハ
ナシニ交渉ヲ立消トスル肚ナルハ當然ニシテ之ニ對スル
方法ハ誰ニモ先ツ考ヘ付カス假ニ蔣介石ノ意中決スル所
アルモ高宗武カ行ケハトテ解ラウ筈モナシ

④上海ニ於テ宋哲元、韓復榘、閻錫山等ニ對シ蔣介石ノ意
嚮ヲ傳達聯絡ニ當リ居タル某要人(鹿鍾麟ノコトカ)ノ内
話ニ依レハ蔣ハ右三者ノ意嚮ヲ確メタル上ニテ決意ヲ爲
セルモノノ如ク即チ北支一帯ハ當分ノ間經濟合作位ノ名
目ノ下ニ日本トノ正面衝突ハ避クル様學生團等ヲ指導ス
ヘキモ苟モ行政ノ統一等ヲ著シク阻害スル場合ニハ飽迄
之ニ協力一致對抗スルコトニナリ居リ殊ニ王英、李守信
等ハ馮玉祥等ヲ通シ所謂内蒙軍政府ノ武器ハ關東軍ノ參
謀等カ密輸等ニ依リ得タル金ニテ物ニシタルモノヲ供給
セルモノナル旨ヲ述ヘ内々投降ヲ申述ヘ居ル關係モアリ
關東軍ト直接正面衝突ノ場合トモナラハ格別今ノ處飽迄
内蒙軍ヲ潰滅セシムル決意ノ如シ要スルニ形勢ハ日本ノ
出方一ツニ依ルモノト觀測セラル

支、北平、在支各總領事、滿ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

自分ヲ浙江省民政廳長ニ轉セシムル話チ上リ朱家驊ヨリ
直接自分ヲ説得セシムル迄ニ至レル實狀ニテ若シ自分ノ
拒絕ニ拘ラス右實現セハ實際ノ處交渉ノ繫ハ斷絶スル譯
ナリト述ヘタリ

⑤次ニ高ハ段茂瀾ハ三十日歸任セルカ其ノ齎セル文獻等ニ
依レハ關東軍側ノ策動動カスヘカラス自然外交部内ニ於
テハ右等ノ證據ニ基キ日本ニ嚴重抗議方略々方針決定シ
居タルカ昨一日自分ヨリ反對意見ヲ出シ部長ノ歸寧ヲ俟
チ決裁ノコトトナリタル處段ト同行セル程滄波ハ今夜着
寧スヘク自分ハ其ノ報告モ徴シタル上ニアラスハ抗議等
無益ナリト述ヘタル處

恐ラク程ト雖黨部ノ有力者ナレハ略段ト同様ノ報告ヲ爲
スヘク自然交渉促進ノ材料トハナラサルヘシト述ヘタル
上支那軍部ハ既ニ綏遠ニアル三箇師ノ中央軍ヲ察哈爾ニ
入ルルニアラスハ蒙古軍潰滅ノ計畫立タストテ右實行ノ
手筈ナル處ニテ日本側ハ異議ナカルヘキヤト尋ネタル
ニ依リ須磨ヨリ元來察哈爾ニハ支那軍隊ヲ入レサルコト
ニ軍部ト秦德純トノ間ニ話合アリシト記憶スルカ我方ハ
滿洲國ノ治安ニ影響スル事態トナラハ直ニ重大ナル事態

ヲ招來スル結果實際行動ノ必要モ生スヘク旁々中央軍ノ察哈爾入等ヨモヤ蔣介石ニ於テ敢テセサルヘシト應酬セリ

三、須磨ヨリ御互ノ間ニ於テハ實ノ處話合殆ト成立シ居ル位ナルモ結局ハ大使、張群ノ間ニ之ヲ纏ムルコト必要故至急張群ヲシテ右會談ヲ承諾セシメラレ度シト述ヘタルニ高ハ承諾セルカ其ノ際ハ必ス張ヨリ綏遠ノ事態ニ付詳細申出ツヘキ處之ヲ本トシ喧嘩別トナルコトヲ俱ルト繰返し居タルカ須磨ヨリ我方トシテハ交渉ヲ促進スル以外目的ナク支那側ヨリ右ニ關係ナキ綏遠事情ヲ言出セハトテ問題ハナカルヘキ旨ヲ以テ明三日中位ニ會見實行方申入レ置キタリ

112

昭和11年12月4日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

張群と會談の結果同人に交渉妥結の誠意が認められず交渉終結措置実施について

付記 昭和十一年十二月五日付、作成局課不明

「南京交渉ニ對スル今後ノ方針」

テ本使ト部長トノ間ニ於テ又須磨ト高トノ間ニ於テ既ニ意見ノ合致ヲ見タル點ヲ取纏メ判然タルモノトシ併テ本使ノ態度ヲ明カニシ度ク
茲ニ今日迄話合ヒタル結果ヲ各項目ニ分チ逐一申上クヘキカ之ハ書物トシ寫ヲ用意シ置キタルニ付外交上ノ慣例ニ依リ寫ヲ交付スヘシト念ヲ押シタル後往電第九五八號、第九五九號及第九六〇號ノ通り書物ヲ讀上ケ之ヲ以テ本日迄ノ正式會談ハ結末トセルコトトシ具體的結末ニ至ラサリシモノニ付テハ之ヲ將來ノ交渉ニ殘シ其ノ他ノモノニ付テハ今後引續キ必要ナル事務的手續ヲ完了スルコトト致度ク尙排日取締ニ付テハ支那側ニ於テ其ノ實績ヲ舉クルコトヲ期待シ我方ニ於テハ常設的機關ヲ設ケ調査、監視ニ當リ必要アレハ警告ヲ發シ若シ支那側ニ於テ其ノ責任ヲ回避スルカ如キ場合ニハ已ムヲ得ス自衛ノ爲必要ナル手段ヲ講スルコトアルヘキ旨聲明スル次第ナルカ成都事件ニ引續キ發生セル北海事件、上海事件、漢口事件等ニ付テハ既ニ須磨ヨリ高司令長ニ夫々解決條件ヲ提出セシメ置キタルニ付(往電第九八九號)本使ハ更メテ之カ至急解決方申入ルルト共ニ引續キ右ニ關スル交渉ヲ進ムル

南京 12月4日前發
本省 12月4日前着

第九九八號

往電第九九四號ニ關シ

川越大使ヨリ

本使三日午後七時半須磨、清水ヲ帶同シ十時迄張群(高司令長、董科長同席)ト會見セル處

一、本使ニ於テハ御訓令ノ趣旨ヲ体シ張ノ出方ヲ見テ最後ノ努力ヲ試ミントシタルカ張ハ頭ヨリ交渉ノ話合ニ入ルヲ拒ミ本使ト長ラク會見シ得サリシハ綏遠問題ノ爲空氣惡化シタルカ爲ナルカ殊ニ本日ハ青島ニ於テ事件勃發セル報アリ此ノ狀態ニテハ到底交渉ヲ繼續シ難シトテ極力本使ノ發言ヲ遮ラントシ其ノ態度ハ到底圓滿ニ話合ヲ爲シ難キ狀態ナリシ爲遂ニ往電第九四八號ノ通りノ筋ニテ話合ノ結末ヲ付ケサルヘカラサル破目ニ陥リタリ

二、依テ本使ハ成都事件勃發以來ノ交渉ノ經緯ヲ述ヘタル上最近ノ如ク交渉ト無關係ナル事項ヲ支那側ヨリ持出シテ會談進行シ得サル狀態ニ立至リタル上ハ此ノ儘日ヲ過スコトハ兩國ノ爲面白カラサルニ付本使ハ是迄ノ會談ニ於

様致度シト述ヘ終リ前記書物ノ寫ト本使ノ口上ノ寫トヲ張ニ手交セリ

三、張ハ本使ノ口上ヲ聞キ終ルヤ御話ノ次第ハ確ニ承リタルカ此ノ書物ハ日本側ノ都合好キ點ノミヲ掲ケ從來話合ハサリシ排日監視機關設置ノ如キ事項ヲモ記シ殊ニ支那側ニ於テ要求セル事項ヲ洩ラシ居リ到底受取り難シト突返シタルカ本使ヨリ右ハ本使ノ口上ヲ其ノ儘「メモ」トシテ手交スルモノニテ右ハ外交上ノ慣例ニシテ何等異トスルニ足ラス又書物中雙方ノ言分ト事實相違ノ點ハナキ筈ナルカ若シアラハ指摘セハ足ルコトニテ内容ヲ云々シテ受領ヲ拒ムハ謂レナク本使ノ話ヲ聞キタル以上之ヲ返却スルノ法ナシト說示シタルモ張ハ從來友好ナル精神ト誠懇ナル態度ヲ以テ話合ヒ來リタル問題ヲ突然斯ル形式ニテ一方のニ結末ヲ付ケラルルコトハ我方ニ於テ了解シ難ク斯ル書物ヲ受取ルコトハ自分ノ立場上極メテ困難ナルノミナラス國民政府トシテモ受人レ難シト執拗ニ書物ヲ突返サントシ須磨ヨリモ斯テハ全ク外交上ノ儀禮ヲ缺キ本使ノ面子ヲ無視スルハ勿論曩ニ許大使ハ有田大臣ニ對シ北支防共問題ヲ後廻トセラルルニ於テハ其ノ他ノ項目

ハ話合ノ通り決定シテ差支ナキ旨張部長ノ訓令ナル趣ヲ以テ繰返シ述ヘタル事實ヲ指摘シ今日日本使ノ述ヘタル所ハ極メテ穩健ナル態度ヲ以テ雙方意見ノ合致ヲ見タル點ヲ擧ケ合致セサルモノハ支那側ノ希望通り

(4) 今後ノ交渉ニ讓ルト言フ建物ニテ一先ツ話ノ梟ヲ付ケタルモノニテ支那側ヨリ寧ロ感謝セラレテ然ルヘキニアラスヤト種々説得シ張ハ書物ノ持歸リヲ繰返シ哀願シ暫ク押問答ヲ爲シタルカ兎ニ角右寫ヲ殘シ何等相談シ度キコトアレハ明日更メテ須磨ト高トノ間ニ於テ話合ヲセシムヘシト告ケ引揚ケタリ

四 右會見ニ於ケル張ノ態度ヲ見ルニ張ハ初メヨモヤ我方ヨリ交渉結末ノ話ヲ切出スモノトハ豫想シ居ラサリシモノノ如ク本使ノ口上然ルヤ張ハ本日ハ交渉ノ話合ヲ爲ス用意ナシト兜ヲ脱キ極メテ狼狽セル様子ニテ前記ノ如ク「メモ」ノ受領ヲ拒ミ終ニハ本日ノ會見ニ於テ交渉ノ話合ヲ爲スコトハ政府ヨリ訓令ヲ受ケ居ラス等ト苦シキ辯解迄爲シ(本使ヨリ部長ハ本使トノ會見ニ一々政府ノ訓令ヲ仰クモノナリヤト詰リ張モ默セリ)最後ニハ今次ノ交渉永引キタルハ遺憾ニ堪エサルモ故意ニ遷延セル譯ニ

交渉ノ成果ヲ支那側ニ押シ付ケ之カ容認及ヒ實行竝ニ細目交渉進行ハ支那側ノ責任ニ屬ストノ態度ニ出テタル次第ナリ即チ右川越大使ノ措置ニ依リ我方トシテハ交渉ヲ打切りタルモノニ非サルモ支那側ノ不誠意ニ依リ本件圓滿ナル交渉ノ進行ヲ期待シ得サルコト明カトナレルヲ以テ從來ノ如ク我方ヨリ支那側ニ話ヲ持チ懸ケ一々之ヲ容レンコトヲ求ムルノ態度ヲ茲ニ清算シ交渉進行ニ對スル誠意ト責任トヲ支那側ニ負ハシムルノ嚴然タル我立場ヲ明示シタル次第ナルヲ以テ今後ハ左記方針ニ依リ善處スルヲ適當ナリト認ム

ニ方針

(一) 交渉進行ニ對スル責任ハ支那側ニアリトノ嚴然タル立場ヲ飽迄把持シ敢テ我方ヨリ交渉促進ニ焦慮スルカ如キ態度ヲ執ラス

(二) 然レ共支那側ヨリ話ヲ持チ懸ケ來ルトキハ事件自体ノ解決問題タルト將又國交調整ニ關スル問題タルトヲ問ハス之ニ應シ交渉ノ促進ヲ期ス

但シ從來我方決定ノ交渉方針ニ反スルカ如キ交換條件(綏東問題、青島揚兵問題、北支自由飛行問題等ヲ持

ハアラサルニ付今後空氣ノ良クナルヲ俟チ更ニ御互ニ口頭ヲ以テ話合ヲ繼續スルコトト致度ク自分ノ困難ナル立場ニハ是非同情アリ度シト泣付キ來リタル程ナルカ本日ノ會談ハ全ク虛ヲ衝カレタルモノト見エ交渉ニ關スル實質的ノコトハ何等反駁ヲ加フル違モナク結局書物ノ遣取リノ爭ニ相當時間ヲ費シタルノミナルカ書物ノ返還ヲ固執セルハ之ニ依リ或ハ外交部長カ交渉決裂ノ責任ヲ負フノ始末トナルヲ惧レタルニ依ルヘキカ書物中ニハ例ヘハ張カ最嫌カリ居レル「國策ノ一大轉換云々」等ノ記載アルニ困惑セル點ニモ依ルヤニ印象セラレタリ

(付記)

南京交渉ニ對スル今後ノ方針 (一一、一二、五)
一、説明

南京交渉ハ交渉進行ニ連レ支那側ノ態度愈硬化ノ一路ヲ辿リ此ノ儘ニテ進ムニ於テハ支那側ヨリ交渉打切りノ態度ニ出ツル虞愈々濃厚トナリタルヲ以テ茲ニ我方ヨリ先手ヲ打チ從來ノ交渉ニ於テ支那側ヨリ得タル言質ヲ取纏メ之ヲ「メモ」トシテ三日夜張群ニ手交シ我方ノ認ムル

チ出シ來ル等依然不誠意ノ態度ニ出テ來ルトキハ前記我方ノ嚴然タル態度ヲ明示シ之カ討議ヲ拒否シ反省ヲ求ムヘキコト勿論トス

(三) 前記我方態度ヲ明ニスル爲川越大使ハ此ノ際一應南京ヲ引揚ケ高宗武等ヨリ持チ懸ケ來ルコトアルヘキ前項交渉促進ニ關スル話合ハ在南京總領事館ニ於テ之ニ當ル

113 昭和11年12月4日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

南京交渉終結措置實施後の中国側動靜に關する
高宗武内話について

南京 12月4日後発
本省 12月4日後着

第九九九號

往電第九九八號ニ關シ

川越大使ヨリ

高宗武ハ四日朝清水ニ對シ昨夜ノ大使、張群ノ會談ニ於テ大使ハ極メテ立派ナル態度ヲ以テ臨マレタルニ對シ張郡ハ

元々小心ナル上當夜ハ何日ニナク興奮シ居リ妙ナコトマデ口走ル様ノ始末ニテ傍ニ居タル我々モ誠ニ困リタル次第ナルカ當夜ハ張モ黃郭見舞ノ爲ニ上海行ノ豫定ヲ變更シ午前一時迄關係係官ト共ニ善後措置ヲ協議セリ尙同三時ニハ行政院各部長參集シ自分(高)ヲ呼出シテ其ノ説明ヲ求メタルニ付自分ハ日本側トシテハ一ニハ交渉促進ノ爲ニ二ニハ對内關係上一應交渉ノ締括ヲ付ケルコトヲ得策ト思惟シタル爲スル方法ヲ選ヒタルモノト案セラルル旨ヲ説明シ部長連ニ於テモ別段ノ議論ナク一方日本側ノ新聞發表ヲ見ルニ極メテ穩健妥當ニテ交渉決裂ノ感ヲ懷カシメス寧ロ其ノ圓滿進行ヲ暗示シ居リ之ニテ自分等モ安心シタル譯ナルカ何レ五日頃ニハ須磨總領事ニ面會シ度ク今後ノ折衝ニハ依然努力ヲ續ケ度キ心算ナリト内話セル趣ナリ

114 昭和11年12月4日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

川越大使の口上書は事実と符合しないため受領を拒否する旨の外交部新聞発表について

115 昭和11年12月5日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都および北海兩事件を解決し国交調整への熱意を示すよう高宗武へ説示について

南京 12月5日後発
本省 12月5日夜着

第一〇〇八號(至急、極秘、交渉)
往電第九九八號ニ關シ

本五日本官高宗武トノ會談左ノ通り

「先ツ高ヨリ三日夜ノ會見ニ於ケル張群ノ外交部長トシテアル間敷キ態度ニ付テハ自分等モ呆レ返リタル次第ナルカ當夜三時ニ開催セル各部長ノ緊急會議ニ對シ自分ヨリ説明ノ要ヲ生シタル際日本側カ今回ノ如ク交渉ニ一區切リヲ付クルニ至リタルハ日本内政上此ノ上遷延ヲ續ケ得サル關係モアリ旁交渉促進ノ爲執リタル已ムヲ得サル手段ト解スヘキヲ述ヘ從テ張部長カ大使ノ書物ヲ返ストカ内容上事實相違ノ點アルニ付受取り難シトカ應酬シタルハ決シテ國交調整ヲ達成スル所以ニアラスト率直ニ報告シタル關係モアリ各部長ニ於テモ漸ク張群ノ手ニテハ非

南京 12月4日後発
本省 12月4日夜着

第一〇〇一號(極秘扱)
往電第九九八號ニ關シ

川越大使ヨリ

外交部ニ於テハ三日夜會談終リタル後四日午前一時頃各新聞通信員ヲ集メ「三日午後七時半川越大使ハ張部長トノ會談ノ際日支交渉開始以來雙方話合ノ要點ヲ記録シタル書物ヲ取出シ讀上ケタル後之ヲ張部長ニ手交シタルカ張部長ハ其ノ内容事實ト符合セサル爲受取ヲ拒絕シタル處川越大使ハ強ヒテ之ヲ殘シ辭去セリ依テ張部長ハ即刻使者ヲシテ同書物ヲ日本大使館ニ返還セシメタリ」トノ發表ヲ爲シ四日朝ノ各支那紙ニ掲載セシメタリ

同書物ハ四日午前四時頃須磨宛返送越シタルニ付右ハ外交儀禮ニ反シ受領ノ限りニアラストノ書翰ヲ附シ高宗武ニ送返シ置キタリ
支ヘ轉電セリ

常時外交ハ困難ナラント言ヒ出ス者アリ自然張部長自身モ昨四日頃ヨリ會談中ノ態度カ醜態ナリシニ多少ナリ氣付キ出シタルモノト見エ今朝モ自分ニ對シ張公權ヨリ其ノ趣旨ノ話アリタル程ナリ

二、王參事官ハ本日洛陽ニ赴キ蔣介石ニ委曲報告ノコトナレルニ付自分ヨリ三日夜會談ノ狀況ヲ詳シク傳言方依頼シ置キタルカ張部長ノ在ル間ハ事實國交調整等出來難キ見据餘リニモ明白トナレルニ際シ昨四日朱家驊ヨリ又候浙江省政府入リヲ勸メラレタルカ今回ノ話合文ケナリトモ或所迄片付クヘキ責任自分ニアルヲ痛感シ明白ニ朱ノ申出ヲ拒絕シ今後モ從前通り折衝シ行クヘシト述ヘタリ
三、依テ本官ヨリ眞先ニ成都及北海ノ兩事件ヲ片付ケ支那側ハ多少ナリトモ誠意ヲ以テ會談ノ結末ヲ實行スルノ熱意アルコトヲ日本政府ニ示スコト絶對必要ニシテ御話ノ如ク張群ニ外交部長トシテ醜態アルニモセヨ我方トシテ之ヲ相手トスルノ外ナク其ノ更迭アルヲ俟ツ等ハ出來サル丈ケニテモ來週中ニハ片付ケ得ル様責任ヲ以テ手配方申入レタルニ高ハ承諾シ來週早々會談開始ノコトニ打合せ

タリ
支、在支各總領事、北平へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

116 昭和11年12月7日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

川越大使口上書は南京交渉の正確な記録では
ない旨を外交部声明について

南京 12月7日後発
本省 12月7日後着

第一〇〇九號

往電第一〇〇一號ニ關シ

五日高宗武ハ本官ニ對シ我方ヨリ送返シタル川越大使口上書及覺書ハ確ニ受領ノ上同人ニ於テ保管中ナリト述ヘ居タル處外交部ハ更ニ本日附半公信ヲ以テ右書物ハ過去ニ於ケル雙方話合ノ正確ナル記録ニアラサルヲ以テ何等證據ト爲シ能ハサル旨重ネテ聲明スト申越シタルニ付折返シ本官ヨリ右文書ノ性質等ニ付テハ既ニ三日會談ノ際大使ヨリ張部長ニ對シ篤ト説明済ナルニ付右ニ了承アリ度キ旨回答シ置

キタルカ本七日支那側各紙ハ右外交部聲明ノ次第ヲ一齊ニ掲載シ居レリ
支へ轉電セリ

117 昭和11年12月9日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

南京交渉終結が世論を刺激しないよう注意し
今後事務的折衝を継続したき旨高宗武表明
について

南京 12月9日後発
本省 12月9日夜着

* 第一〇一七號

(1) 本官發支宛電報

第一〇〇一號

大臣宛往電第一〇一〇號ニ關シ

本八日高宗武ハ本官ニ對シ自分トシテハ日本側ノ三日ノ聲明カ如何ニモ堂々ト且穩カナル内容ナルニ付支那側ヨリハ何等聲明發出ノ必要ナシトノ意見ナリシカ張部長ハ内政上必要ナリトテ冒頭往電ノ如キ聲明ヲ發スルコトナレルカ

118 昭和11年12月11日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

南京交渉に関するわが方声明をめぐる中央政

治會議の討議状況について

付記 昭和十一年十二月十日公表

「南京交渉ノ現状ニ關スル外務當局談」

南京 12月11日後発

本省 12月11日夜着

* 第一〇二一號

本官發支宛電報

第一〇〇五號

往電第一〇〇一號ニ關シ

本十一日續行ノ答ナリシ會談ヲ今朝ニ至リ高宗武ヨリ準備整ハサルヲ名トシテ明日ニ延期方通知越シタル處一方本日陳樹人ノ本官ニ對スル内話ニ依レハ昨日ノ中央政治會議ニ於テ大臣來電合第九七七號我方聲明問題トナリ張繼ヨリ張群ニ對シ右力真相ナリヤト迫リタルニ張ハ日支會談ニ付テハ行政院會議ニ詳細報告シ居リ日本側ノ聲明アリタリトテ中政會議ニテ蒸返ス程ノ値打モナシト逃ケタルニ張繼ハ日

本側聲明ニ相違ノ點アラハ速急反駁シ置クコト必要ナル旨繰返シ切言シタルモ張群ハ何等要領ヲ得サセス會議ハ無氣味ナル空氣ノ裡ニ結了シタル次第モアリ成都事件ノ解決ノ如キモ速急ニハ行カサル模様ナリトノコトナリ

(付記)

南京交渉ノ現状ニ關スル外務當局談

(十二月十日公表)

成都其ノ他今次排日不祥事件ニ關スル日支交渉ノ經緯ニ就テハ十二月三日在支大使館ニ於テ聲明スル所カアツタカ、茲ニ今次交渉ニ當リ帝國政府ノ執リ來ツタ方針竝ニ右交渉ニ對スル政府ノ見解等ヲ明白ニシタイノテアル。

一、八月二十四日成都ニ發生シタ邦人記者虐殺事件ハ多年南京政府ニ於テ執リ來ツタ排日教育及排日の政策ノ當然ノ歸結ト云フモ過言テナイコトハ本事件發生ノ經緯竝ニ事件ノ内容ヲ知悉スル者ノ盡ク首肯スルトコロテアル。從ツテ其ノ源ヲ清ムルニアラサレハ、只一片ノ睦隣令ヲ以テ能ク同種事件ノ再發ヲ防止シ得サルコトハ、成都事件ト踵ヲ接シテ九月三日北海事件、同十七日漢口事件、更

或ハ高亞州司長トノ間ニ二十數回ノ折衝力重ネラレタ結果、概略左記カ我方ノ提案ニ對スル南京側ノ意嚮テアルコトカ判明シ交渉ノ將來ニ對シテ大體ノ見透シヲ着ケ得ルニ至ツタノテアル。

即チ排日取締問題ニ關シテハ、國民政府ニ於テ自發的ニ一切ノ排日ヲ根絶シ、且黨部其ノ他如何ナル團體タルヲ問ハス其ノ一切ノ排日の策動ニ付國民政府ニ於テ責任ヲ負フト共ニ、排日取締命令ノ徹底、排日教科書ノ改訂、排日言論ノ取締等ニ付進ムテ必要ノ措置ヲ執ルヘキ旨ヲ言明シ、又國交調整問題中防共問題ニ關シテハ、全般的ニハ遂ニ話合カ成立スルニ至ラナカツタカ或ル部分ニ關シテハ意見ノ一致ヲ見タ點カアリ、又北支ノ問題ニ關シテモ日支協力シテ不取敢經濟ノ開發ヲ計ルヘキ原則ニ付話合カ纏ツタ。其ノ他ノ懸案事項ニ關シテハ日支間航空聯絡問題ニ就キ多少ノ問題カアツタノヲ除ケハ顧問ノ傭聘、不逞鮮人ノ取締、關稅ノ引下等ニ付イテ既ニ意見ノ一致ヲ見タルノミナラス、事件自體ノ解決ニ關シテモ南京政府ハ大體我方ノ要望ヲ容レ成都總領事館モ亦近ク再開ヲ見ルヘキ形勢トナツタ。

二十三日上海事件等カ連續發生シタ事實ニ徴スルモ明カテアル。仍テ帝國政府ニ於テハ此等排日不祥事件ニ關スル交渉ニ當ツテハ、通常ノ支那ニ於ケル殺人傷害事件トシテ取扱ヒ單ニ事件自體ノ解決ヲ計ルコトノミヲ以テ満足セス、更ニ進テ南京政府ヲシテ此等不祥事件ノ再發ヲ防止セシムル爲ノ將來ノ保障トシテ此ノ際根本の方策ヲ講セシムルコトカ肝要テアルト思考シ、之カ爲先ツ事件發生ノ根本原因タル排日策動ノ取締ニ關シテ南京政府カ誠意實行ニ當ルコトヲ要求スル一方、防共問題及北支問題等兩國國交ノ調整ニ直接關係アル問題ノ外、航空連絡、顧問ノ傭聘、不逞鮮人ノ取締、關稅ノ引下等日支間多年ノ懸案事項ヲモ解決シ、仍テ以テ消極的ナル排日取締ヨリ一步ヲ進メテ排日策動ノ原因タル南京政府ノ對日態度ヲ是正スルト共ニ、日支國交改善ニ關スル同政府ノ誠意ヲ具體的ノ問題ニ付表示スルコトヲ慫慂シ來ツタ次第テアル。

二、右ノ如キ政府ノ方針ニ基キ、九月八日須磨總領事ト張外交部長トノ間ニ豫備的會談カ開始セラレテ以來、川越大使ト張外交部長トノ間ニ七回、須磨總領事ト張外交部長

然ルニ其後南京政府ニ於テハ時偶々緩東問題ノ起ツタノヲ口實トシ同問題ノ解決セサル限り南京交渉ヲ成立セシムルコトハ困難テアルト申出テ既往ノ話合ヲモ否認セントスルカ如キ態度ヲ示シ、川越大使ノ屢次ノ申入ニ對シテモ張部長ハ殊更ニ會見ヲ忌避セムトスルカ如キ有様テアツタカラ同大使ニ於テハ南京交渉ト關係ノナイ事件ノ爲メニ此上交渉ヲ遷延セシムルコトハ事態ヲ紛糾セシムルニ過キスト思考シ、十二月三日張部長ニ面會ノ際同日迄ニ双方意見ノ一致ヲ見タル點ヲ覺書ニ認メ之ヲ手交スルト共ニ南京側カ右話合ノ結果ヲ速ニ實行ニ移サンコトヲ要求シタ。

三、交渉ノ現状ハ概略右ノ通りテアルカラ帝國政府トシテハ右申入ニ對スル南京政府側ノ出方ヲ嚴重見守ルト共ニ、今後同政府ノ措置特ニ排日取締ニ見ルヘキモノナク萬一在支居留民ノ生命財產ノ安全ヲ脅カシ或ハ帝國ノ在支權益ヲ侵害スルカ如キ事態カ發生スル場合ニハ支那現下ノ狀態ニ鑑ミ臨機必要ナル措置ヲ執ル方針テアル。

119 昭和11年12月30日 在中国川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

大使館事務所の南京移転に関する訓令につき通報

上海 12月30日後発
本省 12月30日夜着

第一〇七九號(至急)

本官發在支各領事及香港北平宛電報

合第一〇一〇號

今般外務大臣ノ御訓令ニ基キ昭和十二年一月一日ヲ期シ
當在支大使館ハ左記辦法ニ依リ南京ニ移轉スルコトナリ
タルニ付テハ右御含ノ上當館宛發電發信等ハ總テ之ニ據ラ
レ度シ

一、部外ニ對スル關係ニ於テハ大使館上海事務所ハ前記日附
ヲ以テ南京ニ移轉セル建前ヲ取ル尤モ内部關係ニ於テハ
暫定的ニ上海ニ大使館員ヲ殘シ右ト南京大使館トノ事務
分擔ハ概ネ從來通リトス

二、本使ハ隨時南京及上海ニ駐在ス

三、移轉ト同時ニ文書及電信事務ハ次ノ如クス

(一)電信ニ付テハ

(イ)上海及南京ニ於ケル大使館關係電信ノ發信ハ本使ノ
在不在ヲ問ハス總テ本使名義トシ各別ノ追番號ヲ使

用ス(南京ニ新ニ KOSHI NANKING ヲ登録ス南京
大使ノ略號ハ OCK 上海大使ハ OCL トス)

(ロ)本使宛電報ハ原則トシテ南京大使ニ電報シ同時ニ上
海大使ニ直接轉電セラルルカ又ハ南京大使ヨリ轉報
セシメラレ度シ

(二)公信ニ付テハ

(イ)南京及上海ニ於ケル大使館關係公信ハ本使ノ在不在
ヲ問ハス夫々在中國(南京)及在中國(上海)川越大使
ノ名義ニテ各別ノ番號ニ依リ發受ス(但シ發信ニア
リテハ南京發ノモノハ大ノ文字ヲ又上海發ノモノハ
滬ノ字ヲ冠ス)

(ロ)本使宛公信ハ原則トシテ南京大使宛トシ同時ニ寫ヲ
上海ニ送付セラレ度シ尤モ外國新聞ノ切抜等主トシ
テ情報關係事務用ノモノハ上海大使宛送付アリ度シ

(三)南京及上海總領事館發受ノ電信公信ハ從前ノ通リトス

(管下分館、出張所へ轉報アリタシ)

本電宛先北平、香港ヲ含ム在支各公館

大臣へ轉電セリ

大臣ヨリ在滿各公館へ轉報セラレタク然ルヘク在歐米各公
館ニ轉報アリタシ